

四街道市男女共同参画市民意識調査  
報 告 書



平 成 2 0 年 3 月  
四 街 道 市



## 目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査方法	3
3. 調査項目	3
4. 回収率	3
5. 報告書を読む際の注意事項	3
II. 調査結果	5
1. 回答者属性	7
(1) 性別	7
(2) 年代	8
(3) 職業	9
(4) 子どもの有無	10
2. 男女平等に対する考え方について	11
(1) 男女の地位の平等	11
(2) 男は仕事、女は家庭の考え方	28
(3) 男女共同参画社会を進める必要性	30
3. 家庭生活について	33
(1) 家事の分担	33
(2) 子どもの性別と子育てのあり方	51
(3) 介護が必要になったときの対応	61
4. 就業のあり方や現状について	63
(1) 女性の就業のあり方	63
(2) 職場における性別による格差等	69
5. 地域活動への参加について	71
(1) 地域活動への参加の有無	71
(2) 活動に参加している地域活動	73
(3) 地域活動に参加していない理由	75
(4) 今後（引き続き）参加したい地域活動	77
6. 社会生活と家庭生活・地域活動のバランスについて	78
(1) 職業生活と家庭生活・地域活動への関わり方	78
(2) 職業生活と家庭生活や地域活動を両立させるために必要な取組み	80
7. 女性の人権について	84
(1) 女性の人権が侵害されていると感じるとき	84
(2) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無	86
(3) ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験の有無	88
(4) 男女共同参画社会に関する知識	92
8. 自由意見	93
III. 調査票	113



---

# I. 調査の概要

---



## 1. 調査の目的

一人ひとりの人権が尊重され責任を分かち合い、男女がともに個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の形成に対して、市民がどのような意見をもっているのか、「男女共同参画」実現のためにどのようなことを市に求めているのかなどを調査し、平成 21 年度からの次期「男女共同参画推進計画」策定のための基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査方法

- ・ 調査区域 四街道市全域
- ・ 調査対象 市内に居住する満 20 歳以上の男女
- ・ 対象者数 2,000 人 (男女各 1,000 人)
- ・ 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- ・ 調査方法 郵送配布・郵送回収法
- ・ 調査期間 平成 19 年 9 月 1 日～9 月 20 日

## 3. 調査項目

- 男女平等に対する考え方について (問 1～問 2)
- 家庭生活について (問 3～問 5)
- 就業のあり方や現状について (問 6～問 7)
- 地域活動への参加について (問 8～問 9)
- 社会生活と家庭生活のバランスについて (問 10～問 11)
- 女性の人権について (問 12～問 15)

## 4. 回収率

- ・ 配布数 2,000 人
- ・ 有効回答数 823 人
- ・ 有効回答率 41.2%

## 5. 報告書を読む際の注意事項

- ・ アンケート集計は、各設問の単純集計と平成 13 年調査との時系列比較、並びに、性別、性別×年代、職業、子どもの有無と各設問とのクロス集計を行った。
- ・ 表中の比率 (%) は、小数点第 2 位以下を四捨五入している。したがって、率の合計値が 100%にならない場合もある。
- ・ 複数回答については、回答者数を母数とし、比率を算出している。したがって、率の合計値が 100%にならない場合もある。

- ・(標本誤差について) 今回の無作為抽出法による調査の場合は、ここで出された数値(%)をそのまま20歳以上の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じる。統計学的には、次式で標本誤差を計算して、20歳以上の全市民の回答を推測する。(信頼度95%)

図表 I-1 標本誤差の算定式

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 (70,597人\*)

\*平成19年9月現在の20歳以上住民基本台帳人口

n = 比率算出の基数

P = 回答比率

図表 I-2 今回の意識調査(n=823)における回答比率別標本誤差

回答比率	標本誤差
10%または90%	±2.1
20%または80%	±2.8
30%または70%	±3.2
40%または60%	±3.4
50%	±3.5

<参考例:「問1①」の単純集計結果>

問1 あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑦の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

(問1①家庭の中の回答結果)

1. 男性の方が非常に優遇されている ( 9.6%)
2. どちらかといえば男性の方が優遇されている (48.8%)
3. 平等 (33.8%)
4. どちらかといえば女性の方が優遇されている ( 5.7%)
5. 男性の方が非常に優遇されている ( 0.5%)

1. 「男性の方が非常に優遇されている」(9.6%)の場合

\*9.6%(回答の比率P)を図表I-2で最も近い回答比率の10%とすると、その標準誤差は「±2.1%」存在することになる。

\*したがって、20歳以上全市民のなかには、「1. 男性の方が非常に優遇されている」と回答する人が、7.5%~11.7%(9.6%±2.1%)の範囲内において存在するものと推定される。

---

## II. 調查結果

---



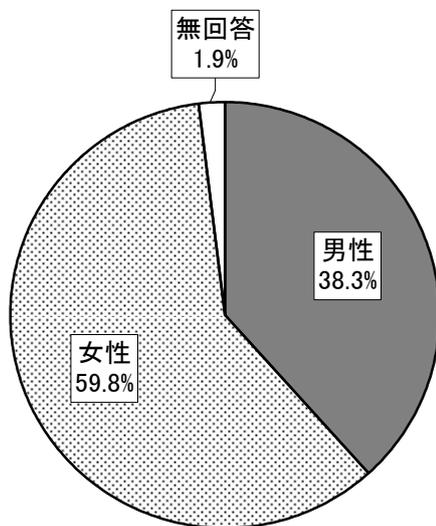
## 1. 回答者属性

有効回答数は823票であり、集計分析に十分な数の回答が得られた。その内訳には、女性が6割、50代と60代が約4分の1ずつを占めるなど、性別、年齢階層にやや偏りがみられた。

### (1) 性別

回答者の性別は、男性が38.3%（315人）、女性が59.8%（492人）となっている。

図表 II-1 回答者の性別

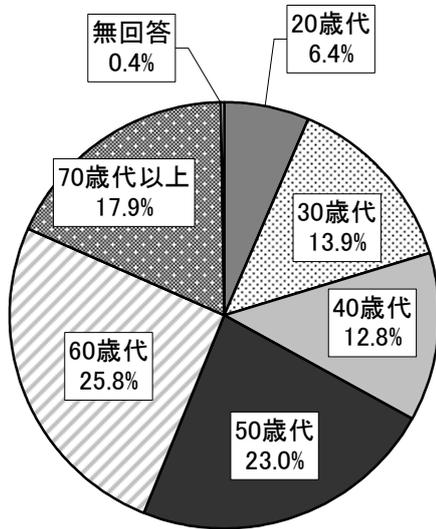


性別	回答数(件)	構成比(%)
男性	315	38.3
女性	492	59.8
無回答	16	1.9
サンプル数	823	100.0

(2) 年代

回答者の年代は、60歳代が25.8%（212人）と最も多く、次いで50歳代が23.0%（189人）、70歳以上が17.9%（147人）、30歳代が13.9%（114人）、40歳代が12.8%（105人）、20歳以下が6.4%（53人）となっている。

図表 II-2 回答者の年代

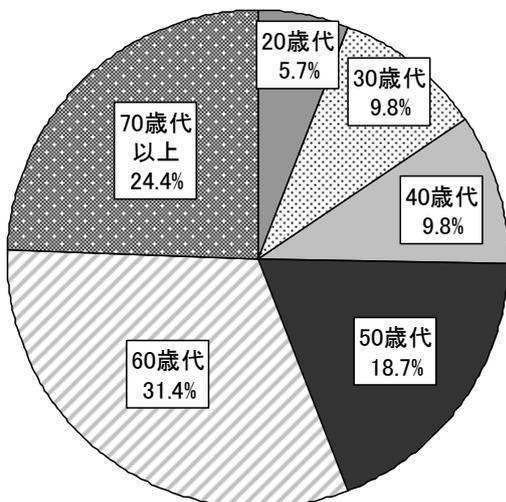


年代	回答数(件)	構成比(%)
20歳代	53	6.4
30歳代	114	13.9
40歳代	105	12.8
50歳代	189	23.0
60歳代	212	25.8
70歳代以上	147	17.9
無回答	3	0.4
サンプル数	823	100.0

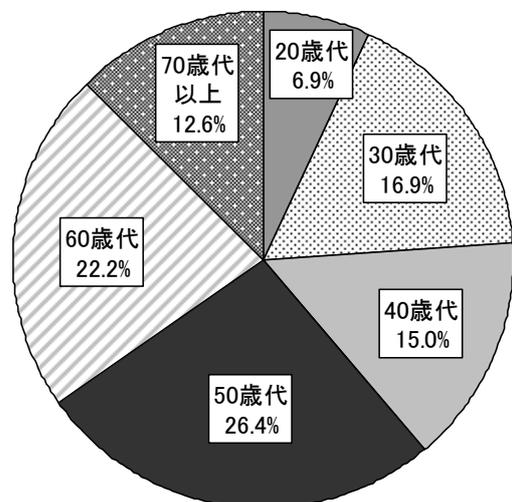
回答者の性別ごとに年齢をみると、男性回答者は（図表 II - 3）、60歳代が31.4%と最も多く、70歳以上（24.4%）、50歳代（18.7%）が続いており、50歳以上が全体の4分の3を占めている。

女性回答者は（図表 II - 4）、50歳代が26.4%と最も多く、60歳代（22.2%）、30歳代（16.9%）が続いている。30～40歳代の割合が31.9%と女性回答者の約3分の1を占めており、男性（19.6%）と比べるとやや多い。

図表 II-3 男性回答者の年代



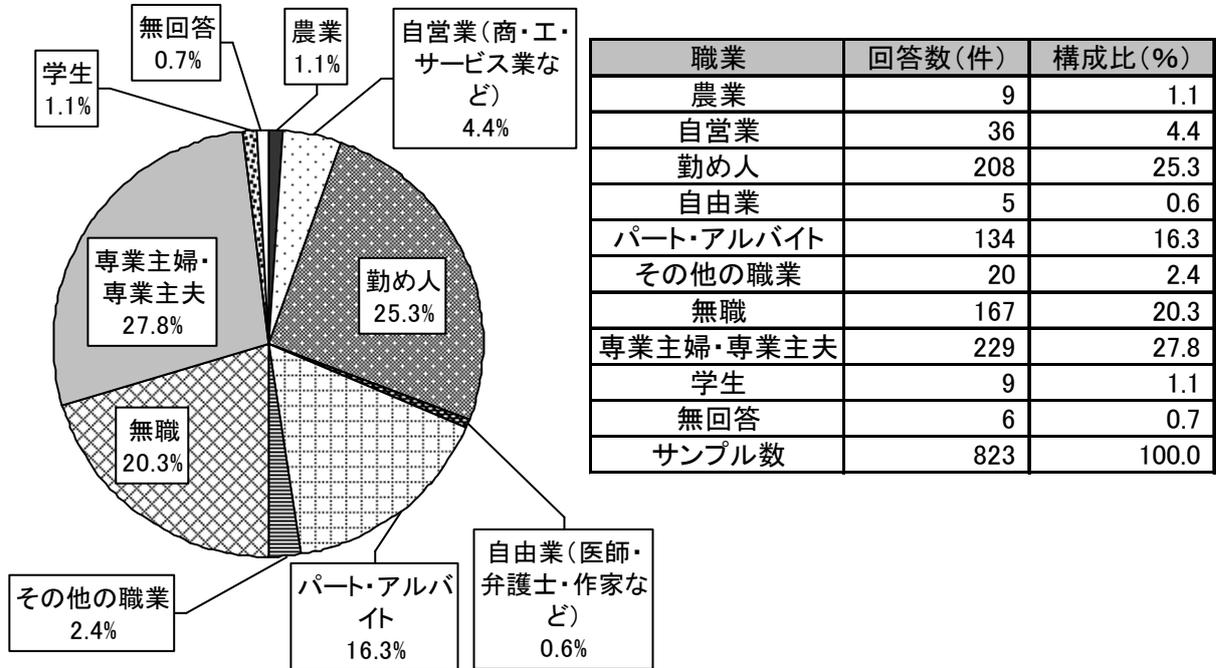
図表 II-4 女性回答者の年代



### (3) 職業

回答者の職業は、専業主婦・専業主夫が27.8%（229人）と最も多く、次いで勤め人が25.3%（208人）、無職が20.3%（167人）、パート・アルバイトが16.3%（134人）などとなっている。

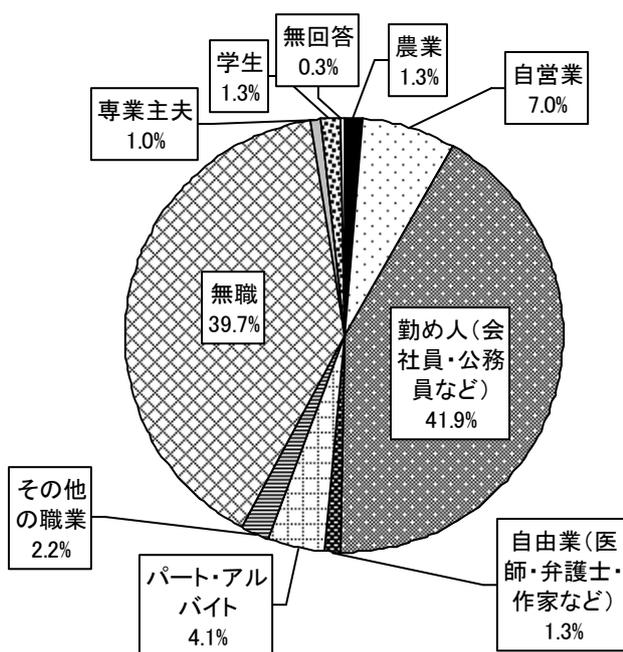
図表 II-5 回答者の職業



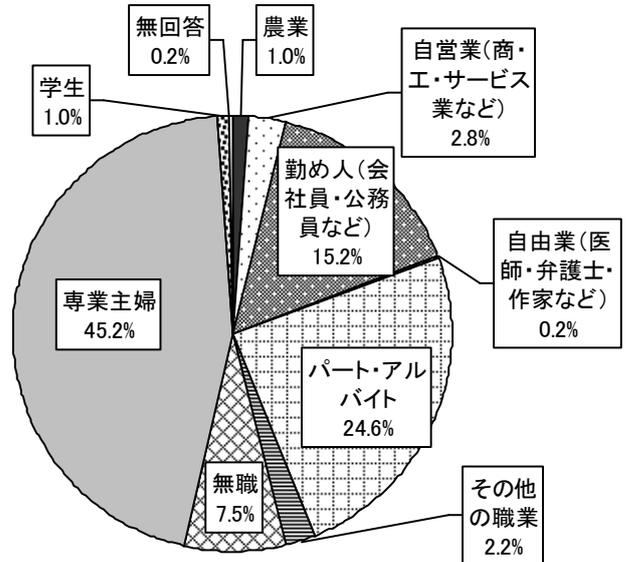
回答者の性別ごとに職業をみると、男性回答者（図表II-6）は、勤め人（会社員、公務員など）が41.9%と最も多く、無職（39.7%）、自営業（7.0%）が続いている。

一方、女性回答者（図表II-7）は、専業主婦が45.2%と半数近くを占めており、パート・アルバイト（24.6%）、勤め人（15.2%）が続いている。

図表 II-6 男性回答者の職業構成比



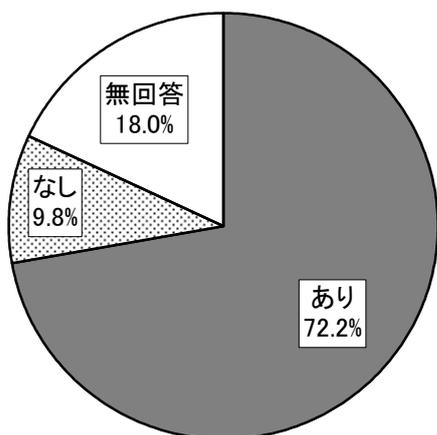
図表 II-7 女性回答者の職業構成比



#### (4) 子どもの有無

回答者の子どもの有無は、「あり」が72.2% (594人)、「なし」が9.8% (81人) となっている。

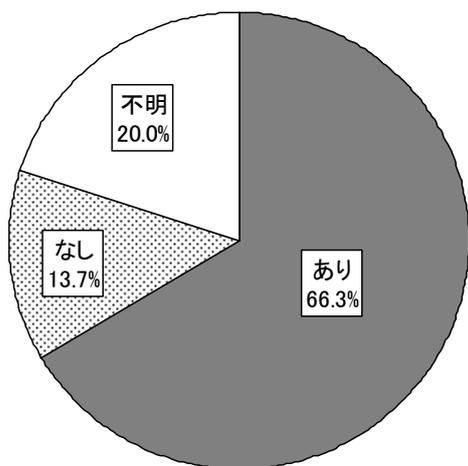
図表 II-8 回答者の子どもの有無



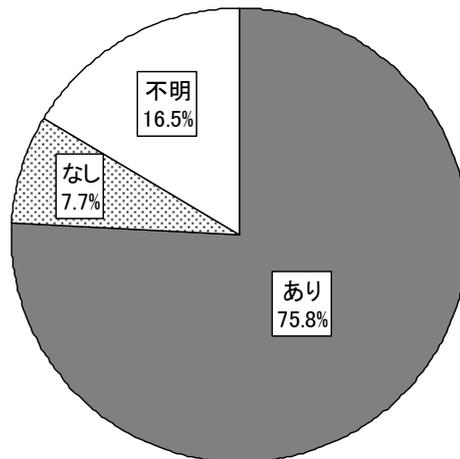
性別	回答数(件)	構成比(%)
あり	594	72.2
なし	81	9.8
無回答	148	18.0
サンプル数	823	100.0

回答者の性別ごとに子どもの有無をみると、「あり」は女性が75.8%と男性(66.3%)より多くなっている。

図表 II-9 男性回答者の子どもの有無



図表 II-10 女性回答者の子どもの有無



## 2. 男女平等に対する考え方について

### (1) 男女の地位の平等

問1 (1) あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
①～⑦の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

#### 要旨

「学校教育」以外の全分野で、男女いずれかが「非常に優遇されている」、「どちらかというに優遇されている」（以下、両者を合わせて「優遇されている」とする）という回答の割合が「平等」という回答の割合を上回り、総じて平等でないという認識が強い。不平等の内容は、いずれの分野でも「女性の方が優遇されている」という回答よりも「男性の方が優遇されている」という回答の方が大幅に上回っている。

男女の回答を比較すると、全分野において、「男性の方が優遇されている」という回答の割合は女性の方が高く、「平等」という回答の割合は女性より男性で高くなっており、女性がより強く不平等、男性優位を感じていることがわかる。

分野別では、「男性の方が優遇されている」という回答の割合が最も高かったのは、「社会通念・慣習・しきたり」（81.5%）、次いで「社会全体」（74.9%）、「政治の場」（72.9%）の順であった。一方、「平等」という回答の割合は、「学校教育の場」（66.2%）が最も高く、次いで「法律や制度の上」（38.2%）であった。

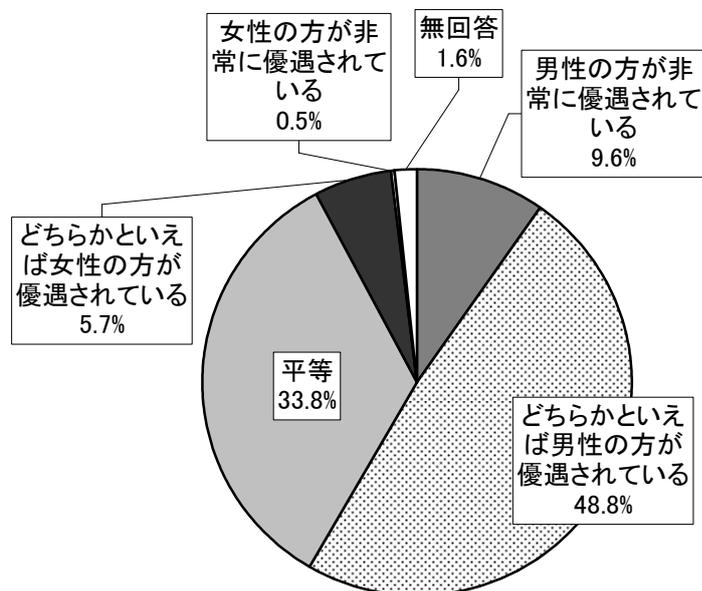
平成13年度調査（以下、「前回調査」）とは、分野と選択肢の設定が完全に同じではないが、全体としては、「平等」と回答した人の割合は前回調査より高くなってはいない。「社会通念・慣習・しきたり」の分野で最も男性優遇感が強いことも前回結果と同様である。

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（平成19年度）」（以下、「内閣府調査」）の同じ問いにおける「平等」という回答の割合と比べると、四街道市民の平等感は、「学校教育の場」以外の全分野で全国より低くなっている。

## ① 家庭生活の中

家庭生活の中における男女平等意識についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」が9.6%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が48.8%であり、両者を合わせると58.4%が“男性の方が優遇されている”としており、“女性の方が優遇されている（女性の方が非常に優遇されている0.5%+どちらかといえば女性の方が優遇されている5.7%）”の6.2%を大幅に上回っている。一方、「平等（33.8%）」は3人に1人の割合となっている。

図表 II-11 家庭生活の中



年代	回答数(件)	構成比(%)
男性の方が非常に優遇されている	79	9.6
どちらかといえば男性の方が優遇されている	402	48.8
平等	278	33.8
どちらかといえば女性の方が優遇されている	47	5.7
女性の方が非常に優遇されている	4	0.5
無回答	13	1.6
サンプル数	823	100.0

家庭生活の中における男女平等意識について性別にみると、男女ともに「男性の方が優遇されている（非常に＋どちらかといえば）」との回答が最も多くなっており、その割合は女性が65.2%と男性（46.7%）より多くなっている。

女性のなかで「男性の方が優遇されている（同）」とみる向きが多いのは、50歳代（70.8%）、60歳代（68.8%）、40歳代（66.2%）と中高年齢者が多くなっている。

男性を年齢別にみると、「男性の方が優遇されている（同）」とみる向きは50歳代（55.9%）、60歳代（50.5%）が5割超と高くなっているが、いずれの年代も女性よりは低水準となっている。男性の20歳代では約8割が「平等」と回答し、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」がそれぞれ1割で相半ばしている。

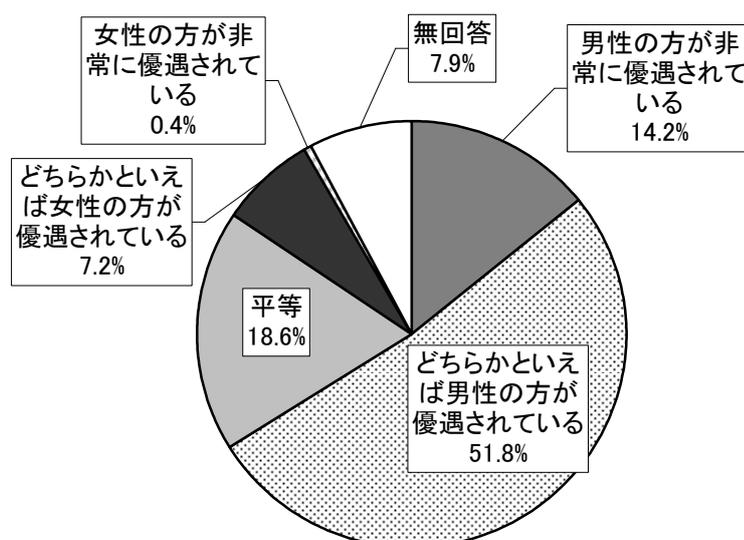
図表 II-12 「家庭生活の中」の性・年代別男女平等意識

	合計	男性の方が優遇			平等である	女性の方が優遇			無回答
		非常に	どちらかといえば	非常に		どちらかといえば			
全体	823	58.4	9.6	48.8	33.8	6.2	0.5	5.7	1.6
【男性】	315	46.7	3.5	43.2	44.8	7.6	0.6	7.0	1.0
20歳代	18	11.1	0.0	11.1	77.8	11.1	0.0	11.1	0.0
30歳代	31	41.9	3.2	38.7	51.6	6.5	0.0	6.5	0.0
40歳代	31	35.5	6.5	29.0	48.4	16.1	0.0	16.1	0.0
50歳代	59	55.9	1.7	54.2	30.5	11.9	1.7	10.2	1.7
60歳代	99	50.5	4.0	46.5	44.4	5.0	1.0	4.0	0.0
70歳代以上	77	49.4	3.9	45.5	44.2	3.9	0.0	3.9	2.6
【女性】	492	65.2	13.4	51.8	27.6	5.5	0.4	5.1	1.6
20歳代	34	50.0	2.9	47.1	38.2	11.7	2.9	8.8	0.0
30歳代	83	63.9	14.5	49.4	26.5	9.6	1.2	8.4	0.0
40歳代	74	66.2	16.2	50.0	29.7	2.7	0.0	2.7	1.4
50歳代	130	70.8	12.3	58.5	24.6	3.8	0.0	3.8	0.8
60歳代	109	68.8	17.4	51.4	24.8	4.6	0.0	4.6	1.8
70歳代以上	62	56.5	9.7	46.8	32.3	4.8	0.0	4.8	6.5

## ② 職場

職場における男女平等意識についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」が14.2%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が51.8%であり、両者を合わせると66.0%が“男性の方が優遇されている”としており、“女性の方が優遇されている(女性の方が非常に優遇されている 0.4%+どちらかといえば女性の方が優遇されている 7.2%)”の7.6%を大幅に上回っている。一方、「平等」は18.6%となっている。

図表 II-13 職場



年代	回答数(件)	構成比 (%)
男性の方が非常に優遇されている	117	14.2
どちらかといえば男性の方が優遇されている	426	51.8
平等	153	18.6
どちらかといえば女性の方が優遇されている	59	7.2
女性の方が非常に優遇されている	3	0.4
無回答	65	7.9
サンプル数	823	100.0

職場における男女平等意識について性別にみると、男女ともに「男性の方が優遇されている（非常に＋どちらかといえば）」との回答が最も多くなっており、その割合は女性が67.9%と男性（62.9%）より多い。

女性のなかで「男性の方が優遇されている（同）」とみる向きが多いのは、40歳代（73.0%）、60歳代（71.6%）、20歳代（70.5%）が7割超と高くなっており、若年から高齢者まで幅広い年代で「男性の方が優遇されている」と感じている。

一方、男性を年齢別にみると、「男性の方が優遇されている（同）」とみる向きは70歳代（74.0%）、60歳代（71.7%）が7割を超えるなど高齢者層で多くなっている。男性の20歳代では約4割が「平等」と回答し、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（27.8%）」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている（33.3%）」は3割前後と他の年代と比べて差が僅少であった。

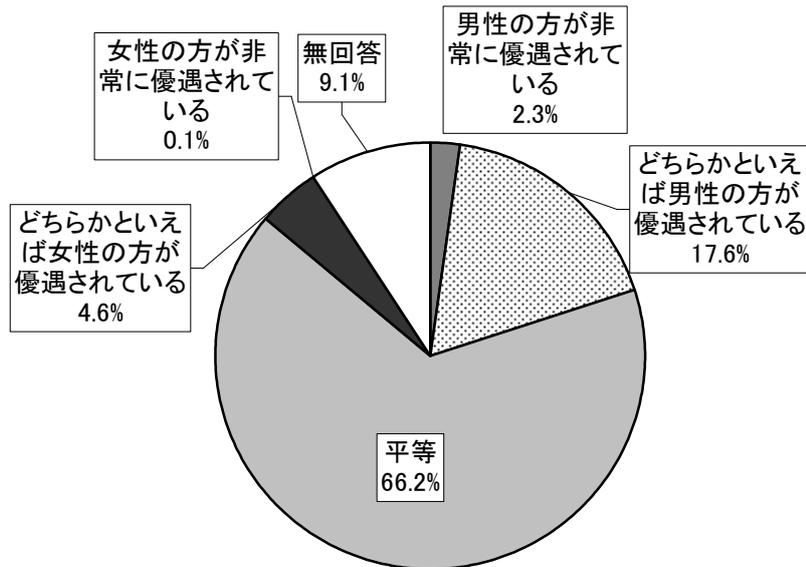
図表 II-14 「職場」の性・年代別男女平等意識

	合計	優遇男性の方がいる			平等である	優遇女性の方がいる			無回答
		非常に	どちらかといえば	非常に		どちらかといえば			
全体	823	66.0	14.2	51.8	18.6	7.6	0.4	7.2	7.9
【男性】	315	62.8	7.9	54.9	20.6	11.1	0.6	10.5	5.4
20歳代	18	27.8	0.0	27.8	38.9	33.3	0.0	33.3	0.0
30歳代	31	54.8	3.2	51.6	29.0	16.2	6.5	9.7	0.0
40歳代	31	51.6	12.9	38.7	35.5	12.9	0.0	12.9	0.0
50歳代	59	54.3	6.8	47.5	25.4	16.9	0.0	16.9	3.4
60歳代	99	71.7	11.1	60.6	17.2	6.1	0.0	6.1	5.1
70歳代以上	77	74.0	6.5	67.5	7.8	5.2	0.0	5.2	13.0
【女性】	492	67.9	18.3	49.6	17.7	5.5	0.2	5.3	8.9
20歳代	34	70.5	17.6	52.9	14.7	11.8	0.0	11.8	2.9
30歳代	83	62.7	13.3	49.4	24.1	9.6	1.2	8.4	3.6
40歳代	74	73.0	20.3	52.7	21.6	1.4	0.0	1.4	4.1
50歳代	130	67.7	19.2	48.5	20.0	6.2	0.0	6.2	6.2
60歳代	109	71.6	21.1	50.5	13.8	3.7	0.0	3.7	11.0
70歳代以上	62	61.3	16.1	45.2	8.1	3.2	0.0	3.2	27.4

### ③ 学校教育の場

学校教育の場における男女平等意識についてみると、「平等」が66.2%と最も多くなっている。「男性の方が非常に優遇されている」が2.3%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が17.6%であり、両者を合わせると19.9%が“男性の方が優遇されている”としており、“女性の方が優遇されている（女性の方が非常に優遇されている0.1%＋どちらかといえば女性の方が優遇されている4.6%）”の4.7%を大幅に上回っている。

図表 II-15 学校教育の場



年代	回答数(件)	構成比(%)
男性の方が非常に優遇されている	19	2.3
どちらかといえば男性の方が優遇されている	145	17.6
平等	545	66.2
どちらかといえば女性の方が優遇されている	38	4.6
女性の方が非常に優遇されている	1	0.1
無回答	75	9.1
サンプル数	823	100.0

学校教育の場における男女平等意識について性別にみると、「平等である」とみる向きが、男性（71.1%）、女性（63.4%）ともに最も多くなっている。

「男性の方が優遇されている（非常に＋どちらかといえば）」とみる向きは、女性が23.4%と男性（14.6%）より高くなっている。女性のなかで「男性の方が優遇されている（同）」とみる向きを年齢別にみると、60歳代（30.3%）、50歳代（26.9%）、70歳代以上（25.8%）と50歳代以上の割合が3～4人に1人と高い。

一方、男性を年齢別にみると、30歳代以上では、「男性の方が優遇されている（同）」が「女性の方が優遇されている（同）」より5～15ポイント程度高くなっているが、20歳代では、「男性の方が優遇されている（同）」と「女性の方が優遇されている（同）」がいずれも16.7%となっている。

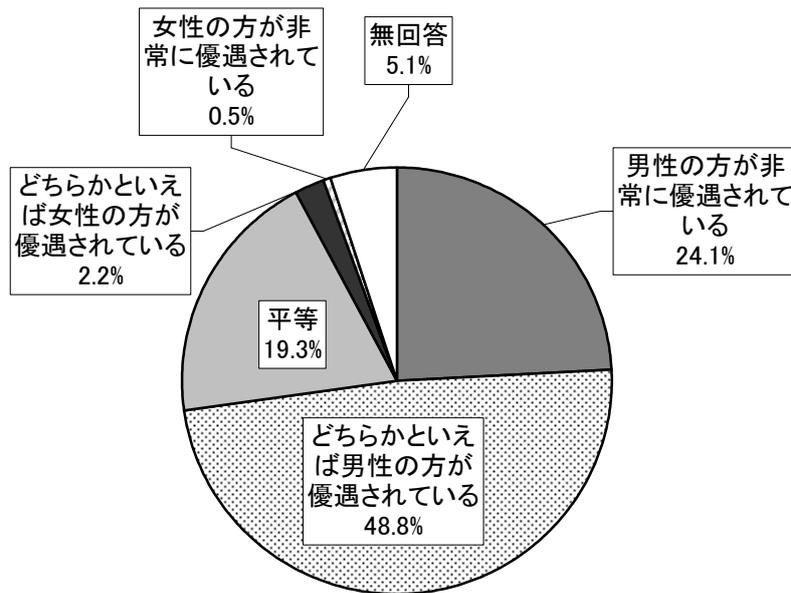
図表 II-16 「学校教育の場」の性・年代別男女平等意識

	合計	男性の方が優遇			平等である	女性の方が優遇			無回答
		非常に	どちらかといえば	非常に		どちらかといえば			
全 体	823	19.9	2.3	17.6	66.2	4.7	0.1	4.6	9.1
【 男 性 】	315	14.6	0.3	14.3	71.1	6.3	0.0	6.3	7.9
20 歳 代	18	16.7	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0	16.7	0.0
30 歳 代	31	16.1	0.0	16.1	74.2	6.5	0.0	6.5	3.2
40 歳 代	31	16.1	0.0	16.1	80.6	3.2	0.0	3.2	0.0
50 歳 代	59	22.0	0.0	22.0	62.7	6.8	0.0	6.8	8.5
60 歳 代	99	9.1	0.0	9.1	79.8	3.0	0.0	3.0	8.1
70 歳 代 以上	77	14.3	1.3	13.0	62.3	9.1	0.0	9.1	14.3
【 女 性 】	492	23.4	3.7	19.7	63.4	3.9	0.2	3.7	9.3
20 歳 代	34	17.6	2.9	14.7	73.5	5.9	0.0	5.9	2.9
30 歳 代	83	16.9	0.0	16.9	72.3	8.4	1.2	7.2	2.4
40 歳 代	74	14.9	4.1	10.8	78.4	1.4	0.0	1.4	5.4
50 歳 代	130	26.9	6.9	20.0	64.6	1.5	0.0	1.5	6.9
60 歳 代	109	30.3	2.8	27.5	53.2	3.7	0.0	3.7	12.8
70 歳 代 以上	62	25.8	3.2	22.6	43.5	4.8	0.0	4.8	25.8

#### ④ 政治の場

政治の場における男女平等意識についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」が24.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が48.8%であり、両者を合わせると72.9%が“男性の方が優遇されている”としており、“女性の方が優遇されている（女性の方が非常に優遇されている 0.5%+どちらかといえば女性の方が優遇されている 2.2%）”の2.7%を大幅に上回っている。一方、「平等」は19.3%となっている。

図表 II-17 政治の場



年代	回答数(件)	構成比 (%)
男性の方が非常に優遇されている	198	24.1
どちらかといえば男性の方が優遇されている	402	48.8
平等	159	19.3
どちらかといえば女性の方が優遇されている	18	2.2
女性の方が非常に優遇されている	4	0.5
無回答	42	5.1
サンプル数	823	100.0

政治の場における男女平等意識について性別にみると、男女ともに「男性の方が優遇されている（非常に＋どちらかといえば）」とみる向きが最多となっており、その割合は女性が79.9%と男性（62.9%）を大きく上回っている。

女性のなかで「男性の方が優遇されている（同）」とみる向きを年齢別にみると、20歳代（97.1%）が最も多く、30歳代（87.9%）が続くなど若年層で多くなっている。

一方、男性の「男性の方が優遇されている（同）」とみる向きを年齢別にみると、40歳代（74.2%）、30歳代（71.0%）、20歳代（66.7%）と40歳以下で高くなっており、70歳代以上は49.4%と最も低い水準であった。

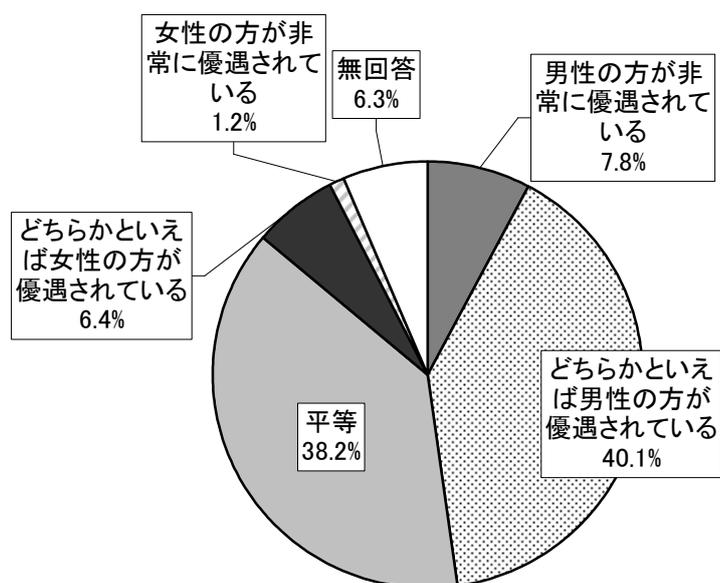
図表 II-18 「政治の場」の性・年代別男女平等意識

	合計	男性の方が優遇さ			平等である	女性の方が優遇さ			無回答
		非常に	どちらか	と		非常に	どちらか	と	
全 体	823	72.9	24.1	48.8	19.3	2.7	0.5	2.2	5.1
【 男 性 】	315	62.9	13.7	49.2	30.5	3.9	1.0	2.9	2.9
20 歳 代	18	66.7	11.1	55.6	22.2	11.2	5.6	5.6	0.0
30 歳 代	31	71.0	25.8	45.2	22.6	6.4	3.2	3.2	0.0
40 歳 代	31	74.2	19.4	54.8	16.1	9.7	3.2	6.5	0.0
50 歳 代	59	64.4	13.6	50.8	33.9	0.0	0.0	0.0	1.7
60 歳 代	99	65.6	13.1	52.5	29.3	3.0	0.0	3.0	2.0
70 歳代以上	77	49.4	7.8	41.6	40.3	2.6	0.0	2.6	7.8
【 女 性 】	492	79.9	31.1	48.8	12.0	2.0	0.2	1.8	6.1
20 歳 代	34	97.1	55.9	41.2	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0
30 歳 代	83	87.9	26.5	61.4	9.6	0.0	0.0	0.0	2.4
40 歳 代	74	85.2	33.8	51.4	9.5	1.4	0.0	1.4	4.1
50 歳 代	130	82.3	30.0	52.3	12.3	0.8	0.0	0.8	4.6
60 歳 代	109	77.0	33.0	44.0	12.8	3.7	0.9	2.8	6.4
70 歳代以上	62	53.3	19.4	33.9	22.6	4.8	0.0	4.8	19.4

### ⑤ 法律や制度の上で

法律や制度の上での男女平等意識についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」が7.8%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.1%であり、両者を合わせると47.9%が“男性の方が優遇されている”としており、“女性の方が優遇されている（女性の方が非常に優遇されている1.2%+どちらかといえば女性の方が優遇されている6.4%）”の7.6%を大幅に上回っている。一方、「平等」は38.2%となっている。

図表 II-19 法律や制度の上



年代	回答数(件)	構成比(%)
男性の方が非常に優遇されている	64	7.8
どちらかといえば男性の方が優遇されている	330	40.1
平等	314	38.2
どちらかといえば女性の方が優遇されている	53	6.4
女性の方が非常に優遇されている	10	1.2
無回答	52	6.3
サンプル数	823	100.0

法律や制度の上での男女平等意識について性別にみると、男性は「平等である」とみる向きが51.4%と最多となっているが、女性の59.0%は「男性の方が優遇されている（非常に＋どちらかといえば）」と回答しており、男女間で平等感がはっきりと異なっている。

女性を年齢別にみると「男性の方が優遇されている（同）」とみる向きが多いのは、40歳代以下（40歳代：64.8%、20歳代：64.7%、30歳代：62.7%）となっている。

一方、男性を年齢別にみると、「平等である」という回答が40歳代を除く全世代で最も多くなっており、特に60歳代以上（60歳代59.6%、70歳代以上57.1%）でその割合が高い。

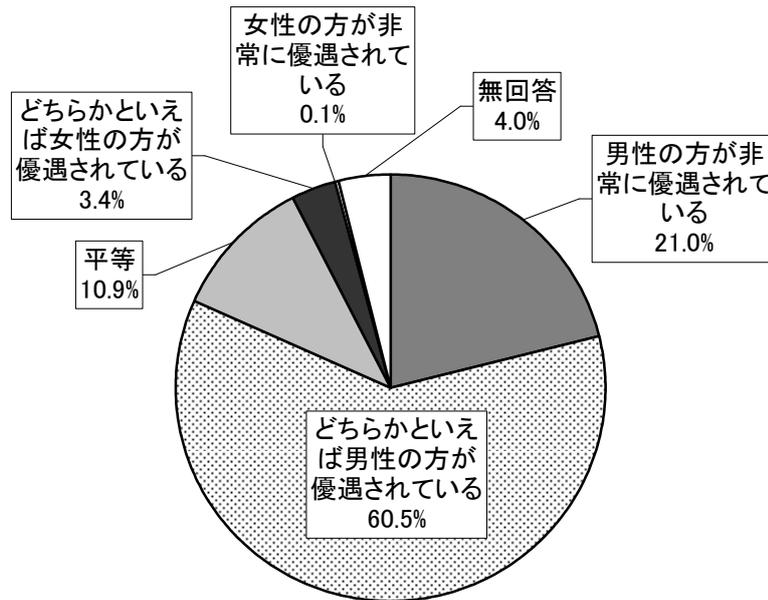
図表 II-20 「法律や制度の上で」の性・年代別男女平等意識

	合計	男性の方が優遇さ			平等である	女性の方が優遇さ			無回答
		非常に	どちらか	と		非常に	どちらか	と	
全 体	823	47.9	7.8	40.1	38.2	7.6	1.2	6.4	6.3
【 男 性 】	315	31.1	1.6	29.5	51.4	13.3	2.5	10.8	4.1
20 歳 代	18	27.8	5.6	22.2	33.3	38.9	16.7	22.2	0.0
30 歳 代	31	25.8	0.0	25.8	48.4	25.9	6.5	19.4	0.0
40 歳 代	31	35.5	0.0	35.5	35.5	29.0	3.2	25.8	0.0
50 歳 代	59	39.0	3.4	35.6	45.8	13.6	1.7	11.9	1.7
60 歳 代	99	28.3	1.0	27.3	59.6	8.1	0.0	8.1	4.0
70 歳 代 以上	77	29.9	1.3	28.6	57.1	2.6	1.3	1.3	10.4
【 女 性 】	492	59.0	12.0	47.0	29.5	4.3	0.4	3.9	7.3
20 歳 代	34	64.7	20.6	44.1	23.5	8.8	0.0	8.8	2.9
30 歳 代	83	62.7	13.3	49.4	31.3	4.8	0.0	4.8	1.2
40 歳 代	74	64.8	16.2	48.6	29.7	2.7	0.0	2.7	2.7
50 歳 代	130	60.0	11.5	48.5	32.3	3.8	0.0	3.8	3.8
60 歳 代	109	61.4	7.3	54.1	22.9	5.5	1.8	3.7	10.1
70 歳 代 以上	62	37.1	9.7	27.4	35.5	1.6	0.0	1.6	25.8

### ⑥ 社会通念・慣習・しきたり

社会通念・慣習・しきたりにおける男女平等意識についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」が21.0%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が60.5%であり、両者を合わせると81.5%が“男性の方が優遇されている”としており、“女性の方が優遇されている（女性の方が非常に優遇されている0.1%+どちらかといえば女性の方が優遇されている3.4%）”の3.5%を大幅に上回っている。一方、「平等」は10.9%となっている。

図表 II-21 社会通念・慣習・しきたり



年代	回答数(件)	構成比 (%)
男性の方が非常に優遇されている	173	21.0
どちらかといえば男性の方が優遇されている	498	60.5
平等	90	10.9
どちらかといえば女性の方が優遇されている	28	3.4
女性の方が非常に優遇されている	1	0.1
無回答	33	4.0
サンプル数	823	100.0

社会通念・慣習・しきたりにおける男女平等意識について性別にみると、「男性の方が優遇されている（非常に＋どちらかといえば）」とみる向きが男女とも最多となっており、その割合は女性が84.2%と男性（78.5%）より多くなっている。

女性を年齢別にみると「男性の方が優遇されている（同）」とみる向きは20歳代から60歳代までは概ね8～9割となっているが、70歳代は67.8%と他の年代と比べて水準が低かった。

一方、男性のなかで「男性の方が優遇されている（同）」とみる向きを年齢別にみると、60歳代以上は8割前後で高くなっているが、20～30歳代は6割台半ばで他の年代より低水準となっている。

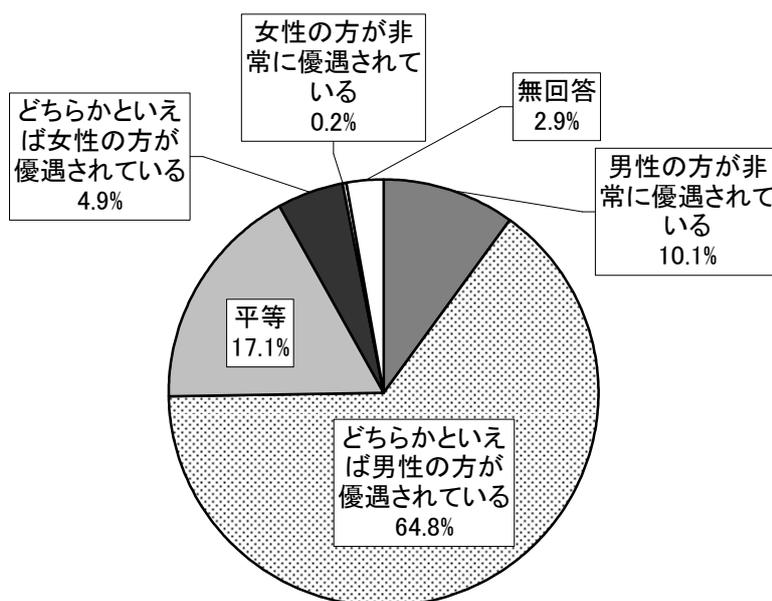
図表 II-22 「社会通念・慣習・しきたり」の性・年代別男女平等意識

	合計	男性の方が優遇	男性の方が優遇		平等である	女性の方が優遇	女性の方が優遇		無回答
			非常に	どちらかといえば			非常に	どちらかといえば	
全体	823	81.5	21.0	60.5	10.9	3.5	0.1	3.4	4.0
【男性】	315	78.5	10.2	68.3	15.2	3.5	0.3	3.2	2.9
20歳代	18	66.7	16.7	50.0	27.8	5.6	5.6	0.0	0.0
30歳代	31	67.7	12.9	54.8	25.8	6.5	0.0	6.5	0.0
40歳代	31	83.9	6.5	77.4	12.9	3.2	0.0	3.2	0.0
50歳代	59	72.9	11.9	61.0	18.6	5.1	0.0	5.1	3.4
60歳代	99	85.9	9.1	76.8	11.1	3.0	0.0	3.0	0.0
70歳代以上	77	77.9	9.1	68.8	11.7	1.3	0.0	1.3	9.1
【女性】	492	84.2	28.3	55.9	8.1	3.7	0.0	3.7	4.1
20歳代	34	91.2	35.3	55.9	5.9	0.0	0.0	0.0	2.9
30歳代	83	75.9	24.1	51.8	18.1	4.8	0.0	4.8	1.2
40歳代	74	89.2	32.4	56.8	6.8	1.4	0.0	1.4	2.7
50歳代	130	88.4	29.2	59.2	3.8	5.4	0.0	5.4	2.3
60歳代	109	89.0	30.3	58.7	3.7	3.7	0.0	3.7	3.7
70歳代以上	62	67.8	19.4	48.4	14.5	3.2	0.0	3.2	14.5

## ⑦ 社会全体

社会全体における男女平等意識についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」が10.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が64.8%であり、両者を合わせると74.9%が“男性の方が優遇されている”としており、“女性の方が優遇されている（女性の方が非常に優遇されている 0.2%+どちらかといえば女性の方が優遇されている 4.9%）”の5.1%を大幅に上回っている。一方、「平等」は17.1%となっている。

図表 II-23 社会全体



年代	回答数(件)	構成比 (%)
男性の方が非常に優遇されている	83	10.1
どちらかといえば男性の方が優遇されている	533	64.8
平等	141	17.1
どちらかといえば女性の方が優遇されている	40	4.9
女性の方が非常に優遇されている	2	0.2
無回答	24	2.9
サンプル数	823	100.0

社会全体における男女平等意識について性別にみると、「男性が優遇されている（非常に＋どちらかといえば）」とみる向きが男女とも最多となっており、その割合は女性が81.9%と男性（64.1%）より多くなっている。

女性を年齢別にみると「男性が優遇されている（同）」とみる向きは、60歳代以下は、概ね8～9割となっているが、70歳代は66.1%と他の年代と比べて水準が低かった。

一方、男性の「男性が優遇されている（同）」とみる向きを年齢別にみると、40歳代が74.2%で最も高く、60歳代（69.7%）、70歳代以上（64.9%）が続いている。

図表 II-24 「社会全体」の性・年代別男女平等意識

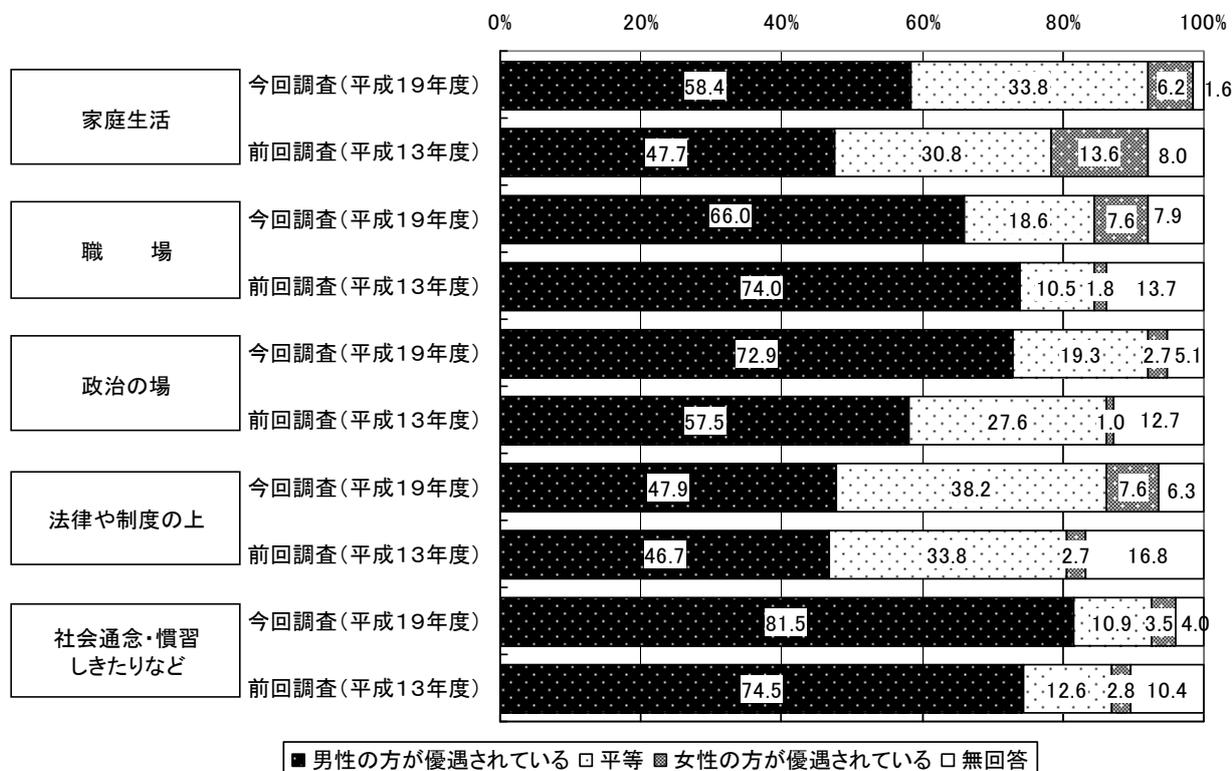
	合計	男性の方が優遇さ		平等である	女性の方が優遇さ		無回答		
		非常に	どちらかといえば		非常に	どちらかといえば			
全 体	823	74.9	10.1	64.8	17.1	5.1	0.2	4.9	2.9
【 男 性 】	315	64.1	3.5	60.6	26.3	7.6	0.6	7.0	1.9
20 歳 代	18	50.0	0.0	50.0	27.8	22.2	11.1	11.1	0.0
30 歳 代	31	51.6	3.2	48.4	35.5	12.9	0.0	12.9	0.0
40 歳 代	31	74.2	3.2	71.0	16.1	9.7	0.0	9.7	0.0
50 歳 代	59	59.3	3.4	55.9	30.5	6.8	0.0	6.8	3.4
60 歳 代	99	69.7	3.0	66.7	22.2	7.1	0.0	7.1	1.0
70 歳 代 以上	77	64.9	5.2	59.7	28.6	2.6	0.0	2.6	3.9
【 女 性 】	492	81.9	14.0	67.9	11.2	3.7	0.0	3.7	3.3
20 歳 代	34	79.4	8.8	70.6	11.8	5.9	0.0	5.9	2.9
30 歳 代	83	75.9	14.5	61.4	20.5	3.6	0.0	3.6	0.0
40 歳 代	74	89.2	21.6	67.6	9.5	0.0	0.0	0.0	1.4
50 歳 代	130	84.6	11.5	73.1	7.7	4.6	0.0	4.6	3.1
60 歳 代	109	88.1	13.8	74.3	7.3	2.8	0.0	2.8	1.8
70 歳 代 以上	62	66.1	12.9	53.2	14.5	6.5	0.0	6.5	12.9

### ◆ 前回調査（平成13年度）との比較

「前回調査」（平成13年度）とは分野と選択肢の設定が完全に同じではないため比較可能な範囲で比べてみると、全分野で「男性が優遇されている」という回答の割合が最も多かった。前回同様に、「社会通念・慣習・しきたりなど」の男性優遇感（今回81.5%、前回74.5%）が最も多かった。「政治の場（同72.9%、57.5%）」、「家庭生活（同58.4%、47.7%）」では、「男性が優遇されている」という回答が前回比10ポイント以上上昇した。

一方、「平等」と回答した人の割合をみると、「家庭生活（同33.8%、30.8%）」、「職場（同18.6%、10.5%）」、「法律や制度の上で（同38.2%、33.8%）」で「前回調査」（平成13年度）より平等感が強まった。

図表 II-25 「前回調査」（平成13年度）との比較



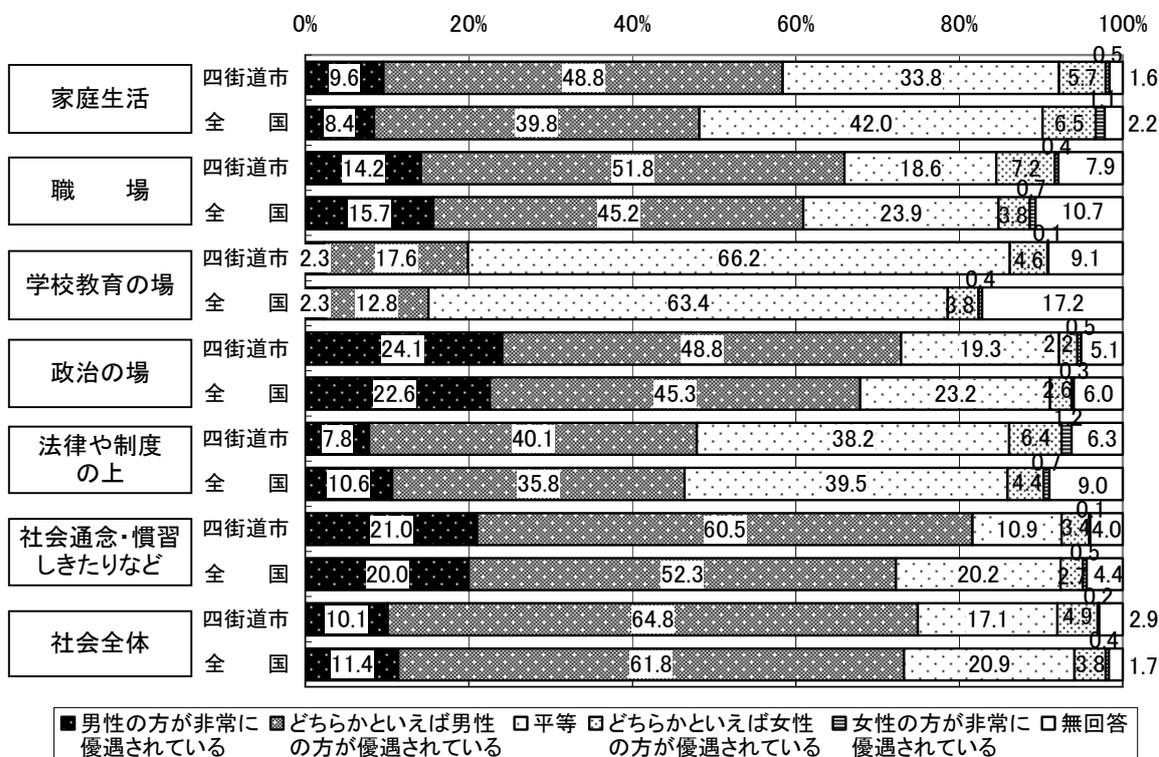
(注) 今回調査の「男性の方が優遇されている」は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計値、「女性の方が優遇されている」は「女性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計値を掲載した。

◆ 全国（内閣府調査）との比較

「内閣府調査」（平成19年度）の同じ問いにおける「男性が優遇されている（非常に＋どちらかといえば）」という回答の割合は、全分野で四街道市民が全国（家庭生活48.2%、職場60.9%、学校教育15.1%、政治67.9%、法律や制度46.4%、社会通念・慣習・しきたり72.3%、社会全体の中で73.2%）を上回っている。

一方、四街道市民の「平等」という回答の割合は、学校教育の場以外の全分野で、全国（家庭生活42.0%、職場23.9%、学校教育63.4%、政治23.2%、法律や制度39.5%、社会通念・慣習・しきたり20.2%、社会全体の中で20.9%）と比べて低くなっている。

図表 II-26 全国との比較



## (2) 男は仕事、女は家庭の考え方

問1 (2) あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。1つ選んで○をつけてください。

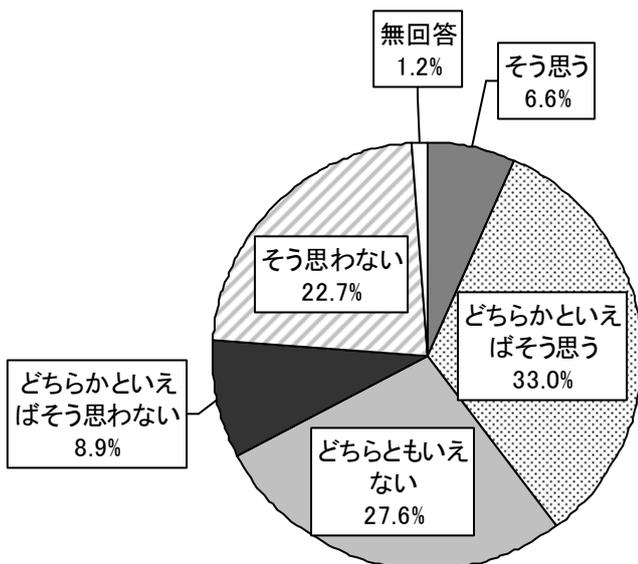
### 要旨

「男は仕事、女は家庭」というように、性別によって行動を分ける慣習や考え方（性別分業）に肯定的な人（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）の割合は女性より男性で高く、一方、否定的な人（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」）の割合は男性より女性で高い。今回調査では、肯定的な人の割合が、「前回調査」（平成13年度）よりも16.1ポイント高い結果となった。

また、「内閣府調査」（平成19年度）の同じ問いにおける回答（「肯定的な人」44.8%、「わからない」3.2%、「否定的な人」52.1%）と比べると、四街道市民の回答は、「どちらともいえない」という回答の割合が高く、肯定的な人の割合が否定的な人の割合より高いことが特徴である。

「男は仕事、女は家庭」という考え方についてみると、「そう思う」が6.6%、「どちらかといえばそう思う」が33.0%であり、両者を合わせる39.6%が“そう思う”としており、“そう思わない（そう思わない22.7%+どちらかといえばそう思わない8.9%）”の31.6%を上回っている。一方、「どちらともいえない」は27.6%となっている。

図表 II-27 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

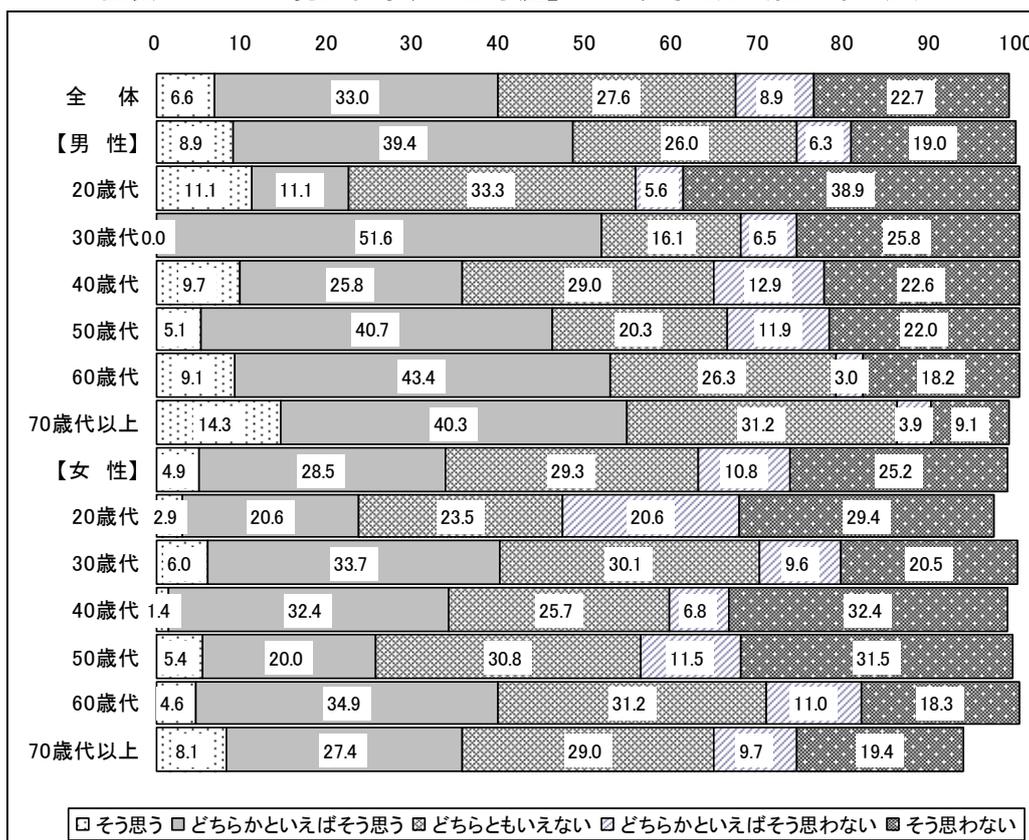


年代	回答数(件)	構成比 (%)
そう思う	54	6.6
どちらかといえばそう思う	272	33.0
どちらともいえない	227	27.6
どちらかといえばそう思わない	73	8.9
そう思わない	187	22.7
無回答	10	1.2
サンプル数	823	100.0

「男は仕事、女は家庭」という考え方について性別にみると、男性は「思う（そう思う＋どちらかといえばそう思う）」とする向きが48.3%で「思わない（そう思わない＋どちらかといえばそう思わない）」の25.3%を上回っている。一方、女性の36.0%は「思わない（同）」と回答しており、「思う（同）」の33.4%より多くなっている。

男性のなかで「思う（同）」とする向きが最も高いのは70歳以上（54.6%）で、60歳代（52.5%）、30歳代（51.6%）が続いている。女性のなかで「思わない（同）」と回答した割合は、20歳代（50.0%）が最も多くなっている。

図表 II-28 「男は仕事、女は家庭」という考え方（性・年代別）



◆ 「前回調査」（平成13年度）と全国（内閣府調査）との比較

「前回調査」（平成13年度）と比べると「思う（同）」の割合が16.1ポイント上昇している。一方、「内閣府調査」（平成19年度）の同じ問いにおける結果では、「思わない（52.1%）」が「思う（44.8%）」を上回っているが、四街道市民の回答は、「思う（39.6%）」の割合が「思わない（31.6%）」より高くなっている。

図表 II-29 「男は仕事、女は家庭」という考え方（前回調査比・全国比）

	合計	思う	そう思う	どちらかといえばそう思う	わからない	どちらともいえない	思わない	そう思わない	そう思わない	どちらかといえば思わない	無回答
今回調査(平成19年)	823	39.6	6.6	33.0	-	27.6	31.6	22.7	8.9	1.2	
前回調査(平成13年)	715		23.5		3.5	-		69.8		3.2	
全国(平成19年)	3,118		44.8		3.2	-		52.1		-	

### (3) 男女共同参画社会を進める必要性

#### ① 男女共同参画社会を進める必要性

問 2 (1) 男女が互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別に関わりなく、個性と能力を十分に発揮することができる社会を男女共同参画社会といいます。あなたは、男女共同参画を進める必要があると思いますか。1つ選んで○をつけてください。

#### 要 旨

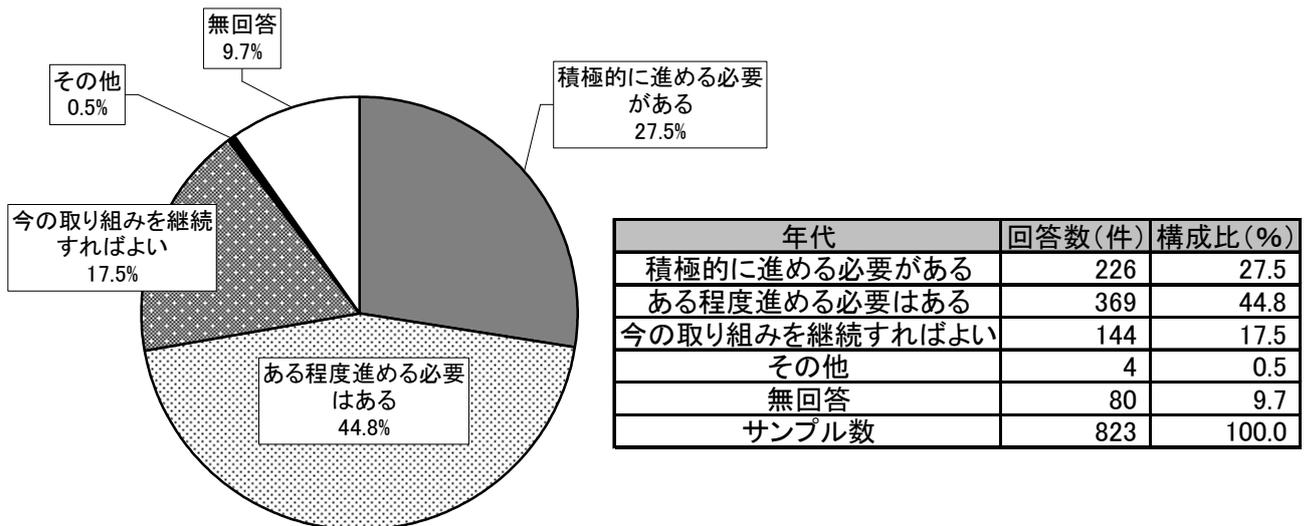
男女共同参画を「積極的に進める必要がある」と「ある程度進める必要はある」という回答の合計が 72.3%を占めており、四街道市民は男女共同参画推進の必要性を感じている。

その理由としては、「社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから」が最も多く、「家庭内の家事、育児、介護などは女性の役割という考えがあるから」が続いている。

男女共同参画社会を進める必要性は、「ある程度進める必要性がある」が 44.8%で最も多くなっており、「積極的に進める必要性がある (27.5%)」を加えると、72.3%が進める必要性があると回答している。

一方、「今の取り組みを継続すればよい」は 17.5%となっている。

図表 II-30 男女共同参画社会を進める必要性



② 男女共同参画社会を進める必要性がある理由

問 2 (2) (1) で「1. 積極的に進める必要がある」、「2. ある程度進める必要はある」と回答した方にうかがいます。その理由を、3つまで選んで○をつけてください。

男女共同参画社会を進める必要性がある理由についてみると、最も回答が多かったのは「社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから(61.5%)」で、「家庭内の家事、育児、介護などは女性の役割という考え方があるから(53.9%)」、「人を性別によって区別する考え方や慣習があるから(43.4%)」が続いている。一方、「家庭や学校での、男の子と女の子に対する教育方針やしつけの区別があるから」は7.9%で他の回答と比べると低位に留まっている。

図表 II-31 男女共同参画社会を進める必要性がある理由

項 目	回答数(件)	構成比(%)
社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから	366	61.5
家庭内の家事、育児、介護などは女性の役割という考え方があるから	321	53.9
人を性別によって区別する考え方や慣習があるから	258	43.4
意志決定の場への参加など女性の社会進出が遅れており、女性の発言力が弱いから	207	34.8
職場などで女性の能力が正しく評価されていないから	197	33.1
男性と女性の役割や特性は異なるという考え方や慣習かたや慣習があるから	186	31.3
家庭や学校での、男の子と女の子に対する教育方針やしつけの区別があるから	47	7.9
その他	20	3.4
無回答	7	1.2
サンプル数	595	100.0

③ 男女共同参画社会への今の取り組みを継続すればよい理由

問 2 (3) (1) で「3. 今の取り組みを継続すればよい」と回答した方にうかがいます。その理由を、2つまで選んで○をつけてください。

男女共同参画社会への今の取り組みを継続すればよい理由をみると、「男性と女性では身体や能力の差、性別上の適正に応じた役割があるから」が82.6%で最も多くなっており、「すでに男女平等になっているから (33.3%)」、「事実上、女性の方が発言力が強くなっているから (30.6%)」、「女性は男性に従うべきという古くからのしきたり、価値観があるから (6.3%)」が続いている。

図表 II-32 男女共同参画社会への今の取り組みを継続すればよい理由

項 目	回答数(件)	構成比(%)
男性と女性では身体や能力の差、性別上の適正に応じた役割があるから	119	82.6
すでに男女平等になっているから	48	33.3
事実上、女性の方が発言力が強くなっているから	44	30.6
女性は男性に従うべきという古くからのしきたり、価値観があるから	9	6.3
その他	4	2.8
無回答	1	0.7
サンプル数	144	100.0

### 3. 家庭生活について

#### (1) 家事の分担

問3 現在、配偶者等パートナーと暮らしている方にうかがいます。過去の経験を含めてお答えください。あなたの家庭では、①～⑧にあげるような家事を、主にどなたがしていますか（または、していましたか）。実態と理想について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。「夫」は男性パートナー、「妻」は女性パートナーを含むものとします。

#### 要 旨

家庭生活における家事の分担について、理想・実態ともに「夫婦とも同じ程度」が最多であった「不動産などの高価な買い物」を除く、「食事のしたく・あとかたづけ」、「掃除・洗濯」、「食料品・日用品等の買い物」、「家計費の管理」、「乳児・幼児の世話」、「子どもの学校の委員や行事等への参加」、「介護や看護を要する家族の世話（該当なしを除く）」のすべての家事項目において、理想は「夫婦とも同じ程度」、実態は「ほとんど妻」が最も多くなっており、現実に家事の大部分が妻によって担われている。

この結果は、「内閣府調査」（平成19年度）の同じ問いに対する回答結果と同様であった。

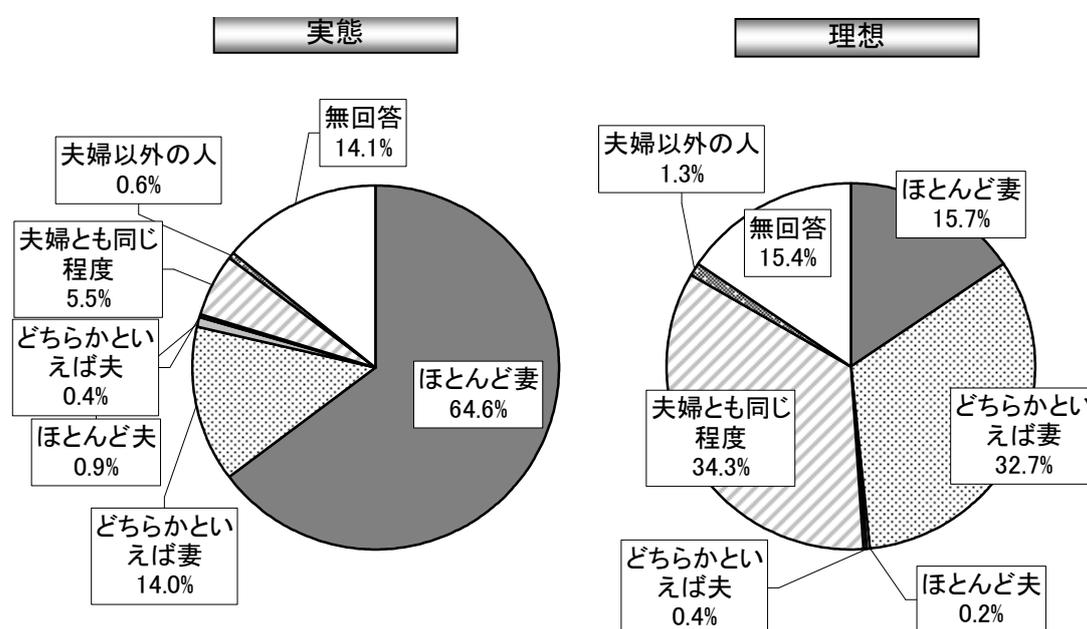
また、家事項目を通じて「夫婦とも同じ程度」を理想とすることについて男女差はほとんどみられない。

### ① 食事のしたく・あとかたづけ

食事のしたく・あとかたづけについてみると、実態は「ほとんど妻」が64.6%、「どちらかといえば妻」が14.0%であり、両者を合わせる78.6%が“妻”としており、“夫（ほとんど夫0.9%+どちらかといえば夫0.4%）”の1.3%を大幅に上回っている。「夫婦とも同じ程度」は5.5%、「夫婦以外の人」は0.6%となっている。

一方、理想は、「夫婦とも同じ程度」が34.3%で最も多くなっている。また、「ほとんど妻」が15.7%、「どちらかといえば妻」が32.7%で、両者を合わせると48.4%が“妻”としており、“夫（ほとんど夫0.2%+どちらかといえば夫0.4%）”の0.6%を大幅に上回っている。一方、「夫婦以外の人」は1.3%となっている。

図表 II-33 食事のしたく・あとかたづけ



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	532	64.6	129	15.7
どちらかといえば妻	115	14.0	269	32.7
ほとんど夫	7	0.9	2	0.2
どちらかといえば夫	3	0.4	3	0.4
夫婦とも同じ程度	45	5.5	282	34.3
夫婦以外の人	5	0.6	11	1.3
無回答	116	14.1	127	15.4
サンプル数	823	100.0	823	100.0

食事のしたく・あとかたづけについて性別にみると、実態は「ほとんど妻(男性 53.0%、女性 71.7%)」が男女とも最も多くなっており、年齢別にみても同様である。

一方、理想をみると、男性は「どちらかといえば妻 (31.7%)」が最多で「夫婦とも同じ程度 (30.2%)」が続いているのに対し、女性は、「夫婦とも同じ程度 (36.6%)」が最も多く、「どちらかといえば妻 (33.3%)」を上回っている。

図表 II-34 食事のしたく・あとかたづけ (性・年代別)

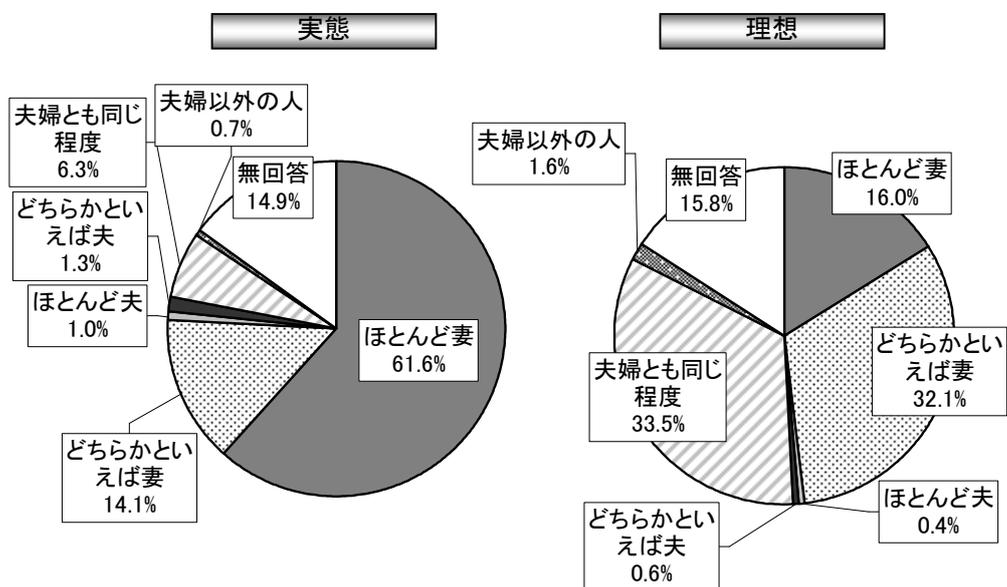
		合 計	ほ と ん ど 妻	ど ち ら か と い え ば 妻	ほ と ん ど 夫	ど ち ら か と い え ば 夫	夫 婦 と も 同 じ 程 度	夫 婦 以 外 の 人	無 回 答
実 態	全 体	823	64.6	14.0	0.9	0.4	5.5	0.6	14.1
	【 男 性 】	315	53.0	22.9	1.3	0.3	8.3	0.6	13.7
	20 歳 代	18	11.1	5.6	0.0	0.0	11.1	0.0	72.2
	30 歳 代	31	29.0	22.6	3.2	0.0	12.9	0.0	32.3
	40 歳 代	31	51.6	19.4	3.2	0.0	9.7	6.5	9.7
	50 歳 代	59	61.0	27.1	0.0	0.0	3.4	0.0	8.5
	60 歳 代	99	62.6	25.3	2.0	1.0	8.1	0.0	1.0
	70 歳代以上	77	54.5	22.1	0.0	0.0	9.1	0.0	14.3
	【 女 性 】	492	71.7	8.5	0.6	0.4	3.9	0.6	14.2
	20 歳 代	34	44.1	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	30 歳 代	83	63.9	12.0	0.0	0.0	7.2	0.0	16.9
	40 歳 代	74	73.0	9.5	1.4	1.4	1.4	0.0	13.5
	50 歳 代	130	83.1	7.7	1.5	0.8	2.3	0.0	4.6
	60 歳 代	109	79.8	6.4	0.0	0.0	4.6	1.8	7.3
70 歳代以上	62	58.1	9.7	0.0	0.0	6.5	1.6	24.2	
理 想	全 体	823	15.7	32.7	0.2	0.4	34.3	1.3	15.4
	【 男 性 】	315	20.0	31.7	0.0	0.6	30.2	2.2	15.2
	20 歳 代	18	5.6	5.6	0.0	0.0	11.1	5.6	72.2
	30 歳 代	31	29.0	12.9	0.0	0.0	25.8	0.0	32.3
	40 歳 代	31	25.8	45.2	0.0	0.0	9.7	9.7	9.7
	50 歳 代	59	25.4	27.1	0.0	0.0	37.3	1.7	8.5
	60 歳 代	99	16.2	40.4	0.0	0.0	36.4	2.0	5.1
	70 歳代以上	77	18.2	32.5	0.0	2.6	31.2	0.0	15.6
	【 女 性 】	492	13.4	33.3	0.4	0.2	36.6	0.8	15.2
	20 歳 代	34	11.8	29.4	0.0	0.0	8.8	0.0	50.0
	30 歳 代	83	19.3	41.0	1.2	0.0	21.7	0.0	16.9
	40 歳 代	74	14.9	45.9	1.4	0.0	24.3	0.0	13.5
	50 歳 代	130	10.8	36.9	0.0	0.0	43.8	1.5	6.9
	60 歳 代	109	10.1	22.9	0.0	0.9	56.0	0.9	9.2
70 歳代以上	62	16.1	21.0	0.0	0.0	37.1	1.6	24.2	

## ② 掃除・洗濯

掃除・洗濯についてみると、実態は、「ほとんど妻」が61.6%、「どちらかといえば妻」が14.1%であり、両者を合わせる75.7%が“妻”としており、“夫（ほとんど夫1.0%+どちらかといえば夫1.3%）”の2.3%を大幅に上回っている。一方、「夫婦とも同じ程度」は6.3%、「夫婦以外の人」は0.7%となっている。

一方、理想は、「夫婦とも同じ程度」が33.5%で最も多くなっている。また、「ほとんど妻」が16.0%、「どちらかといえば妻」が32.1%であり、両者を合わせると48.1%が“妻”としており、“夫（ほとんど夫0.4%+どちらかといえば夫0.6%）”の1.0%を大幅に上回っている。「夫婦以外の人」は1.6%となっている。

図表 II-35 掃除・洗濯



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	507	61.6	132	16.0
どちらかといえば妻	116	14.1	264	32.1
ほとんど夫	8	1.0	3	0.4
どちらかといえば夫	11	1.3	5	0.6
夫婦とも同じ程度	52	6.3	276	33.5
夫婦以外の人	6	0.7	13	1.6
無回答	123	14.9	130	15.8
サンプル数	823	100.0	823	100.0

掃除・洗濯について性別にみると、実態は「ほとんど妻（男性 49.2%、女性 69.5%）」が男女とも最も多くなっており、年齢別にみても 30 歳代の男性を除き同様である。

一方、理想をみると、男性は「どちらかといえば妻（32.4%）」が最多で「夫婦とも同じ程度（30.2%）」が続いているのに対し、女性は、「夫婦とも同じ程度（35.8%）」が最も多く、「どちらかといえば妻（31.7%）」を上回っている。

図表 II-36 掃除・洗濯（性・年代別）

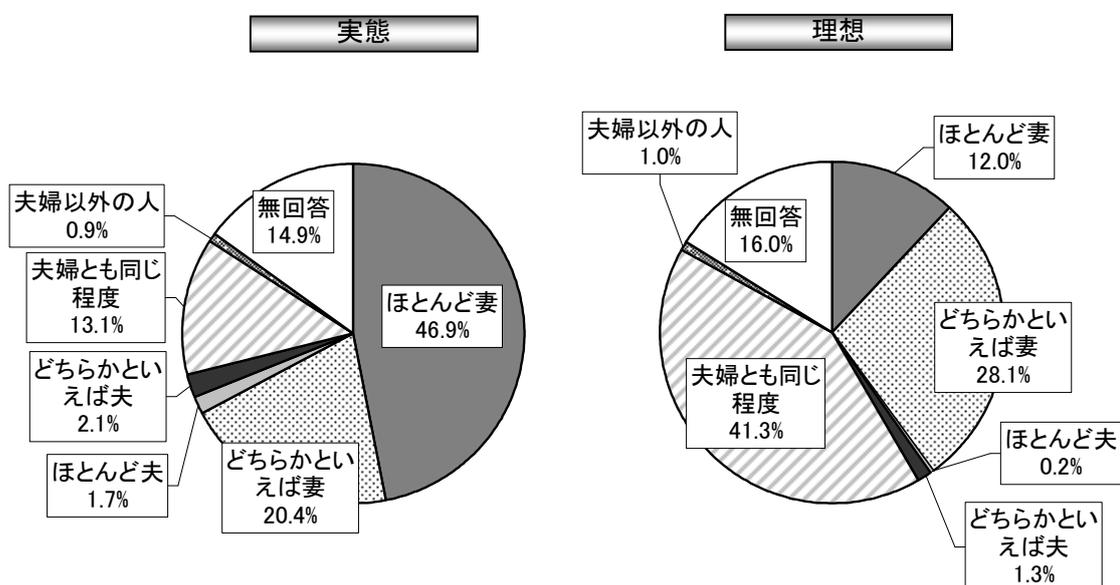
		合 計	ほ と ん ど 妻	ど ち ら か と い え ば 妻	ほ と ん ど 夫	ど ち ら か と い え ば 夫	夫 婦 と も 同 じ 程 度	夫 婦 以 外 の 人	無 回 答
実 態	全 体	823	61.6	14.1	1.0	1.3	6.3	0.7	14.9
	【 男 性 】	315	49.2	21.0	1.6	1.9	10.5	1.3	14.6
	20 歳 代	18	16.7	5.6	0.0	0.0	5.6	0.0	72.2
	30 歳 代	31	19.4	29.0	0.0	0.0	19.4	0.0	32.3
	40 歳 代	31	58.1	9.7	3.2	6.5	6.5	6.5	9.7
	50 歳 代	59	67.8	11.9	3.4	0.0	8.5	0.0	8.5
	60 歳 代	99	53.5	28.3	1.0	2.0	12.1	1.0	2.0
	70 歳 代 以上	77	45.5	23.4	1.3	2.6	9.1	1.3	16.9
	【 女 性 】	492	69.5	9.6	0.6	1.0	3.9	0.4	15.0
	20 歳 代	34	35.3	11.8	0.0	0.0	2.9	0.0	50.0
	30 歳 代	83	69.9	12.0	0.0	0.0	1.2	0.0	16.9
	40 歳 代	74	71.6	8.1	1.4	2.7	2.7	0.0	13.5
	50 歳 代	130	80.0	10.0	0.8	1.5	3.1	0.0	4.6
	60 歳 代	109	72.5	9.2	0.0	0.9	6.4	1.8	9.2
70 歳 代 以上	62	58.1	6.5	1.6	0.0	6.5	0.0	27.4	
理 想	全 体	823	16.0	32.1	0.4	0.6	33.5	1.6	15.8
	【 男 性 】	315	17.1	32.4	0.6	1.3	30.2	2.5	15.9
	20 歳 代	18	5.6	11.1	0.0	0.0	5.6	5.6	72.2
	30 歳 代	31	16.1	22.6	0.0	0.0	29.0	0.0	32.3
	40 歳 代	31	29.0	35.5	0.0	0.0	16.1	9.7	9.7
	50 歳 代	59	23.7	32.2	1.7	1.7	30.5	1.7	8.5
	60 歳 代	99	13.1	37.4	1.0	1.0	40.4	2.0	5.1
	70 歳 代 以上	77	15.6	33.8	0.0	2.6	28.6	1.3	18.2
	【 女 性 】	492	15.7	31.7	0.2	0.2	35.8	1.0	15.4
	20 歳 代	34	14.7	23.5	0.0	0.0	11.8	0.0	50.0
	30 歳 代	83	27.7	34.9	0.0	0.0	20.5	0.0	16.9
	40 歳 代	74	14.9	43.2	1.4	0.0	27.0	0.0	13.5
	50 歳 代	130	15.4	30.8	0.0	0.0	46.2	1.5	6.2
	60 歳 代	109	9.2	28.4	0.0	0.0	51.4	1.8	9.2
70 歳 代 以上	62	12.9	25.8	0.0	1.6	30.6	1.6	27.4	

### ③ 食料品・日用品等の買い物

食料品・日用品の買い物についてみると、実態は、「ほとんど妻」が 46.9%、「どちらかといえば妻」が 20.4%であり、両者を合わせる 67.3%が“妻”としており、“夫（ほとんど夫 1.7%+どちらかといえば夫 2.1%）”の 3.8%を大幅に上回っている。一方、「夫婦とも同じ程度」は 13.1%、「夫婦以外の人」は 0.9%となっている。

一方、理想は、「夫婦とも同じ程度」が 41.3%と最も多くなっている。また、「ほとんど妻」が 12.0%、「どちらかといえば妻」が 28.1%であり、両者を合わせると 40.1%が“妻”としており、“夫（ほとんど夫 0.2%+どちらかといえば夫 1.3%）”の 1.5%を大幅に上回っている。一方、「夫婦以外の人」は 1.0%となっている。

図表 II-37 食料品・日用品等の買い物



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	386	46.9	99	12.0
どちらかといえば妻	168	20.4	231	28.1
ほとんど夫	14	1.7	2	0.2
どちらかといえば夫	17	2.1	11	1.3
夫婦とも同じ程度	108	13.1	340	41.3
夫婦以外の人	7	0.9	8	1.0
無回答	123	14.9	132	16.0
サンプル数	823	100.0	823	100.0

食料品・日用品等の買い物について性別にみると、実態は「ほとんど妻（男性 35.2%、女性 54.5%）」が男女とも最も多く、年齢別にみても 20 歳代の男性を除き同様となっている。

一方、理想については、男女ともに「夫婦とも同じ程度（男性 42.5%、女性 40.2%）」が最多となり、「どちらかといえば妻（男性 27.6%、女性 28.5%）」が続いている。

図表 II-38 食料品・日用品等の買い物（性・年代別）

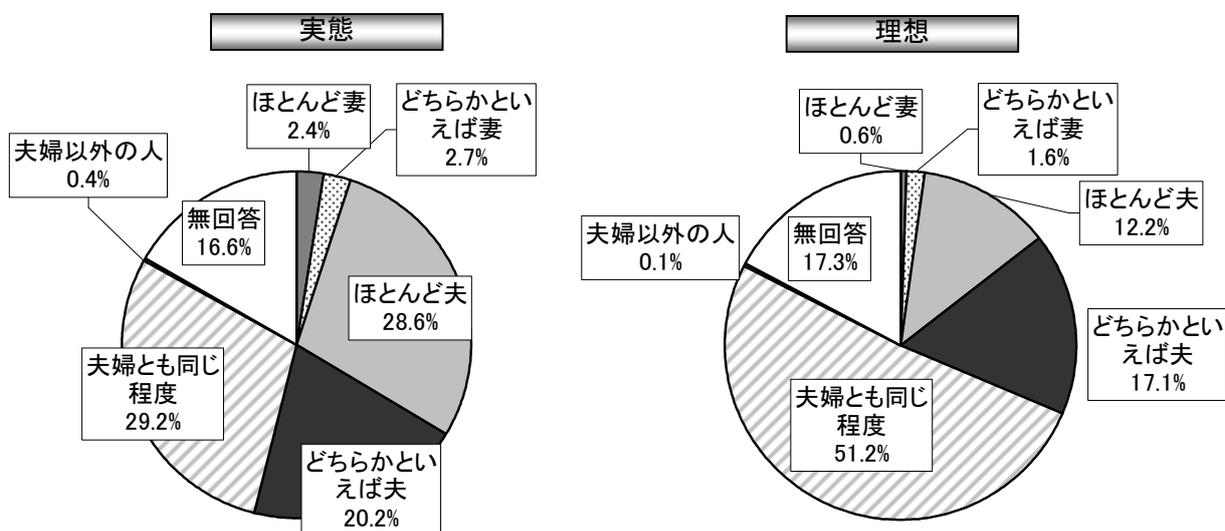
		合 計	ほ と ん ど 妻	ど ち ら か と い え ば 妻	ほ と ん ど 夫	ど ち ら か と い え ば 夫	夫 婦 と も 同 じ 程 度	夫 婦 以 外 の 人	無 回 答
実 態	全 体	823	46.9	20.4	1.7	2.1	13.1	0.9	14.9
	【 男 性 】	315	35.2	27.9	2.2	3.2	15.2	1.3	14.9
	20 歳 代	18	0.0	16.7	5.6	0.0	5.6	0.0	72.2
	30 歳 代	31	22.6	19.4	0.0	6.5	19.4	0.0	32.3
	40 歳 代	31	48.4	16.1	3.2	6.5	9.7	6.5	9.7
	50 歳 代	59	44.1	27.1	1.7	3.4	15.3	0.0	8.5
	60 歳 代	99	37.4	37.4	3.0	2.0	18.2	0.0	2.0
	70 歳 代 以上	77	33.8	27.3	1.3	2.6	14.3	2.6	18.2
	【 女 性 】	492	54.5	15.2	1.4	1.4	12.0	0.6	14.8
	20 歳 代	34	32.4	5.9	0.0	0.0	11.8	0.0	50.0
	30 歳 代	83	50.6	21.7	1.2	2.4	7.2	0.0	16.9
	40 歳 代	74	59.5	10.8	1.4	1.4	12.2	1.4	13.5
	50 歳 代	130	64.6	16.2	1.5	1.5	11.5	0.0	4.6
	60 歳 代	109	59.6	15.6	0.9	1.8	12.8	0.0	9.2
70 歳 代 以上	62	35.5	14.5	3.2	0.0	17.7	3.2	25.8	
理 想	全 体	823	12.0	28.1	0.2	1.3	41.3	1.0	16.0
	【 男 性 】	315	11.1	27.6	0.3	1.3	42.5	1.3	15.9
	20 歳 代	18	5.6	11.1	0.0	0.0	5.6	5.6	72.2
	30 歳 代	31	9.7	29.0	0.0	0.0	29.0	0.0	32.3
	40 歳 代	31	6.5	45.2	0.0	0.0	35.5	3.2	9.7
	50 歳 代	59	13.6	35.6	0.0	1.7	39.0	1.7	8.5
	60 歳 代	99	11.1	25.3	1.0	0.0	58.6	0.0	4.0
	70 歳 代 以上	77	13.0	20.8	0.0	3.9	41.6	1.3	19.5
	【 女 性 】	492	13.0	28.5	0.2	1.4	40.2	0.8	15.9
	20 歳 代	34	14.7	11.8	0.0	2.9	20.6	0.0	50.0
	30 歳 代	83	19.3	27.7	0.0	3.6	32.5	0.0	16.9
	40 歳 代	74	18.9	37.8	1.4	0.0	28.4	0.0	13.5
	50 歳 代	130	13.1	30.0	0.0	0.0	50.0	1.5	5.4
	60 歳 代	109	8.3	31.2	0.0	0.9	48.6	0.9	10.1
70 歳 代 以上	62	4.8	19.4	0.0	3.2	40.3	1.6	30.6	

#### ④ 不動産などの高価な買い物

不動産などの高価な買い物についてみると、実態は、「ほとんど夫」が 28.6%、「どちらかといえば夫」が 20.2%であり、両者を合わせる 48.8%が“夫”としており、“妻（ほとんど妻 2.4%+どちらかといえば妻 2.7%）”の 5.1%を上回っている。「夫婦とも同じ程度」は 29.2%、「夫婦以外の人」は 0.4%となっている。

一方、理想は、「夫婦とも同じ程度」が 51.2%と過半数を超え、最多となっている。「ほとんど夫」が 12.2%、「どちらかといえば夫」が 17.1%であり、両者を合わせると 29.3%が“夫”としており、“妻（ほとんど妻 0.6%+どちらかといえば妻 1.6%）”の 2.2%を大幅に上回っている。「夫婦以外の人」は 0.1%となっている。

図表 II-39 不動産などの高価な買い物



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	20	2.4	5	0.6
どちらかといえば妻	22	2.7	13	1.6
ほとんど夫	235	28.6	100	12.2
どちらかといえば夫	166	20.2	141	17.1
夫婦とも同じ程度	240	29.2	421	51.2
夫婦以外の人	3	0.4	1	0.1
無回答	137	16.6	142	17.3
サンプル数	823	100.0	823	100

不動産などの高価な買い物について性別にみると、実態は、男性は、「夫婦とも同じ程度（31.7%）」が最多で「ほとんど夫（24.8%）」が続いているのに対し、女性は、「ほとんど夫（31.1%）」が最も多く、次に「夫婦とも同じ程度（27.8%）」が続いている。

一方、理想をみると、男女ともに「夫婦とも同じ程度（男性52.1%、女性51.0%）」が5割を超え最も多くなっている。

図表 II-40 不動産などの高価な買い物（性・年代別）

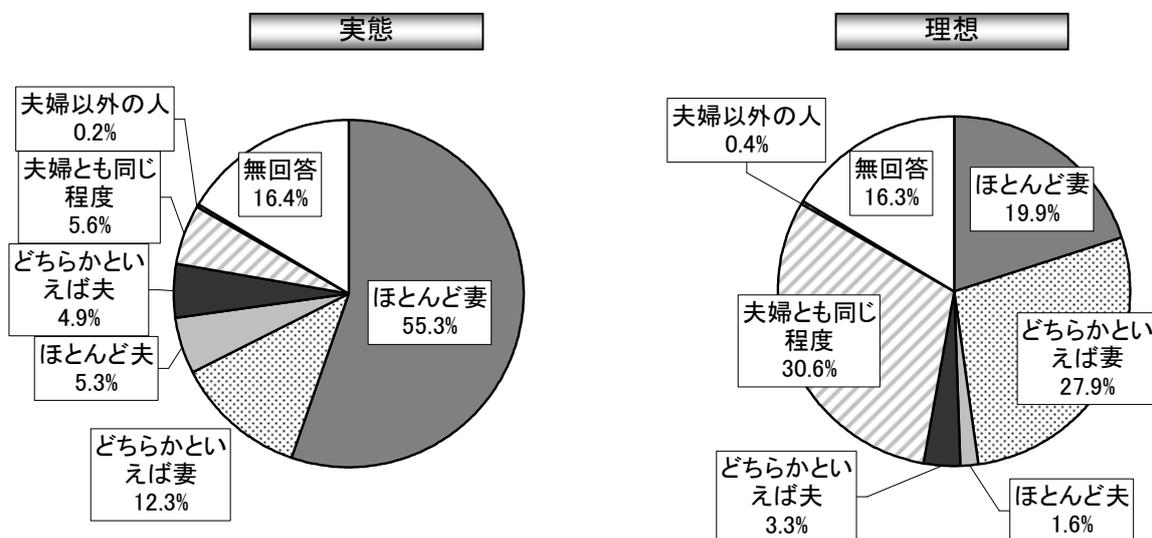
		合 計	ほ と ん ど 妻	ど ち ら か と い え ば 妻	ほ と ん ど 夫	ど ち ら か と い え ば 夫	夫 婦 と も 同 じ 程 度	夫 婦 以 外 の 人	無 回 答
実 態	全 体	823	2.4	2.7	28.6	20.2	29.2	0.4	16.6
	【 男 性 】	315	1.0	3.2	24.8	21.6	31.7	0.3	17.5
	20 歳 代	18	0.0	0.0	5.6	11.1	11.1	0.0	72.2
	30 歳 代	31	0.0	3.2	22.6	12.9	29.0	0.0	32.3
	40 歳 代	31	0.0	0.0	32.3	22.6	32.3	3.2	9.7
	50 歳 代	59	1.7	0.0	32.2	18.6	35.6	0.0	11.9
	60 歳 代	99	2.0	4.0	26.3	27.3	37.4	0.0	3.0
	70 歳代以上	77	0.0	6.5	19.5	22.1	27.3	0.0	24.7
	【 女 性 】	492	3.3	2.0	31.1	19.3	27.8	0.4	16.1
	20 歳 代	34	0.0	0.0	32.4	5.9	11.8	0.0	50.0
	30 歳 代	83	2.4	1.2	25.3	22.9	30.1	0.0	18.1
	40 歳 代	74	0.0	1.4	39.2	17.6	27.0	0.0	14.9
	50 歳 代	130	4.6	1.5	35.4	17.7	33.8	0.0	6.9
	60 歳 代	109	5.5	4.6	26.6	22.9	31.2	0.9	8.3
70 歳代以上	62	3.2	1.6	27.4	21.0	16.1	1.6	29.0	
理 想	全 体	823	0.6	1.6	12.2	17.1	51.2	0.1	17.3
	【 男 性 】	315	0.6	1.6	12.4	15.6	52.1	0.0	17.8
	20 歳 代	18	0.0	0.0	5.6	5.6	16.7	0.0	72.2
	30 歳 代	31	0.0	0.0	12.9	0.0	54.8	0.0	32.3
	40 歳 代	31	0.0	3.2	22.6	19.4	41.9	0.0	12.9
	50 歳 代	59	0.0	0.0	13.6	13.6	62.7	0.0	10.2
	60 歳 代	99	2.0	1.0	9.1	21.2	60.6	0.0	6.1
	70 歳代以上	77	0.0	3.9	13.0	16.9	44.2	0.0	22.1
	【 女 性 】	492	0.6	1.4	12.4	17.9	51.0	0.2	16.5
	20 歳 代	34	0.0	0.0	11.8	11.8	26.5	0.0	50.0
	30 歳 代	83	0.0	0.0	15.7	24.1	43.4	0.0	16.9
	40 歳 代	74	0.0	0.0	18.9	12.2	55.4	0.0	13.5
	50 歳 代	130	0.8	0.8	10.8	20.8	58.5	0.0	8.5
	60 歳 代	109	0.9	5.5	8.3	16.5	58.7	0.0	10.1
70 歳代以上	62	1.6	0.0	11.3	16.1	40.3	1.6	29.0	

### ⑤ 家計費の管理

家計費の管理についてみると、実態は、「ほとんど妻」が 55.3%と半数を超えており、「どちらかといえば妻 (12.3%)」を合わせる 67.6%が“妻”としており、“夫 (ほとんど夫 5.3%+どちらかといえば夫 4.9%)”の 10.2%を大幅に上回っている。「夫婦とも同じ程度」は 5.6%、「夫婦以外の人」は 0.2%となっている。

一方、理想は、「ほとんど妻」が 19.9%、「どちらかといえば妻」が 27.9%であり、両者を合わせると 47.8%が“妻”としており、“夫 (ほとんど夫 1.6%+どちらかといえば夫 3.3%)”の 4.9%を大幅に上回っている。「夫婦とも同じ程度」が 30.6%、「夫婦以外の人」は 0.4%となっている。

図表 II-41 家計費の管理



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	455	55.3	164	19.9
どちらかといえば妻	101	12.3	230	27.9
ほとんど夫	44	5.3	13	1.6
どちらかといえば夫	40	4.9	27	3.3
夫婦とも同じ程度	46	5.6	252	30.6
夫婦以外の人	2	0.2	3	0.4
無回答	135	16.4	134	16.3
サンプル数	823	100.0	823	100

家計費の管理について性別にみると、実態は、「ほとんど妻（男性 50.2%、女性 58.3%）」が男女とも最も多くなっており、年齢別にみても 20 歳代の男性を除き同様である。

一方、理想をみると、男女ともに「夫婦とも同じ程度（男性 30.2%、女性 31.1%）」が最多で、「どちらかといえば妻（男性 27.9%、女性 27.6%）」が続いている。

図表 II-42 家計費の管理（性・年代別）

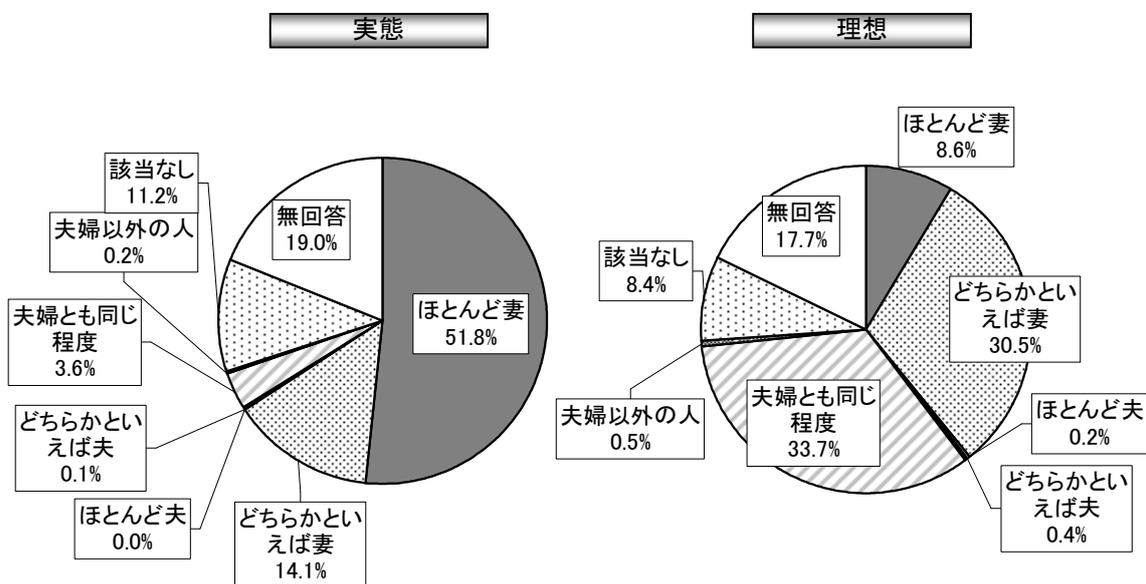
		合 計	ほ と ん ど 妻	ど ち ら か と い え ば 妻	ほ と ん ど 夫	ど ち ら か と い え ば 夫	夫 婦 と も 同 じ 程 度	夫 婦 以 外 の 人	無 回 答
実 態	全 体	823	55.3	12.3	5.3	4.9	5.6	0.2	16.4
	【 男 性 】	315	50.2	17.5	4.4	4.8	5.4	0.6	17.1
	20 歳 代	18	5.6	11.1	0.0	5.6	5.6	0.0	72.2
	30 歳 代	31	38.7	9.7	9.7	0.0	9.7	0.0	32.3
	40 歳 代	31	45.2	22.6	6.5	3.2	6.5	6.5	9.7
	50 歳 代	59	57.6	18.6	1.7	6.8	5.1	0.0	10.2
	60 歳 代	99	58.6	24.2	3.0	5.1	5.1	0.0	4.0
	70 歳 代 以上	77	50.6	10.4	6.5	5.2	3.9	0.0	23.4
	【 女 性 】	492	58.3	8.9	6.1	5.1	5.7	0.0	15.9
	20 歳 代	34	29.4	5.9	5.9	5.9	2.9	0.0	50.0
	30 歳 代	83	47.0	16.9	2.4	7.2	9.6	0.0	16.9
	40 歳 代	74	59.5	8.1	6.8	6.8	4.1	0.0	14.9
	50 歳 代	130	72.3	6.2	6.2	3.1	6.2	0.0	6.2
	60 歳 代	109	61.5	8.3	9.2	3.7	6.4	0.0	11.0
70 歳 代 以上	62	53.2	8.1	4.8	6.5	1.6	0.0	25.8	
理 想	全 体	823	19.9	27.9	1.6	3.3	30.6	0.4	16.3
	【 男 性 】	315	19.7	27.9	1.0	4.4	30.2	0.6	16.2
	20 歳 代	18	11.1	5.6	0.0	5.6	5.6	0.0	72.2
	30 歳 代	31	16.1	19.4	0.0	0.0	32.3	0.0	32.3
	40 歳 代	31	16.1	35.5	0.0	3.2	29.0	6.5	9.7
	50 歳 代	59	20.3	27.1	0.0	8.5	35.6	0.0	8.5
	60 歳 代	99	17.2	36.4	2.0	4.0	36.4	0.0	4.0
	70 歳 代 以上	77	27.3	23.4	1.3	3.9	23.4	0.0	20.8
	【 女 性 】	492	20.5	27.6	2.0	2.4	31.1	0.2	16.1
	20 歳 代	34	14.7	23.5	2.9	2.9	5.9	0.0	50.0
	30 歳 代	83	16.9	33.7	1.2	4.8	25.3	0.0	18.1
	40 歳 代	74	27.0	25.7	4.1	1.4	28.4	0.0	13.5
	50 歳 代	130	17.7	30.0	1.5	2.3	43.1	0.0	5.4
	60 歳 代	109	22.9	26.6	1.8	1.8	35.8	0.0	11.0
70 歳 代 以上	62	22.6	21.0	1.6	1.6	22.6	1.6	29.0	

## ⑥ 乳児・幼児の世話

乳児・幼児の世話についてみると、実態は、「ほとんど妻」が51.8%と過半数を超えており、「どちらかといえば妻(14.1%)」を合わせると65.9%が“妻”としており、“夫(ほとんど夫0.0%+どちらかといえば夫0.1%)”の0.1%を大幅に上回っている。「夫婦とも同じ程度」は3.6%、「夫婦以外の人」は0.2%となっている。

一方、理想は、「夫婦とも同じ程度」が33.7%と最多となっている。また、「ほとんど妻」が8.6%、「どちらかといえば妻」が30.5%であり、両者を合わせると39.1%が“妻”としており、“夫(ほとんど夫0.2%+どちらかといえば夫0.4%)”の0.6%を大幅に上回っている。「夫婦以外の人」は0.5%となっている。

図表 II-43 乳児・幼児の世話



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	426	51.8	71	8.6
どちらかといえば妻	116	14.1	251	30.5
ほとんど夫	0	0.0	2	0.2
どちらかといえば夫	1	0.1	3	0.4
夫婦とも同じ程度	30	3.6	277	33.7
夫婦以外の人	2	0.2	4	0.5
該当なし	92	11.2	69	8.4
無回答	156	19.0	146	17.7
サンプル数	823	100.0	823	100.0

乳児・幼児の世話について性別にみると、実態は「ほとんど妻（男性 41.6%、女性 58.1%）」が男女とも最も多くなっており、年齢別にみても 20～30 歳代の男性を除き同様である。

一方、理想をみると、男性は、「どちらかといえば妻（28.9%）」が最多で「夫婦とも同じ程度（27.0%）」が続いているのに対し、女性は、「夫婦とも同じ程度（38.4%）」が最も多く、「どちらかといえば妻（31.1%）」を上回っている。

図表 II-44 乳児・幼児の世話（性・年代別）

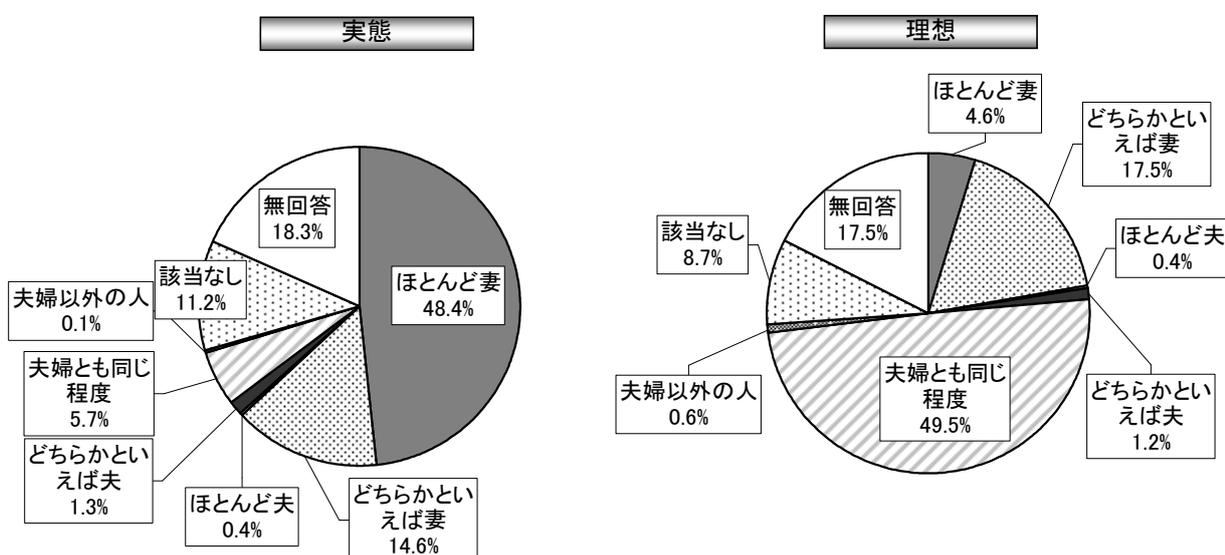
		合	ほ	ど	ほ	ど	夫	夫	該	無
		計	と	ち	と	ち	婦	婦	当	回
			ん	ら	ん	ら	と	以	な	答
			ど	か	ど	か	も	外	し	
			妻	と	と	と	同	の		
				い	い	同	じ	人		
				え	え	じ	程			
				ば	ば	程	度			
				妻	妻	度				
実態	全 体	823	51.8	14.1	0.0	0.1	3.6	0.2	11.2	19.0
	【 男 性 】	315	41.6	16.5	0.0	0.3	4.4	0.3	16.2	20.6
	20 歳 代	18	5.6	11.1	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	77.8
	30 歳 代	31	16.1	16.1	0.0	0.0	9.7	0.0	22.6	35.5
	40 歳 代	31	58.1	9.7	0.0	0.0	6.5	0.0	16.1	9.7
	50 歳 代	59	47.5	18.6	0.0	0.0	5.1	0.0	16.9	11.9
	60 歳 代	99	51.5	20.2	0.0	1.0	3.0	0.0	16.2	8.1
	70 歳 代 以上	77	36.4	14.3	0.0	0.0	2.6	1.3	16.9	28.6
	【 女 性 】	492	58.1	12.6	0.0	0.0	3.3	0.2	8.3	17.5
	20 歳 代	34	23.5	17.6	0.0	0.0	2.9	0.0	5.9	50.0
	30 歳 代	83	42.2	20.5	0.0	0.0	3.6	0.0	14.5	19.3
	40 歳 代	74	58.1	13.5	0.0	0.0	5.4	0.0	8.1	14.9
	50 歳 代	130	68.5	15.4	0.0	0.0	3.1	0.0	6.2	6.9
	60 歳 代	109	74.3	3.7	0.0	0.0	1.8	0.9	8.3	11.0
70 歳 代 以上	62	48.4	8.1	0.0	0.0	3.2	0.0	6.5	33.9	
理想	全 体	823	8.6	30.5	0.2	0.4	33.7	0.5	8.4	17.7
	【 男 性 】	315	13.0	28.9	0.0	0.6	27.0	1.0	11.4	18.1
	20 歳 代	18	5.6	11.1	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0	72.2
	30 歳 代	31	6.5	29.0	0.0	3.2	25.8	0.0	3.2	32.3
	40 歳 代	31	12.9	29.0	0.0	0.0	38.7	0.0	9.7	9.7
	50 歳 代	59	11.9	32.2	0.0	0.0	30.5	1.7	11.9	11.9
	60 歳 代	99	13.1	36.4	0.0	1.0	32.3	0.0	11.1	6.1
	70 歳 代 以上	77	18.2	20.8	0.0	0.0	18.2	1.3	18.2	23.4
	【 女 性 】	492	5.7	31.1	0.4	0.2	38.4	0.2	6.7	17.3
	20 歳 代	34	0.0	23.5	0.0	0.0	23.5	0.0	2.9	50.0
	30 歳 代	83	3.6	31.3	1.2	1.2	38.6	0.0	7.2	16.9
	40 歳 代	74	9.5	28.4	1.4	0.0	40.5	0.0	6.8	13.5
	50 歳 代	130	6.9	36.2	0.0	0.0	43.1	0.0	5.4	8.5
	60 歳 代	109	5.5	33.0	0.0	0.0	41.3	0.0	9.2	11.0
70 歳 代 以上	62	4.8	24.2	0.0	0.0	29.0	1.6	6.5	33.9	

### ⑦ 子どもの学校の委員や行事等への参加

子どもの学校の委員や行事等への参加についてみると、実態は、「ほとんど妻」が48.4%、「どちらかといえば妻」が14.6%となっており、両者を合わせる63.0%が“妻”としており、“夫（ほとんど夫0.4%+どちらかといえば夫1.3%）”の1.7%を大幅に上回っている。「夫婦とも同じ程度」は5.7%、「夫婦以外の人」は0.1%となっている。

一方、理想は、「夫婦とも同じ程度」が49.5%と最大となっている。また、「ほとんど妻」が4.6%、「どちらかといえば妻」が17.5%であり、両者を合わせると22.1%が“妻”としており、“夫（ほとんど夫0.4%+どちらかといえば夫1.2%）”の1.6%を大幅に上回っている。「夫婦以外の人」は0.6%となっている。

図表 II-45 子どもの学校の委員や行事等への参加



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	398	48.4	38	4.6
どちらかといえば妻	120	14.6	144	17.5
ほとんど夫	3	0.4	3	0.4
どちらかといえば夫	11	1.3	10	1.2
夫婦とも同じ程度	47	5.7	407	49.5
夫婦以外の人	1	0.1	5	0.6
該当なし	92	11.2	72	8.7
無回答	151	18.3	144	17.5
サンプル数	823	100.0	823	100.0

子どもの学校の委員や行事等への参加について性別にみると、実態は「ほとんど妻（男性 31.7%、女性 58.9%）」が男女とも最も多くなっており、年齢別にみても 20～30 歳代の男性を除き同様であった。

一方、理想をみると、男女ともに「夫婦とも同じ程度（男性 48.3%、女性 50.0%）」が最多で、「どちらかといえば妻（男性 14.0%、女性 19.7%）」が続いている。

図表 II-46 子どもの学校の委員や行事等への参加（性・年代別）

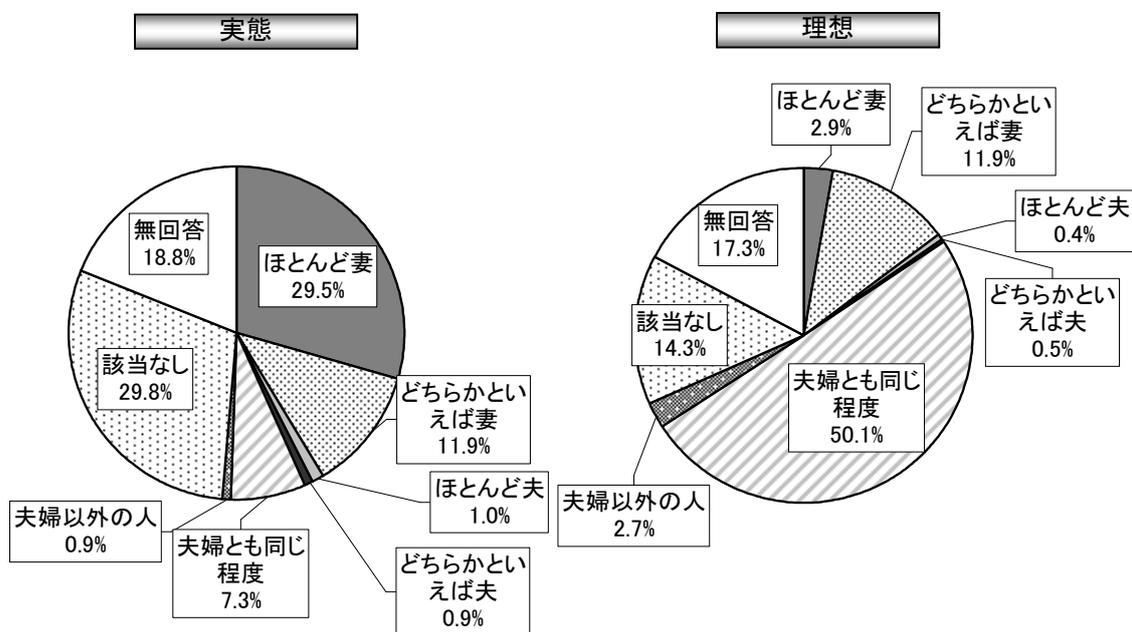
		合 計	ほ と ん ど 妻	ど ち ら か と い え ば 妻	ほ と ん ど 夫	ど ち ら か と い え ば 夫	夫 婦 と も 同 じ 程 度	夫 婦 以 外 の 人	該 当 な し	無 回 答
実 態	全 体	823	48.4	14.6	0.4	1.3	5.7	0.1	11.2	18.3
	【 男 性 】	315	31.7	20.6	1.0	2.5	8.3	0.3	14.9	20.6
	20 歳 代	18	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0	11.1	77.8
	30 歳 代	31	12.9	16.1	0.0	0.0	9.7	0.0	25.8	35.5
	40 歳 代	31	45.2	22.6	0.0	0.0	9.7	0.0	12.9	9.7
	50 歳 代	59	44.1	15.3	1.7	3.4	10.2	0.0	15.3	10.2
	60 歳 代	99	39.4	28.3	1.0	4.0	7.1	0.0	12.1	8.1
	70 歳 代 以上	77	22.1	20.8	1.3	1.3	7.8	1.3	15.6	29.9
	【 女 性 】	492	58.9	10.6	0.0	0.4	4.3	0.0	9.1	16.7
	20 歳 代	34	17.6	8.8	0.0	0.0	5.9	0.0	17.6	50.0
	30 歳 代	83	47.0	13.3	0.0	0.0	7.2	0.0	15.7	16.9
	40 歳 代	74	56.8	16.2	0.0	1.4	2.7	0.0	8.1	14.9
	50 歳 代	130	72.3	9.2	0.0	0.8	4.6	0.0	6.2	6.9
	60 歳 代	109	74.3	5.5	0.0	0.0	2.8	0.0	7.3	10.1
70 歳 代 以上	62	45.2	12.9	0.0	0.0	3.2	0.0	6.5	32.3	
理 想	全 体	823	4.6	17.5	0.4	1.2	49.5	0.6	8.7	17.5
	【 男 性 】	315	6.3	14.0	0.6	1.3	48.3	1.0	10.5	18.1
	20 歳 代	18	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	5.6	5.6	72.2
	30 歳 代	31	9.7	16.1	0.0	3.2	32.3	0.0	6.5	32.3
	40 歳 代	31	6.5	25.8	0.0	3.2	48.4	0.0	6.5	9.7
	50 歳 代	59	6.8	16.9	0.0	0.0	54.2	1.7	8.5	11.9
	60 歳 代	99	5.1	11.1	0.0	2.0	67.7	0.0	10.1	4.0
	70 歳 代 以上	77	7.8	13.0	2.6	0.0	32.5	1.3	16.9	26.0
	【 女 性 】	492	3.7	19.7	0.2	1.2	50.0	0.4	7.9	16.9
	20 歳 代	34	0.0	11.8	0.0	2.9	20.6	0.0	14.7	50.0
	30 歳 代	83	3.6	27.7	0.0	1.2	42.2	0.0	8.4	16.9
	40 歳 代	74	4.1	20.3	1.4	1.4	51.4	1.4	6.8	13.5
	50 歳 代	130	3.8	20.8	0.0	0.0	61.5	0.0	5.4	8.5
	60 歳 代	109	3.7	16.5	0.0	2.8	57.8	0.0	9.2	10.1
70 歳 代 以上	62	4.8	16.1	0.0	0.0	37.1	1.6	8.1	32.3	

### ⑧介護や看護を要する家族の世話

介護や看護を要する家族の世話についてみると、実態は、「ほとんど妻」が29.5%、「どちらかといえば妻」が11.9%となっており、両者を合わせる41.4%が“妻”としており、“夫（ほとんど夫1.0%+どちらかといえば夫0.9%）”の1.9%を大幅に上回っている。「夫婦とも同じ程度」は7.3%、「夫婦以外の人」は0.9%となっている。

一方、理想は、「夫婦とも同じ程度」が50.1%と過半数を上回っている。また、「ほとんど妻」が2.9%、「どちらかといえば妻」が11.9%で、両者を合わせると14.8%が“妻”としており、“夫（ほとんど夫0.4%+どちらかといえば夫0.5%）”の0.9%を大幅に上回っている。

図表 II-47 介護や看護を要する家族の世話



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	243	29.5	24	2.9
どちらかといえば妻	98	11.9	98	11.9
ほとんど夫	8	1.0	3	0.4
どちらかといえば夫	7	0.9	4	0.5
夫婦とも同じ程度	60	7.3	412	50.1
夫婦以外の人	7	0.9	22	2.7
該当なし	245	29.8	118	14.3
無回答	155	18.8	142	17.3
サンプル数	823	100.0	823	100

介護や看護を要する家族の世話について性別にみると、実態は、男性が「どちらかといえば妻（17.1%）」が最も多くなっているが、女性は「ほとんど妻（38.0%）」が最多となっている。

一方、理想をみると、男女ともに「夫婦とも同じ程度（男性48.3%、女性51.6%）」が最も多くなっている。

図表 II-48 介護や看護を要する家族の世話（性・年代別）

		合 計	ほ と ん ど 妻	ど ち ら か と い え ば 妻	ほ と ん ど 夫	ど ち ら か と い え ば 夫	夫 婦 と も 同 じ 程 度	夫 婦 以 外 の 人	該 当 な し	無 回 答
実 態	全 体	823	29.5	11.9	1.0	0.9	7.3	0.9	29.8	18.8
	【 男 性 】	315	15.6	17.1	1.0	1.3	9.8	1.0	34.3	20.0
	20 歳 代	18	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0	11.1	77.8
	30 歳 代	31	6.5	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0	51.6	35.5
	40 歳 代	31	16.1	12.9	0.0	0.0	9.7	0.0	51.6	9.7
	50 歳 代	59	16.9	16.9	1.7	3.4	8.5	1.7	39.0	11.9
	60 歳 代	99	22.2	23.2	1.0	0.0	12.1	2.0	33.3	6.1
	70 歳 代 以上	77	13.0	20.8	1.3	1.3	11.7	0.0	23.4	28.6
	【 女 性 】	492	38.0	8.3	1.0	0.6	5.9	0.8	27.8	17.5
	20 歳 代	34	20.6	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	26.5	50.0
	30 歳 代	83	21.7	8.4	0.0	1.2	7.2	1.2	43.4	16.9
	40 歳 代	74	35.1	6.8	1.4	0.0	2.7	0.0	37.8	16.2
	50 歳 代	130	46.9	6.9	1.5	0.8	9.2	0.0	26.2	8.5
	60 歳 代	109	45.0	11.0	0.9	0.0	4.6	1.8	24.8	11.9
70 歳 代 以上	62	41.9	11.3	1.6	1.6	6.5	1.6	4.8	30.6	
理 想	全 体	823	2.9	11.9	0.4	0.5	50.1	2.7	14.3	17.3
	【 男 性 】	315	4.1	10.2	0.3	0.6	48.3	2.9	16.2	17.5
	20 歳 代	18	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	5.6	11.1	72.2
	30 歳 代	31	0.0	3.2	0.0	0.0	41.9	3.2	19.4	32.3
	40 歳 代	31	3.2	25.8	0.0	3.2	45.2	6.5	6.5	9.7
	50 歳 代	59	5.1	11.9	1.7	0.0	49.2	3.4	18.6	10.2
	60 歳 代	99	5.1	13.1	0.0	0.0	61.6	3.0	13.1	4.0
	70 歳 代 以上	77	5.2	3.9	0.0	1.3	42.9	0.0	22.1	24.7
	【 女 性 】	492	2.2	12.4	0.4	0.4	51.6	2.6	13.6	16.7
	20 歳 代	34	0.0	17.6	0.0	0.0	14.7	0.0	17.6	50.0
	30 歳 代	83	1.2	8.4	0.0	1.2	47.0	0.0	24.1	18.1
	40 歳 代	74	1.4	14.9	1.4	0.0	48.6	1.4	16.2	16.2
	50 歳 代	130	3.1	13.1	0.8	0.0	60.0	4.6	11.5	6.9
	60 歳 代	109	1.8	12.8	0.0	0.0	61.5	3.7	11.0	9.2
70 歳 代 以上	62	4.8	9.7	0.0	1.6	46.8	3.2	3.2	30.6	

◆ 全国（内閣府調査）との比較

「内閣府調査」（平成 19 年度）では、「食事のしたく・あと片付け」と「掃除・洗濯」に関して本調査と類似した設問がある。しかし、その設問は本調査と全く同じではないため、比較可能な範囲で四街道市民の回答と比較してみた。

「食事のしたく・あと片付け」は、「妻（ほとんど+どちらかといえ）」との回答が四街道市（78.6%）、全国（80.0%）ともに最多となっている。

また、「掃除・洗濯」も「妻（同）」との回答が四街道市（75.7%）、全国（75.6%）ともに最も多くなっている。

図表 II-49 全国との比較

		合	ほ	ど	ほ	ど	夫	夫	無
		計	と	ちら	と	ちら	婦	婦	回
			ん	か	ん	か	とも	以	答
			ど	とい	ど	とい	同じ	外	
			夫	え	妻	え	程度	の	
			夫	ば	妻	ば	人	人	
			夫	夫	妻	妻	度	人	
食事のしたく・ あと片付け	四街道市	823	0.9	0.4	64.6	14.0	5.5	0.6	14.1
	全国	2,340	3.4		80.0		-	-	-
掃除・洗濯	四街道市	823	1.0	1.3	61.6	14.1	6.3	0.7	14.9
	全国	2,340	5.2		75.6		-	-	-

(注) 全国の「食事のしたく・あと片づけ」は「食事のしたく」と「食事のあと片付け、食器洗い」の平均値、同「掃除・洗濯」は、「掃除」の値を掲載。

## (2) 子どもの性別と子育てのあり方

問4. あなたは子どもの性別と子育てのあり方についてどう思いますか。①～⑤の各項目について、あなたの考えに近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

### 要旨

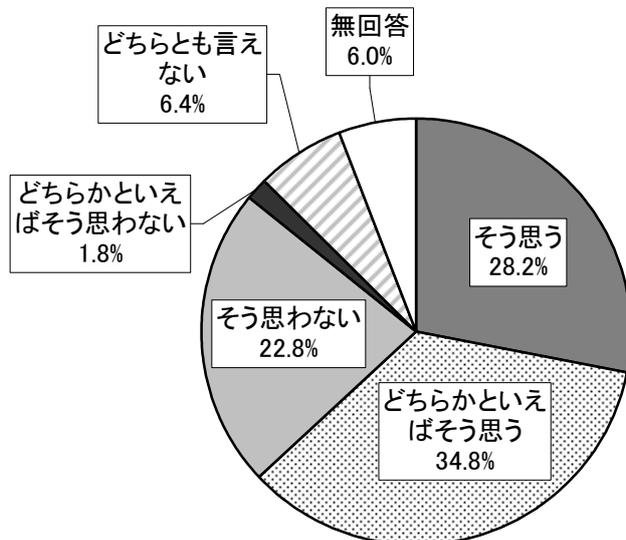
子どもの性別と子育てのあり方について、「炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術を身につけること」、「子どもの個性と意思を伸ばすこと」および「学歴」は、子どもの性別に関係なく期待しており、「男の子には女の子より責任感、勇気、決断力、実行力、向上心」を、「女の子には男の子より細やかな気配り、人への思いやり、優しさ」を備えることを求めたいと考える人が多かった。

これらの回答傾向には性別による差異はほとんど見られないが、年代別には差異があり、とくに「男の子には女の子より責任感、勇気、決断力、実行力、向上心」を、「女の子には男の子より細やかな気配り、人への思いやり、優しさ」を備えることを求めたいと考える人の割合は、年代が高いほど多い傾向であった。性別に関係ない期待と、男の子、女の子で異なる期待が混在している。

#### ① 男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい

「そう思う (28.2%)」、「どちらかといえばそう思う (34.8%)」の両者を合わせると63.0%が“思う”としており、“思わない (そう思わない 22.8%+どちらかといえばそう思わない 1.8%)”の24.6%を大幅に上回っている。一方、「どちらとも言えない」は6.4%となっている。

図表 II-50 男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	232	28.2
どちらかといえば そう思う	286	34.8
そう思わない	188	22.8
どちらかといえば そう思わない	15	1.8
どちらとも言えない	53	6.4
無回答	49	6.0
サンプル数	823	100.0

性別にみると、男性は、「そう思う」が32.4%、「どちらかといえばそう思う」が36.2%で、両者を合わせると68.6%が“思う”としており、“思わない（そう思わない20.0%+どちらかといえばそう思わない0.6%）”の20.6%を大幅に上回っている。「どちらともいえない」は4.8%となっている。男性を年齢別にみても同様の傾向となっている。

一方、女性も、「そう思う」が25.4%、「どちらかといえばそう思う」が34.6%で、両者を合わせると60.0%が“思う”としており、“思わない（そう思わない24.2%+どちらかといえばそう思わない2.6%）”の26.8%を大幅に上回っている。もっとも、女性の20歳代は、“思う（同）”が41.1%、“思わない（同）”が38.2%でほぼ同水準となっている。

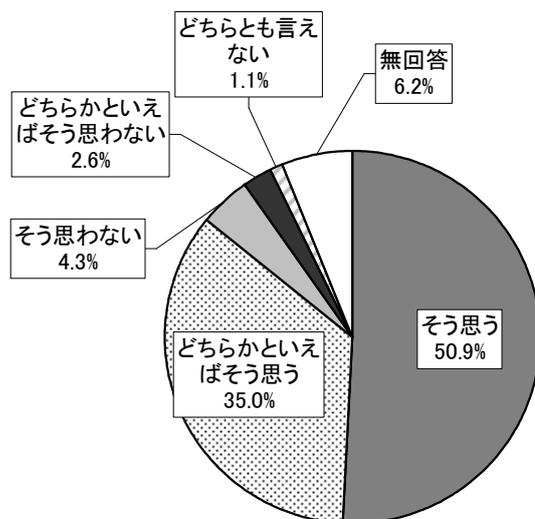
**図表 II-51 男の子には、女の子以上に、  
責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい（性・年代別）**

	合 計	そ う 思 う	そ ど ち ら か と い え ば 思 う	そ う 思 わ な い	そ ど ち ら か と い え ば 思 わ な い	ど ち ら と も 言 え な い	無 回 答
全 体	823	28.2	34.8	22.8	1.8	6.4	6.0
【 男 性 】	315	32.4	36.2	20.0	0.6	4.8	6.0
20 歳 代	18	11.1	27.8	27.8	0.0	5.6	27.8
30 歳 代	31	38.7	19.4	32.3	0.0	3.2	6.5
40 歳 代	31	32.3	48.4	6.5	0.0	9.7	3.2
50 歳 代	59	27.1	40.7	23.7	0.0	3.4	5.1
60 歳 代	99	34.3	36.4	20.2	2.0	4.0	3.0
70 歳 代 以上	77	36.4	36.4	15.6	0.0	5.2	6.5
【 女 性 】	492	25.4	34.6	24.2	2.6	7.7	5.5
20 歳 代	34	17.6	23.5	38.2	0.0	0.0	20.6
30 歳 代	83	20.5	41.0	24.1	1.2	8.4	4.8
40 歳 代	74	24.3	32.4	27.0	4.1	5.4	6.8
50 歳 代	130	20.0	34.6	28.5	3.8	12.3	0.8
60 歳 代	109	26.6	41.3	20.2	2.8	6.4	2.8
70 歳 代 以上	62	46.8	22.6	11.3	1.6	6.5	11.3

② 子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術を身につけさせたい

「そう思う」が50.9%と過半数を超えており、「どちらかといえばそう思う（35.0%）」を合わせる85.9%が“思う”と回答しており、“思わない（そう思わない4.3%+どちらかといえばそう思わない2.6%）」の6.9%を大幅に上回っている。一方、「どちらとも言えない」は1.1%となっている。

図表 II-52 子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術を身につけさせたい



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	419	50.9
どちらかといえば そう思う	288	35.0
そう思わない	35	4.3
どちらかといえば そう思わない	21	2.6
どちらとも言えない	9	1.1
無回答	51	6.2
サンプル数	823	100.0

性別にみると、男性は、「そう思う」が41.6%、「どちらかといえばそう思う」が40.0%で、両者を合わせる81.6%が“思う”としており、“思わない（そう思わない6.0%+どちらかといえばそう思わない4.8%）”の10.6%を大幅に上回っている。「どちらともいえない」は1.6%となっている。男性を年齢別にみても同様の傾向となっている。

一方、女性も、「そう思う」が57.3%、「どちらかといえばそう思う」が31.5%で、両者を合わせる88.8%が“思う”としており、“思わない（そう思わない3.3%+どちらかといえばそう思わない1.2%）”の4.5%を大幅に上回っている。「どちらともいえない」は0.8%となっている。女性を年齢別にみても同様の傾向となっている。

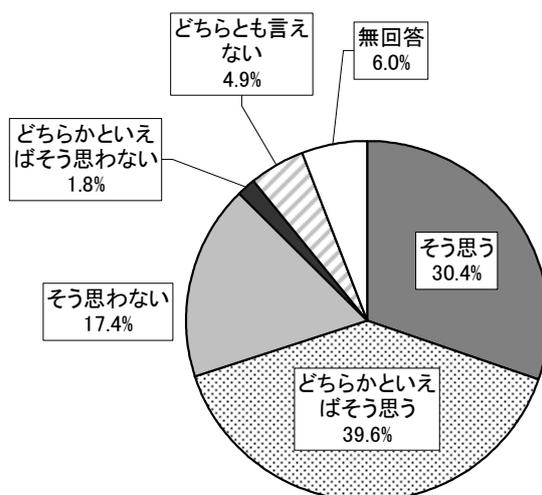
**図表 II-53 子どもには、性別に関係なく、  
炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術を身につけさせたい（性・年代別）**

	合 計	そ う 思 う	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	そ ど ち ら か と い え ば	ど ち ら と も い え な い	無 回 答
全 体	823	50.9	35.0	4.3	2.6	1.1	6.2
【 男 性 】	315	41.6	40.0	6.0	4.8	1.6	6.0
20 歳 代	18	22.2	44.4	5.6	0.0	0.0	27.8
30 歳 代	31	64.5	25.8	3.2	0.0	0.0	6.5
40 歳 代	31	51.6	32.3	6.5	6.5	0.0	3.2
50 歳 代	59	47.5	33.9	8.5	8.5	0.0	1.7
60 歳 代	99	39.4	47.5	4.0	5.1	2.0	2.0
70 歳 代 以上	77	31.2	42.9	7.8	3.9	3.9	10.4
【 女 性 】	492	57.3	31.5	3.3	1.2	0.8	5.9
20 歳 代	34	61.8	14.7	0.0	2.9	0.0	20.6
30 歳 代	83	50.6	41.0	2.4	0.0	1.2	4.8
40 歳 代	74	71.6	18.9	0.0	2.7	0.0	6.8
50 歳 代	130	68.5	23.1	4.6	1.5	1.5	0.8
60 歳 代	109	48.6	42.2	4.6	0.9	0.9	2.8
70 歳 代 以上	62	38.7	41.9	4.8	0.0	0.0	14.5

③ 女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり優しさなどを備えることを求めたい

「そう思う (30.4%)」、「どちらかといえばそう思う (39.6%)」の両者を合わせる70.0%が“思う”と回答しており、“思わない (そう思わない 17.4%+どちらかといえばそう思わない 1.8%)”の19.2%を大幅に上回っている。一方、「どちらともいえない」は4.9%となっている。

図表 II-54 女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり優しさなどを備えることを求めたい



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	250	30.4
どちらかといえば そう思う	326	39.6
そう思わない	143	17.4
どちらかといえば そう思わない	15	1.8
どちらともいえない	40	4.9
無回答	49	6.0
サンプル数	823	100.0

性別にみると、男性は、「そう思う」が32.4%、「どちらかといえばそう思う」が43.8%で、両者を合わせると76.2%が“思う”としており、“思わない（そう思わない13.7%+どちらかといえばそう思わない0.6%）”の14.3%を大幅に上回っている。「どちらともいえない」は3.2%となっている。男性を年齢別にみると、30歳代以上では同様の傾向がみられるが、20歳代では、“そう思わない”が38.9%と最も高く、“思う”の27.8%（そう思う5.6%+どちらかといえばそう思う22.2%）を上回っている。

一方、女性も、「そう思う」が29.1%、「どちらかといえばそう思う」が37.6%で、両者を合わせる66.7%が“思う”としており、“思わない（そう思わない19.3%+どちらかといえばそう思わない2.6%）”の21.9%を上回っている。「どちらともいえない」は6.1%となっている。女性を年齢別にみると、ほぼ同様の傾向となっているが、“そう思わない”という回答は、40歳代（31.1%）、50歳代（27.7%）、20歳代（26.5%）で比較的高くなっている。

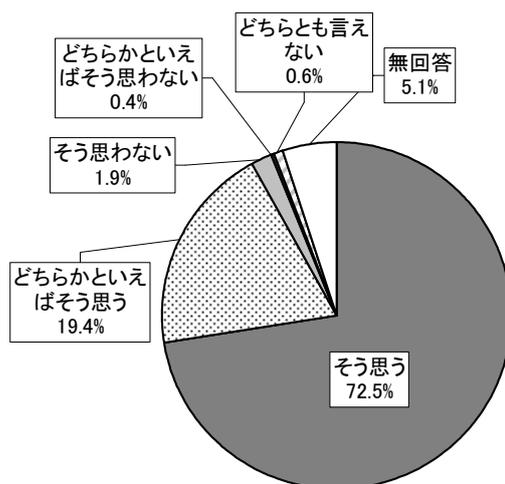
**図表 II-55 女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、  
人への思いやり優しさなどを備えることを求めたい（性・年代別）**

	合 計	そ う 思 う	そ ど ち ら か と い え ば 思 う	そ う 思 わ な い	そ ど ち ら か と い え ば 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	無 回 答
全 体	823	30.4	39.6	17.4	1.8	4.9	6.0
【 男 性 】	315	32.4	43.8	13.7	0.6	3.2	6.3
20 歳 代	18	5.6	22.2	38.9	0.0	5.6	27.8
30 歳 代	31	45.2	29.0	16.1	0.0	3.2	6.5
40 歳 代	31	29.0	54.8	6.5	0.0	6.5	3.2
50 歳 代	59	28.8	49.2	16.9	0.0	1.7	3.4
60 歳 代	99	34.3	45.5	14.1	2.0	2.0	2.0
70 歳 代 以上	77	35.1	44.2	6.5	0.0	3.9	10.4
【 女 性 】	492	29.1	37.6	19.3	2.6	6.1	5.3
20 歳 代	34	20.6	26.5	26.5	5.9	0.0	20.6
30 歳 代	83	31.3	37.3	15.7	3.6	7.2	4.8
40 歳 代	74	23.0	32.4	31.1	2.7	4.1	6.8
50 歳 代	130	23.8	37.7	27.7	1.5	8.5	0.8
60 歳 代	109	34.9	47.7	9.2	1.8	4.6	1.8
70 歳 代 以上	62	38.7	32.3	6.5	3.2	8.1	11.3

④ 性別に関係なく、子どもの個性と意思を大事に伸ばしたい

「そう思う」が72.5%と全体の約4分の3を占めており、「どちらかといえばそう思う(19.4%)」を合わせる91.9%が“思う”としている。一方、“思わない(そう思わない1.9%+どちらかといえばそう思わない0.4%)”は2.3%に留まっている。「どちらとも言えない」は0.6%となっている。

図表 II-56 性別に関係なく、子どもの個性と意思を大事に伸ばしたい



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	597	72.5
どちらかといえば そう思う	160	19.4
そう思わない	16	1.9
どちらかといえば そう思わない	3	0.4
どちらとも言えない	5	0.6
無回答	42	5.1
サンプル数	823	100.0

性別にみると、男性は、「そう思う」が68.3%、「どちらかといえばそう思う」が22.2%で、両者を合わせると90.5%が“思う”としており、“思わない（そう思わない2.9%+どちらかといえばそう思わない0.3%）”の3.2%を大幅に上回っている。「どちらともいえない」は0.6%となっている。男性を年齢別にみても同様の傾向がみられる。

女性も、「そう思う」が75.4%、「どちらかといえばそう思う」が17.7%で、両者を合わせる93.1%が“思う”としており、“思わない（そう思わない1.4%+どちらかといえばそう思わない0.4%）”の1.8%を大きく上回っている。「どちらともいえない」は0.6%となっている。女性を年齢別にみても、ほぼ同様の傾向となっている。

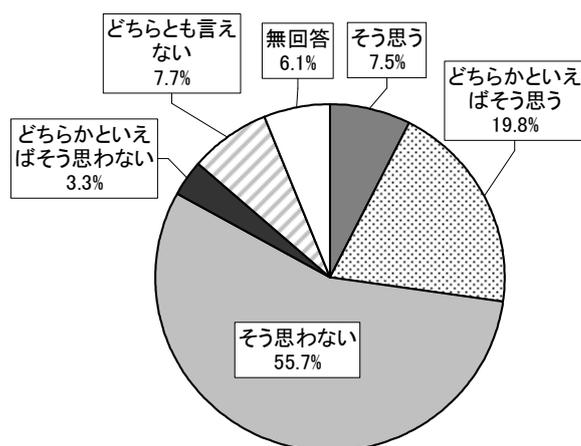
図表 II-57 性別に関係なく、子どもの個性と意思を  
大事に伸ばしたい（性・年代別）

	合 計	そ う 思 う	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	そ ど ち ら か と い え ば	ど ち ら と も い え な い	無 回 答
全 体	823	72.5	19.4	1.9	0.4	0.6	5.1
【 男 性 】	315	68.3	22.2	2.9	0.3	0.6	5.7
20 歳 代	18	61.1	11.1	0.0	0.0	0.0	27.8
30 歳 代	31	51.6	35.5	6.5	0.0	0.0	6.5
40 歳 代	31	64.5	32.3	0.0	0.0	0.0	3.2
50 歳 代	59	67.8	23.7	5.1	0.0	0.0	3.4
60 歳 代	99	74.7	18.2	2.0	0.0	2.0	3.0
70 歳 代 以上	77	70.1	19.5	2.6	1.3	0.0	6.5
【 女 性 】	492	75.4	17.7	1.4	0.4	0.6	4.5
20 歳 代	34	64.7	5.9	5.9	0.0	2.9	20.6
30 歳 代	83	78.3	16.9	0.0	0.0	0.0	4.8
40 歳 代	74	71.6	21.6	0.0	0.0	0.0	6.8
50 歳 代	130	78.5	18.5	1.5	0.8	0.8	0.0
60 歳 代	109	78.0	19.3	0.9	0.9	0.9	0.0
70 歳 代 以上	62	71.0	16.1	3.2	0.0	0.0	9.7

⑤ 男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせたい

「そう思わない」が 55.7%と過半数を上回っており、「どちらかといえばそう思わない (3.3%)」を合わせる 59.0%が“思わない”としており、“思う (そう思う 7.5%+どちらかといえばそう思う 19.8%)”の 27.3%を大幅に上回っている。一方、「どちらともいえない」は 7.7%となっている。

図表 II-58 男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせたい



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	62	7.5
どちらかといえば そう思う	163	19.8
そう思わない	458	55.7
どちらかといえば そう思わない	27	3.3
どちらともいえない	63	7.7
無回答	50	6.1
サンプル数	823	100.0

性別にみると、男性は、「そう思わない」が55.9%、「どちらかといえばそう思わない」が2.2%で、両者を合わせる58.1%が“思わない”としており、“思う（そう思う9.2%＋どちらかといえばそう思う17.8%）”の27.0%を大幅に上回っている。「どちらともいえない」は8.3%となっている。男性を年齢別にみてもほぼ同様の傾向がみられるが、70歳代では、“思わない（そう思わない＋どちらかといえばそう思わない）”が40.3%、“思う（同）”が36.4%でその差が僅かとなっている。

女性も、「そう思わない」が56.3%、「どちらかといえばそう思わない」が4.1%で、両者を合わせる60.4%が“思う”としており、“思う（そう思う6.1%＋どちらかといえばそう思わない20.9%）”の27.0%を大きく上回っている。「どちらともいえない」は7.3%となっている。女性を年齢別にみても、同様の傾向となっている。

図表 II-59 男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせたい（性・年代別）

	合 計	そ う 思 う	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	そ ど ち ら か と い え ば	ど ち ら と も い え な い	無 回 答
全 体	823	7.5	19.8	55.7	3.3	7.7	6.1
【 男 性 】	315	9.2	17.8	55.9	2.2	8.3	6.7
20 歳 代	18	5.6	11.1	50.0	0.0	5.6	27.8
30 歳 代	31	6.5	6.5	77.4	0.0	3.2	6.5
40 歳 代	31	3.2	25.8	61.3	3.2	3.2	3.2
50 歳 代	59	3.4	16.9	61.0	1.7	13.6	3.4
60 歳 代	99	11.1	18.2	60.6	2.0	6.1	2.0
70 歳代以上	77	15.6	20.8	36.4	3.9	11.7	11.7
【 女 性 】	492	6.1	20.9	56.3	4.1	7.3	5.3
20 歳 代	34	2.9	5.9	67.6	0.0	2.9	20.6
30 歳 代	83	9.6	19.3	53.0	2.4	10.8	4.8
40 歳 代	74	4.1	21.6	58.1	4.1	5.4	6.8
50 歳 代	130	1.5	23.1	60.8	6.2	7.7	0.8
60 歳 代	109	9.2	21.1	57.8	3.7	6.4	1.8
70 歳代以上	62	9.7	25.8	40.3	4.8	8.1	11.3

### (3) 介護が必要になったときの対応

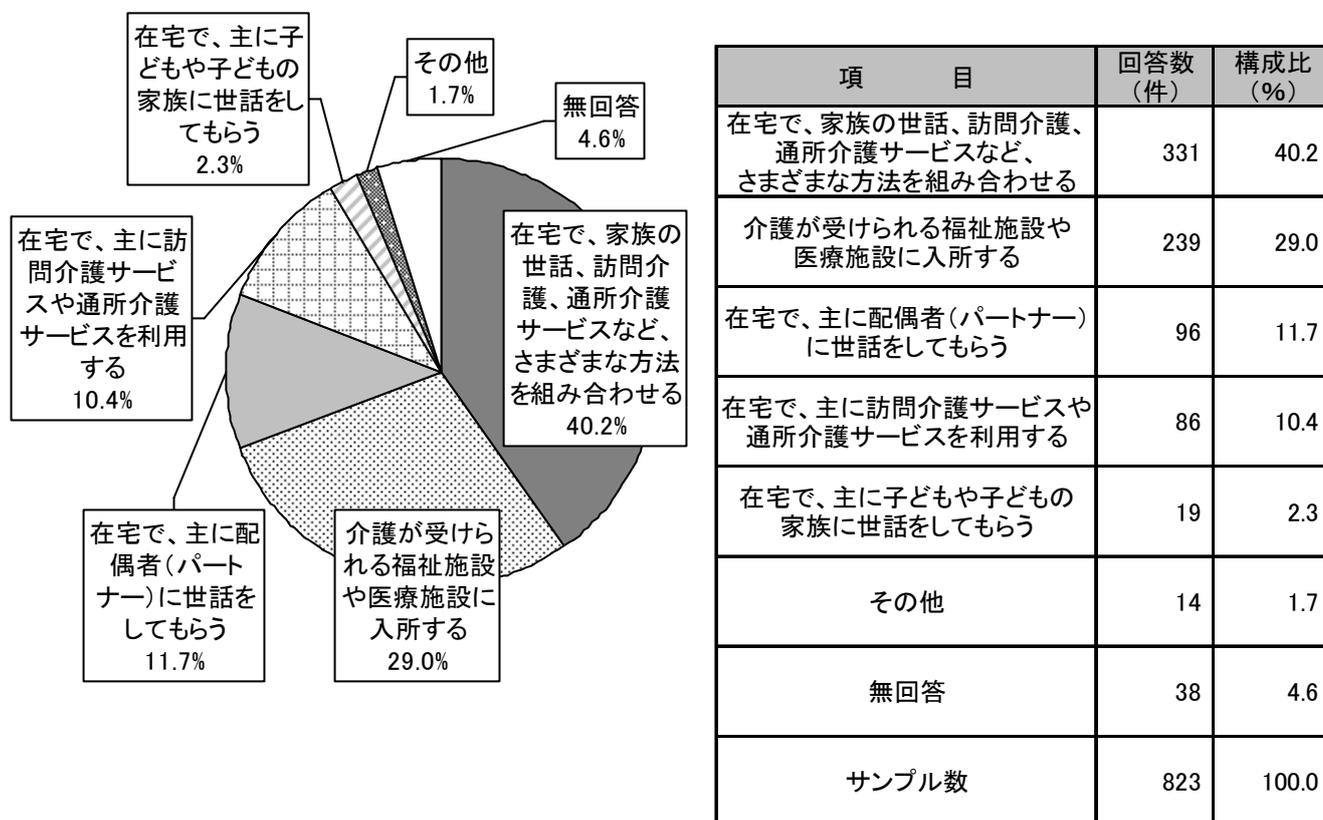
問5 もしあなたが、高齢や病気障害のために介護が必要となった場合、どうされたいですか。1つ選んで○をつけてください。現在、介護を受けている方は現状をお答えください。

#### 要 旨

男女ともに「在宅で、家族の世話、訪問介護、通所介護サービスなど、さまざまな方法を組み合わせる」が最も多かった。「在宅で、主に配偶者に世話をしてもらう」と回答した人の割合は、女性より男性が13.4ポイント高くなっている。一方、「福祉施設や医療施設への入所」を選んだ人の割合は、男性より女性が4.6ポイント高くなるなど、家族介護への期待に男女差が見られる。

高齢や病気障害のために介護が必要となった場合にどうされたいかについてみると、最も多い回答は、「在宅で、家族の世話、訪問介護、通所介護サービスなど、さまざまな方法を組み合わせる(40.2%)」となっており、「介護が受けられる福祉施設や医療施設に入所する(29.0%)」、「在宅で、主に配偶者(パートナー)に世話をしてもらう(11.7%)」、「在宅で、主に訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する(10.4%)」が続いている。一方、「在宅で主に子どもや子どもの家族に世話をしてもらう」は2.3%で他の項目に比べて低位に留まっている。

図表 II-60 介護が必要になったときの対応



性別にみると、男性は、「在宅で、家族の世話、訪問介護、通所介護サービスなど、さまざまな方法を組み合わせる(37.1%)」が最も多くなっており、「介護が受けられる福祉施設や医療施設に入所する(26.7%)」、「在宅で、主に配偶者(パートナー)に世話をしてもらおう(19.7%)」、「在宅で、主に訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する(9.5%)」が続いている。一方、「在宅で主に子どもや子どもの家族に世話をしてもらおう」は1.9%で他の項目に比べて低位に留まっている。

女性の最も多い回答も「在宅で、家族の世話、訪問介護、通所介護サービスなど、さまざまな方法を組み合わせる(42.1%)」となっており、「介護が受けられる福祉施設や医療施設に入所する(31.3%)」、「在宅で、主に訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する(11.0%)」「在宅で、主に配偶者(パートナー)に世話をしてもらおう(6.3%)」、が続いている。一方、「在宅で主に子どもや子どもの家族に世話をしてもらおう」は2.6%と他項目より低位となっている。

「在宅で、主に配偶者(パートナー)に世話をしてもらおう」を選んだ人の割合は、男性(19.7%)が女性(6.3%)より13.4ポイント高くなっている。一方、「介護が受けられる福祉施設や医療施設に入所する」を選んだ人の割合は、男性(26.7%)より女性(31.3%)が4.6ポイント高かった。

図表 II-61 介護が必要になったときの対応(性・年代別)

	合計	在宅で、家族の世話、訪問介護、通所介護サービスなど、さまざまな方法を組み合わせる	福祉施設や医療施設に入所する	在宅で、主に配偶者(パートナー)に世話をしてもらおう	在宅で、主に訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する	無回答	在宅で、主に子どもや子どもの家族に世話をしてもらおう	その他
全体	823	40.2	29.0	11.7	10.4	4.6	2.3	1.7
【男性】	315	37.1	26.7	19.7	9.5	3.2	1.9	1.9
20歳代	18	22.2	22.2	11.1	5.6	27.8	5.6	5.6
30歳代	31	32.3	19.4	25.8	9.7	6.5	3.2	3.2
40歳代	31	45.2	22.6	12.9	6.5	3.2	3.2	6.5
50歳代	59	33.9	37.3	22.0	6.8	0.0	0.0	0.0
60歳代	99	47.5	24.2	14.1	12.1	0.0	0.0	2.0
70歳代以上	77	28.6	27.3	27.3	10.4	2.6	3.9	0.0
【女性】	492	42.1	31.3	6.3	11.0	5.1	2.6	1.6
20歳代	34	47.1	20.6	5.9	2.9	23.5	0.0	0.0
30歳代	83	39.8	30.1	8.4	13.3	6.0	2.4	0.0
40歳代	74	48.6	27.0	4.1	12.2	4.1	4.1	0.0
50歳代	130	43.8	34.6	5.4	12.3	1.5	0.8	1.5
60歳代	109	40.4	34.9	4.6	11.9	1.8	1.8	4.6
70歳代以上	62	33.9	30.6	11.3	6.5	8.1	8.1	1.6

#### 4. 就業のあり方や現状について

##### (1) 女性の就業のあり方

問6 女性の就業のあり方についてうかがいます。①～③について、あなたの考えにもっとも近いもの1つを選んで○をつけて下さい。

#### 要 旨

女性の就業のあり方は、理想、現実、次世代の見通しとも、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就く」がもっとも多い。今回調査の「理想」の女性の就業のあり方は、「前回調査」（平成13年度）の結果と概ね同様であった。

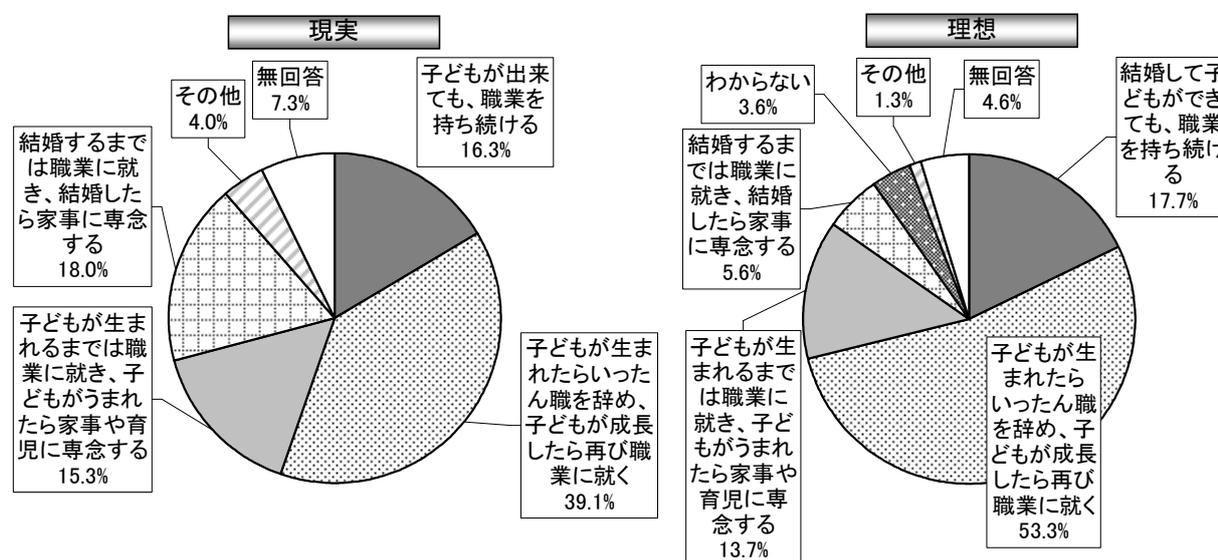
「理想」の女性の就業のあり方を、「内閣府調査」（平成19年度）の同じ問いに対する回答結果と比べると、四街道市民の回答は、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就く」が20.3ポイント高いが、「結婚して子どもができて職業を持ち続ける」が25.7ポイント低くなっており、四街道市民は、子どもが乳幼児の時期は、女性は職を離れて育児に専念すべきであるという考え方が強い。

## ① 女性の働き方

女性（男性の場合は「妻・パートナー」）の働き方の現実についてみると、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く（39.1%）」が最も多く、家事や育児に専念している（子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する 15.3%＋結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する 18.0%）向きは 33.3%となっている。一方、「子どもが生まれても職業を持ち続ける」は 16.3%となっている。

女性の働き方で理想と現実の乖離が大きいのは、「子どもが出来たらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く（理想 53.3%→現実 39.1%）」、「結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する（理想 5.6%→現実 18.0%）」となっている。

図表 II-62 女性の働き方



項目	現実		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
結婚して子どもができても、職業を持ち続ける	134	16.3	146	17.7
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く	322	39.1	439	53.3
子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する	126	15.3	113	13.7
結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する	148	18.0	46	5.6
わからない	-	-	30	3.6
その他	33	4.0	11	1.3
無回答	60	7.3	38	4.6
サンプル数	823	100.0	823	100.0

女性の働き方の現実を性別にみると、男性は、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く（37.8%）」が最も多く、家事や育児に専念している（子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する14.3%+結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する21.9%）向きは36.2%となっている。一方、「子どもが生まれても職業を持ち続ける」は15.2%となっている。現実と理想の乖離が大きいのは、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く（理想53.3%→現実37.8%）」、「結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する（理想7.3%→現実21.9%）」となっている。

女性の現実とは、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く（39.8%）」が最も多く、家事や育児に専念している（同15.9%+15.4%）向きは31.3%となっている。一方、「子どもが生まれても職業を持ち続ける」は17.3%となっている。現実と理想の乖離が大きいのは、「子どもが出来たらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く（理想53.3%→現実39.8%）」、「結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する（理想4.7%→現実15.4%）」となっている。

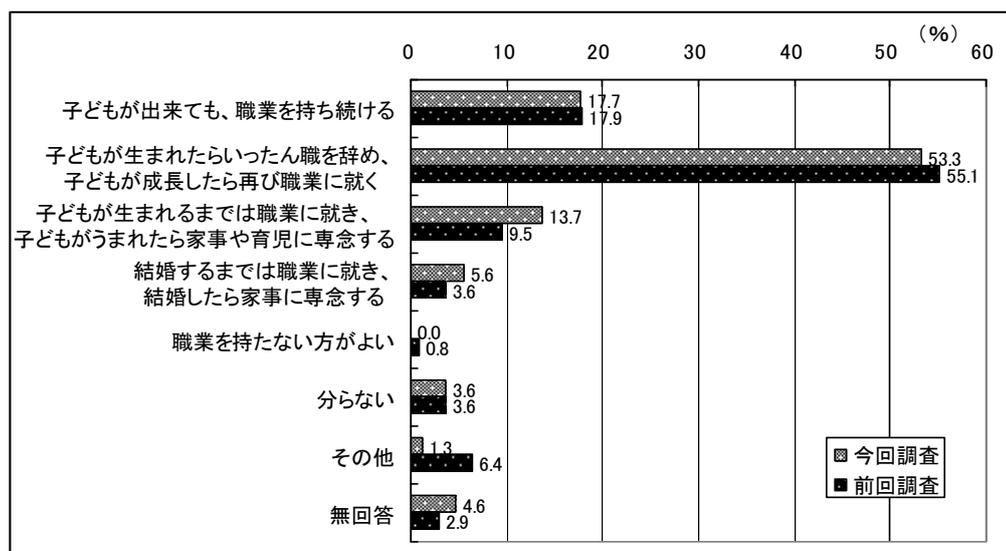
図表 II-63 女性の働き方（性・年代別）

	合計	子どもが職業を持来て続	子どもが職業を持来て続	子どもが職業を持来て続	子どもが職業を持来て続	子どもが職業を持来て続	知らない	その他	無回答
現実	全体	823	16.3	39.1	15.3	18.0	—	4.0	7.3
	【男性】	315	15.2	37.8	14.3	21.9	—	4.1	6.7
	20歳代	18	33.3	27.8	22.2	11.1	—	0.0	5.6
	30歳代	31	35.5	35.5	16.1	6.5	—	3.2	3.2
	40歳代	31	19.4	48.4	25.8	6.5	—	0.0	0.0
	50歳代	59	15.3	40.7	8.5	23.7	—	5.1	6.8
	60歳代	99	11.1	36.4	16.2	26.3	—	5.1	5.1
	70歳代以上	77	6.5	36.4	9.1	29.9	—	5.2	13.0
	【女性】	492	17.3	39.8	15.9	15.4	—	4.1	7.5
	20歳代	34	29.4	26.5	26.5	5.9	—	2.9	8.8
	30歳代	83	22.9	36.1	16.9	15.7	—	6.0	2.4
	40歳代	74	23.0	39.2	10.8	16.2	—	6.8	4.1
	50歳代	130	17.7	44.6	13.1	17.7	—	4.6	2.3
	60歳代	109	11.0	41.3	19.3	15.6	—	2.8	10.1
70歳代以上	62	6.5	40.3	14.5	14.5	—	0.0	24.2	
理想	全体	823	17.7	53.3	13.7	5.6	3.6	1.3	4.6
	【男性】	315	14.6	53.3	14.9	7.3	4.8	1.9	3.2
	20歳代	18	22.2	44.4	11.1	0.0	16.7	5.6	0.0
	30歳代	31	29.0	38.7	16.1	3.2	6.5	3.2	3.2
	40歳代	31	19.4	48.4	16.1	3.2	9.7	3.2	0.0
	50歳代	59	13.6	62.7	8.5	10.2	3.4	0.0	1.7
	60歳代	99	13.1	64.6	11.1	5.1	2.0	2.0	2.0
	70歳代以上	77	7.8	41.6	24.7	13.0	3.9	1.3	7.8
	【女性】	492	20.1	53.3	12.6	4.7	3.0	1.0	5.3
	20歳代	34	20.6	58.8	8.8	2.9	8.8	0.0	0.0
	30歳代	83	21.7	55.4	13.3	3.6	2.4	1.2	2.4
	40歳代	74	27.0	56.8	5.4	4.1	4.1	1.4	1.4
	50歳代	130	26.9	51.5	11.5	4.6	0.8	2.3	2.3
	60歳代	109	13.8	58.7	14.7	5.5	1.8	0.0	5.5
70歳代以上	62	6.5	37.1	21.0	6.5	6.5	0.0	22.6	

### ◆ 前回調査（平成 13 年度）との比較

「前回調査」（平成 13 年度）と比較すると、いずれの調査も「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」が最多となっているが、その割合は今回調査では、やや減少した（前回調査 55.1%→今回調査 53.3%）。次に多かった回答は、「子どもが出来ても、職業を持ち続ける」で、今回のウェイト（17.7%）は前回の 17.9% と比べてほぼ同水準となっている。次に「子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する」が続いているが、今回調査の割合（13.7%）は、前回（9.5%）比 4.2 ポイント増加した。

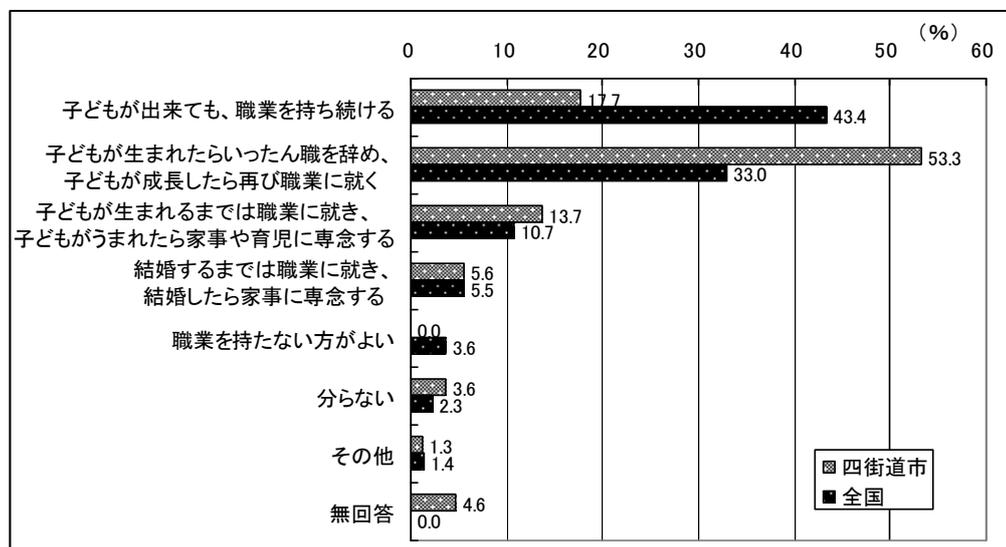
図表 II-64 女性の働き方（前回調査[平成 13 年度]との比較）



### ◆ 全国（内閣府調査）との比較

「内閣府調査」（平成 19 年度）と比較すると、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」は四街道市民が 53.3%と全国（33.3%）比 20.3 ポイントも高くなっている。一方、「子どもが出来ても、職業を持ち続ける」では、四街道市民は 17.7%と全国（43.4%）比 25.7 ポイントも低水準となっている。

図表 II-65 女性の働き方（全国との比較）

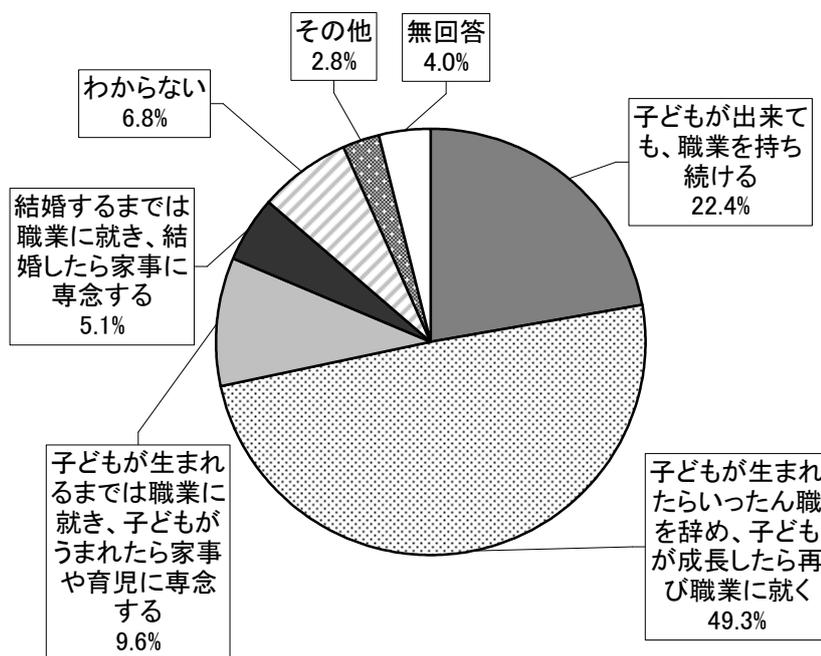


## ② 次世代の女性の働き方

次世代の女性（娘など）の働き方として望ましい形についてみると、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く（49.3%）」が最も多く、家事や育児に専念する（子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する 9.6%+結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する 5.1%）向きは 14.7%となっている。

一方、「子どもが出来ても、職業を持ち続ける」は 22.4%となっており、その割合は現実（16.3%、図表Ⅱ-62）より多くなっている。

図表 Ⅱ-66 次世代の女性の働き方



項目	回答数(件)	構成比(%)
子どもが出来ても、職業を持ち続ける	184	22.4
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く	406	49.3
子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもがうまれたら家事や育児に専念する	79	9.6
結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する	42	5.1
わからない	56	6.8
その他	23	2.8
無回答	33	4.0
サンプル数	823	100.0

性別にみると、男女ともに「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く（男性 49.8%、女性 49.0%）」が、家事や育児に専念する（子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する＋結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する）をそれぞれ上回っている（男性 18.1%、女性 12.4%）。

一方、「子どもが出来ても、職業を持ち続ける」は女性が 24.4%と男性（19.7%）より水準が高い。

図表 II-67 次世代の女性の働き方（性・年代別）

	合計	子どもが職業を出て来続	就く、子どもが再び職業に就く	子どもが生まれるまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する	子どもが生まれるまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する	家事や育児に専念する	わからない	その他	無回答
全 体	823	22.4	49.3	9.6	5.1	6.8	2.8	4.0	
【 男 性 】	315	19.7	49.8	12.7	5.4	6.7	1.9	3.8	
20 歳 代	18	11.1	44.4	11.1	0.0	22.2	5.6	5.6	
30 歳 代	31	29.0	32.3	16.1	6.5	12.9	0.0	3.2	
40 歳 代	31	35.5	29.0	16.1	0.0	16.1	3.2	0.0	
50 歳 代	59	22.0	59.3	8.5	3.4	5.1	0.0	1.7	
60 歳 代	99	17.2	64.6	5.1	6.1	3.0	3.0	1.0	
70 歳代以上	77	13.0	40.3	23.4	9.1	2.6	1.3	10.4	
【 女 性 】	492	24.4	49.0	7.5	4.9	7.1	3.5	3.7	
20 歳 代	34	32.4	38.2	11.8	2.9	5.9	8.8	0.0	
30 歳 代	83	22.9	50.6	8.4	6.0	7.2	4.8	0.0	
40 歳 代	74	31.1	40.5	5.4	5.4	12.2	4.1	1.4	
50 歳 代	130	28.5	52.3	6.2	1.5	6.2	3.8	1.5	
60 歳 代	109	19.3	56.9	7.3	5.5	4.6	0.9	5.5	
70 歳代以上	62	14.5	41.9	9.7	9.7	8.1	1.6	14.5	

## (2) 職場における性別による格差等

問7 現在、就労をしている方にうかがいます。あなたの職場では次に掲げるようなことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

### 要 旨

男性は「配置や仕事の与え方に性別による格差がある」が最も多く、次いで「昇進、昇格で性別による格差がある」となっている。一方、女性は「性別による格差は感じない」が最多で、「昇進、昇格で性別による格差がある」が続くなど、むしろ男性の方が職場での性別による格差を感じていた。

職場における性別による格差等をみると、格差があるとする回答のなかでは、「昇進、昇格（14.3%）」が最も多く、「配置や仕事の与え方（14.2%）」、「賃金・昇給（12.0%）」が続いている。一方、「性別による格差は感じない」とする向きは17.1%となっている。

図表 II-68 職場における性別による格差等

項 目	回答数(件)	構成比(%)
昇進、昇格	118	14.3
配置や仕事の与え方	117	14.2
賃金・昇給	99	12.0
雇用形態	79	9.6
募集や採用	78	9.5
深夜業	57	6.9
時間外労働	50	6.1
結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、 または居づらい雰囲気がある	37	4.5
教育訓練や研修など	26	3.2
住宅資金の貸付	21	2.6
定年	18	2.2
性別による格差は感じない	141	17.1
無回答	455	55.3
サンプル数	823	100.0

性別にみると、男性は、「配置や仕事の与え方」が 21.6%と最も高く、「昇進、昇格 (17.8%)」、「性別による格差は感じない (15.9%)」が続いている。男性を年齢別にみると、「配置や仕事の与え方」と回答したのは、30 歳代が 58.1%と他の年代と比べて際立って高くなっている。一方、「昇進、昇格」は 30~40 歳代でほぼ 3 人に 1 人の割合となっている。

一方、女性は、「性別による格差は感じない」が 18.5%でトップとなっており、「昇進、昇格 (12.0%)」、「賃金、昇給 (10.4%)」が続いている。女性を年齢別にみると、「性別による格差は感じない」とする向きは 50 歳代以下ではほぼ 4 人に 1 人となっている。一方、「昇進、昇格」に差別があるとする回答は、40 歳代が 25.7%で最も高かった。

図表 II-69 職場における性別による格差等（性・年代別）

	昇進、昇格	配置や仕事の与え方	賃金・昇給	雇用形態に	募集や採用	深夜業	時間外労働	居例結 づら婚 らい退 い職 霧が 気有 が ある 、 また は 慣	教育訓練や研修など	住宅資金の貸付	定年	性別による格差は感じない	無回答
全体	14.3	14.2	12.0	9.6	9.5	6.9	6.1	4.5	3.2	2.6	2.2	17.1	55.3
【男性】	17.8	21.6	14.3	14.3	12.1	12.7	9.5	3.5	4.4	2.2	2.5	15.9	47.9
20 歳代	11.1	22.2	5.6	11.1	22.2	27.8	16.7	11.1	5.6	5.6	0.0	33.3	33.3
30 歳代	32.3	58.1	32.3	29.0	19.4	22.6	22.6	12.9	6.5	6.5	9.7	16.1	6.5
40 歳代	35.5	35.5	25.8	29.0	22.6	12.9	22.6	3.2	6.5	3.2	3.2	19.4	19.4
50 歳代	18.6	35.6	11.9	16.9	8.5	16.9	10.2	0.0	6.8	1.7	0.0	32.2	18.6
60 歳代	18.2	11.1	15.2	12.1	12.1	11.1	4.0	1.0	2.0	2.0	1.0	11.1	59.6
70 歳代以上	5.2	3.9	5.2	3.9	5.2	3.9	3.9	3.9	3.9	0.0	3.9	3.9	87.0
【女性】	12.0	9.1	10.4	6.5	7.7	2.8	3.9	4.9	2.2	2.6	2.0	18.5	59.3
20 歳代	17.6	11.8	8.8	11.8	20.6	5.9	11.8	11.8	0.0	2.9	5.9	23.5	38.2
30 歳代	15.7	13.3	10.8	8.4	10.8	3.6	3.6	6.0	2.4	4.8	2.4	24.1	47.0
40 歳代	25.7	20.3	17.6	14.9	14.9	5.4	6.8	6.8	5.4	2.7	1.4	23.0	32.4
50 歳代	8.5	6.9	9.2	2.3	4.6	1.5	2.3	3.1	1.5	3.1	2.3	28.5	56.2
60 歳代	6.4	4.6	11.0	4.6	3.7	2.8	3.7	3.7	1.8	0.9	0.9	8.3	78.9
70 歳代以上	4.8	1.6	3.2	3.2	1.6	0.0	0.0	3.2	1.6	1.6	1.6	0.0	91.9

## 5. 地域活動への参加について

### (1) 地域活動への参加の有無

問8 (1) あなたは、現在、地域活動に参加していますか。1つ選んで○をつけてください。

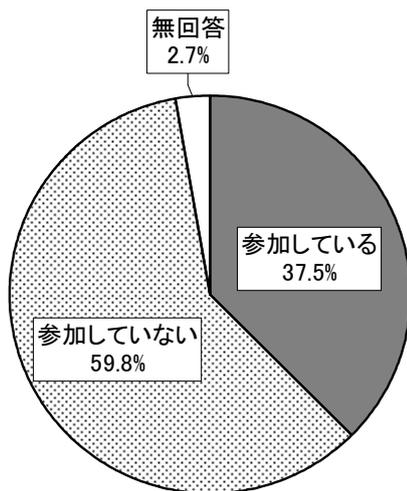
#### 要旨

地域活動に参加している人が全体の4割弱となっており、参加している活動は「町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブなどの活動」が最も多かった。地域活動に「参加している」人の割合は、女性が男性より11.5ポイント高い。

参加のしかたは、「企画から実行まで参画」している活動は「スポーツ・教養・文化の活動」、「町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブなどの活動」、「社会福祉の分野」、「自然保護・公害防止・ゴミ対策など環境分野の活動」など多くの活動で男性の割合が高く、女性の参画率が高いのは、「保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動」のみで、地域活動への部分的な参加は女性、企画から実行までの参画は男性が多数という傾向が見てとれる。

参加していない人の理由は、「仕事が忙しい」では、男性が女性より11.5ポイント高かった。一方、「家事・育児が忙しい」は12.6ポイント、「家族に高齢者・病人がいる」は5.5ポイントそれぞれ女性が男性より高くなっている。

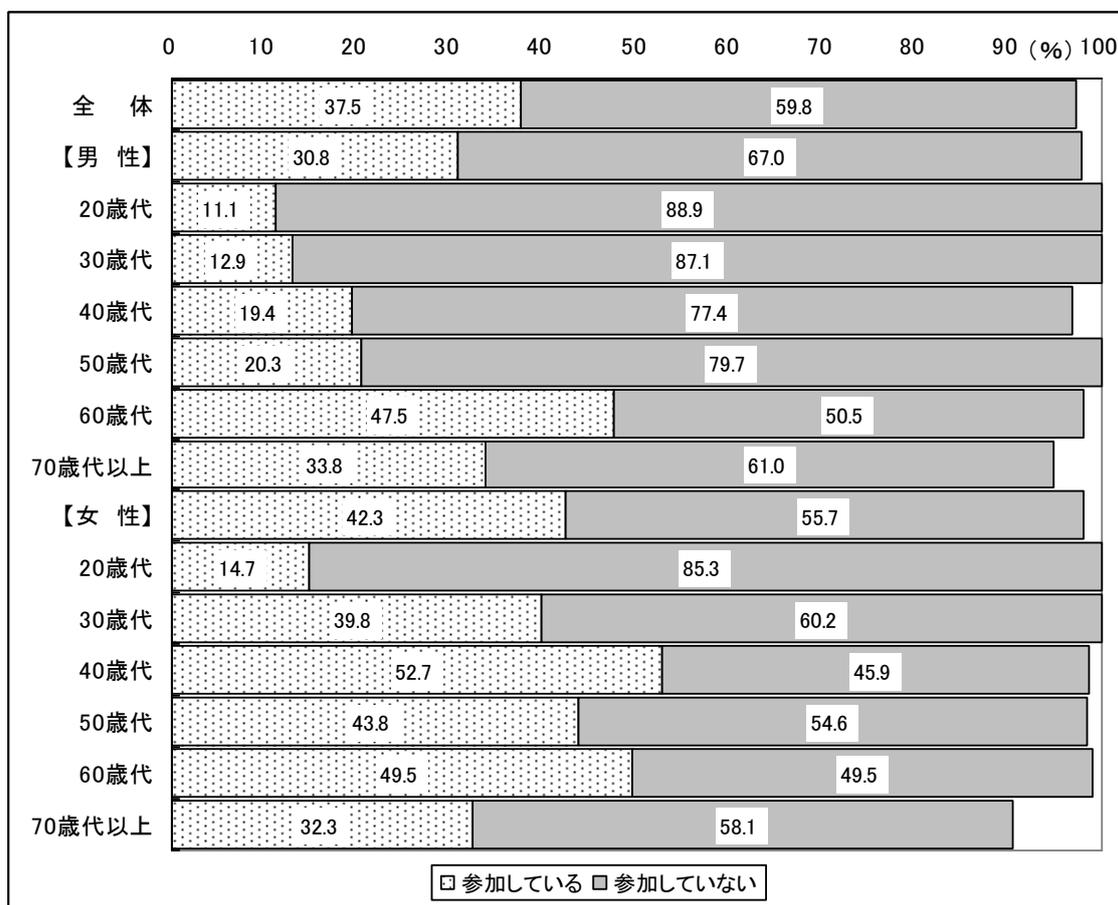
図表 II-70 地域活動への参加の有無



項目	回答数(件)	構成比(%)
参加している	309	37.5
参加していない	492	59.8
無回答	22	2.7
サンプル数	823	100.0

地域活動に参加している割合を性別にみると、女性が42.3%で男性(30.8%)より11.5ポイント高くなっている。年齢別にみて参加率が最も高いのは、男性は60歳代(47.5%)、女性が40歳代(52.7%)となっている。一方、参加率が低いのは、男女ともに20歳代(男性11.1%、女性14.7%)であった。

図表 II-71 地域活動への参加の有無(性・年代別)



(2) 活動に参加している地域活動

問8 (2) (1)で、「1. 参加している」と回答した方にうかがいます。①～⑪にあげる地域活動のうち、どの分野の活動に参加していますか。「企画から実行まで参画している活動」と「部分的に参加している活動」のそれぞれについて、あてはまるものをすべてに○をつけてください。

企画から実行まで参画している地域活動は、「スポーツ・教養・文化の活動（11.0%）」が最も多く、「町内会・自治会・青年団・婦人会・老人クラブなどの活動（10.7%）」、「保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動（4.9%）」が続いている。

一方、部分的に参加している地域活動は、「町内会・自治会・青年団・婦人会・老人クラブなどの活動（55.7%）」、「スポーツ・教養・文化の活動（42.1%）」、「保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動（24.9%）」の順となっている。

図表 II-72 活動に参加している地域活動

項 目	企画から実行まで参画		部分的に参加	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
スポーツ・教養・文化の活動	34	11.0	130	42.1
町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブなどの活動	33	10.7	172	55.7
保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動	15	4.9	77	24.9
社会福祉分野の活動	8	2.6	52	16.8
自然保護・公害防止・ゴミ対策など環境分野の活動	4	1.3	59	19.1
保護・医療分野の活動	1	0.3	13	4.2
国際交流・多文化共生・国際協力に関する活動	0	0.0	21	6.8
男女共同参画分野の活動	0	0.0	15	4.9
消費生活分野の活動	0	0.0	13	4.2
市政への参画・官民協働の活動	2	0.6	31	10.0
その他	3	1.0	9	2.9
無回答	231	74.8	26	8.4
サンプル数	309	100.0	309	100.0

性別にみると、企画から実行まで参画している活動で、男性の割合が女性の割合を上回っているのは、「町内会・自治会・青年団・婦人会・老人クラブなどの活動」、「スポーツ・教養・文化の活動」、「自然保護・公害防止・ゴミ対策など環境分野の活動」、「社会福祉の分野」となっている。女性の参画率が男性を上回っているのは、「保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動」、「市政への参画・官民協働の活動」となっている。

部分的に参画している活動で男性の割合が女性より多い項目は、「スポーツ・教養・文化の活動」、「市政への参画・官民協働の活動」、「国際交流・多文化共生・国際協力に関する活動」、「男女共同参画分野の活動」となっている。一方、女性の参画率が男性を上回っているのは、「保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動」、「町内会・自治会・青年団・婦人会・老人クラブなどの活動」、「自然保護・公害防止・ゴミ対策など環境分野の活動」、「保護・医療分野の活動」、「社会福祉の分野」、「消費生活分野の活動」となっている。

図表 II-73 活動に参加している地域活動（性・年代別）

		のスポーツ・教養・文化	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動
		の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動	の活動
企画から実行まで参画	全 体	11.0	10.7	4.9	2.6	1.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.0	74.8
	【 男 性 】	14.4	20.6	0.0	4.1	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	66.0
	20 歳 代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	30 歳 代	6.5	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.3
	40 歳 代	3.2	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.5
	50 歳 代	1.7	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.2
	60 歳 代	7.1	8.1	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.9
	70 歳 代 以上	3.9	6.5	0.0	3.9	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	87.0
	【 女 性 】	9.6	5.8	7.2	1.9	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.5	79.3
	20 歳 代	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	97.1
	30 歳 代	3.6	4.8	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.4
	40 歳 代	2.7	1.4	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.1
	50 歳 代	6.2	0.8	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	93.8
	60 歳 代	3.7	3.7	0.0	1.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.8
70 歳 代 以上	3.2	3.2	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	91.9	
部分的に参画	全 体	42.1	55.7	24.9	16.8	19.1	4.2	6.8	4.9	4.2	10.0	2.9	8.4	
	【 男 性 】	49.5	48.5	13.4	15.5	16.5	3.1	10.3	5.2	4.1	14.4	4.1	10.3	
	20 歳 代	5.6	5.6	0.0	5.6	5.6	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	88.9	
	30 歳 代	3.2	6.5	3.2	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	90.3	
	40 歳 代	9.7	6.5	6.5	3.2	6.5	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	83.9	
	50 歳 代	6.8	11.9	6.8	3.4	6.8	0.0	3.4	0.0	0.0	3.4	0.0	79.7	
	60 歳 代	26.3	19.2	5.1	7.1	6.1	1.0	4.0	1.0	1.0	7.1	1.0	58.6	
	70 歳 代 以上	16.9	20.8	1.3	3.9	2.6	1.3	2.6	2.6	2.6	3.9	2.6	68.8	
	【 女 性 】	38.5	58.7	30.8	16.8	20.2	4.8	4.8	4.8	4.3	7.7	2.4	7.7	
	20 歳 代	0.0	8.8	2.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.2	
	30 歳 代	10.8	25.3	26.5	3.6	7.2	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2	0.0	62.7	
	40 歳 代	16.2	32.4	35.1	2.7	8.1	2.7	2.7	1.4	2.7	1.4	1.4	52.7	
	50 歳 代	12.3	26.9	5.4	8.5	6.9	2.3	3.1	3.8	2.3	4.6	1.5	59.2	
	60 歳 代	32.1	24.8	5.5	15.6	11.0	3.7	2.8	1.8	2.8	6.4	1.8	52.3	
70 歳 代 以上	12.9	19.4	3.2	3.2	11.3	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	0.0	72.6		

### (3) 地域活動に参加していない理由

問8 (3) (1)で、「2. 参加していない」と回答した方にうかがいます。その理由を、2つまで選んで○をつけてください。

地域活動に参加していない理由をみると、「仕事が忙しい (33.7%)」が最も多く、「情報が少なく、参加の仕方がわからない (19.1%)」、「参加したい活動が見つからない (11.6%)」、「健康に自信がないため (11.0%)」が続いている。

一方、約5人に1人は「特に理由はない (20.9%)」としている。

図表 II-74 地域活動に参加していない理由

項 目	回答数(件)	構成比(%)
仕事が忙しい	166	33.7
情報が少なく、参加の仕方がわからない	94	19.1
参加したい活動が見つからない	57	11.6
健康に自身がないため	54	11.0
身近に活動する仲間・場所などが無い	49	10.0
人間関係がわずらわしい	48	9.8
関心がない	48	9.8
高齢のため	42	8.5
家事・育児が忙しい	37	7.5
経済的に余裕がない	32	6.5
家族に高齢者・病人がいる	31	6.3
家族の理解がない	2	0.4
特に理由はない	103	20.9
その他	21	4.3
無回答	15	3.0
サンプル数	492	100.0

参加していない理由について性別にみると、男女ともに「仕事が忙しい」が最多となっており、その割合は、男性が40.3%と女性（28.8%）より11.5ポイント高い。

一方、「家事・育児が忙しい」は、女性が13.1%と男性（0.5%）より12.6ポイント高く、「家族に高齢者・病人がいる」も女性が8.8%と男性（3.3%）より5.5ポイント高くなっている。

図表 II-75 地域活動に参加していない理由（性・年代別）

	合計	仕事が忙しい	家事・育児が忙しい	家族の理解がない	家族に高齢者・病人がいる	身近に活動する仲間・場所がない	情報が少なく、参加の仕方がわからない	参加したい活動が見つからない	人間関係がわずらわしい	健康に自身がないため	高齢のため	関心がない	経済的に余裕がない	特に理由はない	その他	無回答
全 体	485	33.7	7.5	0.4	6.3	10.0	19.1	11.6	9.8	11.0	8.5	9.8	6.5	20.9	4.3	3.0
【 男 性 】	211	40.3	0.5	0.5	3.3	8.5	21.3	11.8	10.0	8.1	10.9	10.9	6.2	23.2	4.7	4.7
20 歳 代	18	33.3	0.0	0.0	0.0	5.6	27.8	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2	16.7	22.2	5.6	11.1
30 歳 代	31	38.7	3.2	0.0	0.0	9.7	35.5	3.2	3.2	3.2	0.0	6.5	0.0	25.8	0.0	22.6
40 歳 代	31	54.8	0.0	0.0	3.2	3.2	16.1	6.5	6.5	3.2	0.0	12.9	12.9	12.9	6.5	22.6
50 歳 代	59	47.5	0.0	1.7	1.7	13.6	15.3	10.2	5.1	1.7	0.0	8.5	5.1	13.6	1.7	23.7
60 歳 代	99	15.2	0.0	0.0	3.0	3.0	12.1	8.1	7.1	5.1	1.0	6.1	3.0	16.2	4.0	49.5
70歳代以上	77	9.1	0.0	0.0	2.6	2.6	3.9	7.8	7.8	11.7	28.6	2.6	0.0	11.7	2.6	45.5
【 女 性 】	274	28.8	13.1	0.4	8.8	11.3	17.5	11.7	9.9	12.8	6.9	9.1	6.6	18.6	4.0	1.8
20 歳 代	34	23.5	20.6	0.0	0.0	17.6	26.5	5.9	2.9	2.9	0.0	8.8	0.0	14.7	2.9	20.6
30 歳 代	83	21.7	21.7	0.0	1.2	7.2	13.3	4.8	4.8	0.0	0.0	8.4	4.8	8.4	0.0	41.0
40 歳 代	74	25.7	9.5	0.0	4.1	2.7	9.5	4.1	6.8	4.1	0.0	5.4	4.1	4.1	1.4	55.4
50 歳 代	130	21.5	3.1	0.0	8.5	2.3	6.9	7.7	5.4	6.2	0.0	5.4	6.2	14.6	2.3	45.4
60 歳 代	109	4.6	0.0	0.0	4.6	8.3	8.3	11.0	6.4	11.9	2.8	1.8	1.8	11.0	2.8	51.4
70歳代以上	62	1.6	0.0	1.6	6.5	8.1	4.8	1.6	4.8	16.1	25.8	3.2	1.6	8.1	4.8	41.9

#### (4) 今後（引き続き）参加したい地域活動

問9 あなたは、今後、地域活動に参加したいと思いますか（現在参加している方は、引き続き参加したいと思いますか）。①～⑪の各活動について1つずつ選んで○をつけてください。

今後（現在参加している方は、引き続き）参加したい地域活動についてみると、「スポーツ・教養・文化の活動（67.7%）」が最も多く、「自然保護・公害防止・ゴミ対策など環境分野の活動（56.1%）」、「町内会・自治会・青年団・婦人会・老人クラブなどの活動（55.6%）」、「社会福祉活動の分野（53.0%）」が続いている。

図表 II-76 今後（引き続き）参加したい地域活動

【構成比(%)】

	参加したい	参加したくない		無回答	
		企画から 実行まで	部分的に		
スポーツ・教養・文化の活動	67.7	7.3	60.4	14.8	17.5
自然保護・公害防止・ゴミ対策 など環境分野の活動	56.1	4.6	51.5	20.5	23.3
町内会・自治会、青年団・ 婦人会・老人クラブなどの活動	55.6	4.9	50.7	27.9	16.5
社会福祉分野の活動	53.0	4.0	49.0	23.2	23.8
消費生活分野の活動	36.9	1.7	35.2	34.6	28.4
保護・医療分野の活動	35.8	2.1	33.7	35.0	29.3
国際交流・多文化共生・ 国際協力に関する活動	35.8	4.7	31.1	37.7	26.5
市政への参画・官民協働の活動	35.4	3.9	31.5	38.0	26.6
保育園・学校等の保護者会・ PTA活動、子ども育成会活動	35.0	2.9	32.1	35.7	29.3
男女共同参画分野の活動	33.1	1.3	31.8	38.3	28.6
その他	5.4	0.9	4.5	18.0	76.7

【回答数(件)】

	参加したい	参加したくない		無回答	
		企画から 実行まで	部分的に		
スポーツ・教養・文化の活動	557	60	497	122	144
自然保護・公害防止・ゴミ対策 など環境分野の活動	462	38	424	169	192
町内会・自治会、青年団・ 婦人会・老人クラブなどの活動	457	40	417	230	136
社会福祉分野の活動	436	33	403	191	196
消費生活分野の活動	304	14	290	285	234
国際交流・多文化共生・ 国際協力に関する活動	295	39	256	310	218
保護・医療分野の活動	294	17	277	288	241
市政への参画・官民協働の活動	291	32	259	313	219
保育園・学校等の保護者会・ PTA活動、子ども育成会活動	288	24	264	294	241
男女共同参画分野の活動	273	11	262	315	235
その他	44	7	37	148	631

## 6. 社会生活と家庭生活・地域活動のバランスについて

### (1) 職業生活と家庭生活・地域活動への関わり方

問 10 あなたの現在の、職業生活と、家庭生活や町内会やボランティアなどの地域活動への関わり方は1～5のうちどれにあてはまりますか。1つ選んで○をつけてください。

#### 要 旨

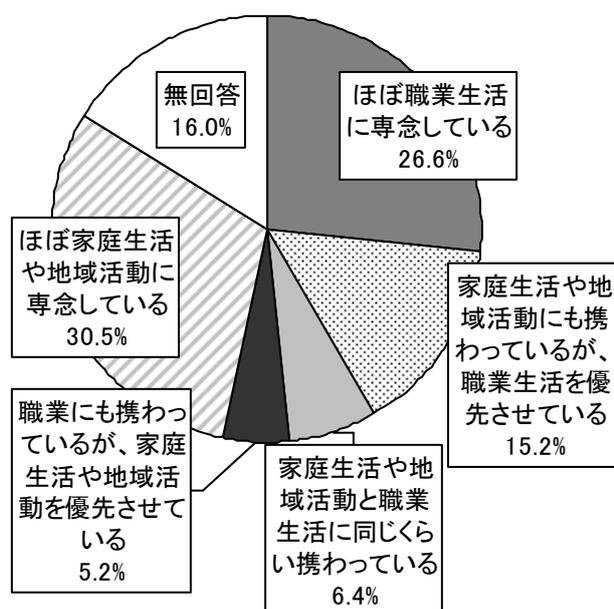
社会生活と家庭生活・地域活動のバランスのとり方は、多様でありうるが、今回調査では、職業生活か家庭生活・地域活動のいずれか一方に「ほぼ専念」、または「優先させている」という回答が大半となっており、「同じくらい」という選択はしにくいことがうかがえた。

また、「ほぼ職業生活に専念している」、「職業生活を優先させている」は、男性が女性より 26.4 ポイント高く、「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」、「家庭生活や地域活動を優先させている」は、女性が男性より 21.8 ポイント高いなど、性別分業を反映した男女差が見られた。

職業生活と地域活動（家庭生活・町内会・ボランティアなど）への関わり方についてみると、「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」が 30.5%で最多となっており、「ほぼ職業生活に専念している（26.6%）」、「家庭生活や地域活動にも携わっているが、職業生活を優先させている（15.2%）」が続いている。

一方、「家庭生活や地域活動と職業生活に同じくらいに携わっている（6.4%）」、「職業にも携わっているが、家庭生活や地域活動を優先させている（5.2%）」は他の項目と比べて低位に留まっている。

図表 II-77 職業生活と地域活動への関わり方



項 目	回答数 (件)	構成比 (%)
ほぼ職業生活に専念している	219	26.6
家庭生活や地域活動にも携わっているが、職業生活を優先させている	125	15.2
家庭生活や地域活動と職業生活に同じくらい携わっている	53	6.4
職業にも携わっているが、家庭生活や地域活動を優先させている	43	5.2
ほぼ家庭生活や地域活動に専念している	251	30.5
無回答	132	16.0
サンプル数	823	100.0

性別にみて男性の割合が女性を上回っているのは、「ほぼ職業生活に専念している（女性比+23.3ポイント）」、「家庭生活や地域活動にも携わっているが、職業生活を優先させている（同+3.1ポイント）」となっている。一方、女性の割合が男性より高いのは、「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している（男性比+12.5ポイント）」、「職業にも携わっているが、家庭生活や地域活動を優先させている（同+17.2ポイント）」、「家庭生活や地域活動と職業生活に同じくらい携わっている（同+4.0ポイント）」となっている。

図表 II-78 職業生活と地域活動への関わり方（性・年代別）

	合計	ほぼ職業生活に専念している	先家庭生活や地域活動にも携わらせているが、職業生活を優先	活家に同じくらい携わっている	て庭職業にも携わっているが、家庭生活を優先	専念しているが、家庭生活や地域活動に	無回答
全 体	823	26.6	15.2	6.4	5.2	30.5	16.0
【 男 性 】	315	41.0	17.1	4.1	2.5	20.0	15.2
20 歳 代	18	77.8	5.6	0.0	5.6	5.6	5.6
30 歳 代	31	74.2	16.1	6.5	0.0	3.2	0.0
40 歳 代	31	58.1	29.0	3.2	6.5	3.2	0.0
50 歳 代	59	50.8	30.5	8.5	1.7	3.4	5.1
60 歳 代	99	32.3	17.2	1.0	4.0	33.3	12.1
70 歳 代 以上	77	15.6	5.2	5.2	0.0	32.5	41.6
【 女 性 】	492	17.7	14.0	8.1	7.1	37.2	15.9
20 歳 代	34	52.9	2.9	5.9	0.0	35.3	2.9
30 歳 代	83	22.9	16.9	8.4	9.6	38.6	3.6
40 歳 代	74	20.3	17.6	17.6	16.2	23.0	5.4
50 歳 代	130	16.9	23.8	10.8	6.9	29.2	12.3
60 歳 代	109	10.1	4.6	2.8	5.5	55.0	22.0
70 歳 代 以上	62	3.2	8.1	1.6	0.0	38.7	48.4

## (2) 職業生活と家庭生活や地域活動を両立させるために必要な取組み

問 11 男女が共に、職業生活と家庭生活や地域活動を両立できるようにするための取組みとして必要と思われるものを①、②の各項目についてお答えください。

### 要 旨

職業生活や家庭生活、地域活動などを両立させるための、「取組みが必要な分野・問題点」や「問題点に対応するための具体的な取組み」としては、出産・育児・介護に関することが最も多く選択されており、四街道市民は、この点を職業生活と家庭生活や地域活動を両立させる上での課題とみていることがわかる。

「取組みが必要な分野・問題点」、「問題点に対応するための具体的な取組み」とも、男性は法律に基づくあるいは事業所としての制度の整備、女性は支援サービスの充実を重要と考える向きが多いなど男女差がみられた。

#### ① 取組みが必要な分野・問題点

職業生活と家庭生活や地域活動を両立させるために取組みが必要な分野・問題点としては、「出産・育児・介護に係る休暇、休業をとっても元の職場や仕事に戻れる制度の普及徹底」が43.7%で最多となっており、「出産・育児・介護に係る休暇、休業を取得しやすい環境や制度の普及（40.5%）」、「男性の育児休業・介護休業の取得、家庭との両立をうながす制度の普及（30.6%）」が続いている。

図表 II-79 取組みが必要な分野・問題点

項 目	回答数(件)	構成比(%)
出産・育児・介護に係る休暇、休業をとっても元の職場や仕事に戻れる制度の普及徹底	360	43.7
出産・育児・介護に係る休暇、休業を取得しやすい環境や制度の普及	333	40.5
男性の育児休業・介護休業の取得、家庭との両立をうながす制度の普及	252	30.6
短時間勤務や在宅勤務などの普及	218	26.5
保育サービスの充実	210	25.5
パートタイマー、派遣、勤務地を限定した採用など正社員以外の多様な働き方の普及	147	17.9
常勤で働いていない人や求職中の人なども利用できるような、保育サービスの利用条件の柔軟化	114	13.9
職場での性別による差別の禁止の徹底	110	13.4
子育て、介護などに関する市民同士のつながり、交流の促進	104	12.6
子育て、介護など家庭責任と職業の両立に関する相談サービスの提供	84	10.2
働く場で女性の活躍を促進するための優先的な支援、女性管理職の増加	81	9.8
女性の就業・復職・昇進や起業のための学習や訓練機会の充実	71	8.6
その他	15	1.8
無回答	69	8.4
サンプル数	823	100.0

性別にみると、男女ともに、「出産・育児・介護に係る休暇、休業をとっても元の職場や仕事に戻れる制度の普及徹底（男性 42.5%、女性 44.9%）」となっており、「出産・育児・介護に係る休暇、休業を取得しやすい環境や制度の普及（男性 38.7%、女性 41.3%）」、「男性の育児休業・介護休業の取得、家庭との両立をうながす制度の普及（男性 29.5%、女性 31.9%）」が続いている。

男性の割合が女性を上回っているのは、「職場での性別による差別の禁止の徹底（男性 20.6%、女性 8.5%）」や「働く場で女性の活躍を促進するための優先的な支援、女性管理職の増加（男性 11.1%、女性 8.7%）」などとなっている。一方、女性の割合が男性より多い項目は、「子育て、介護など家庭責任と職業の両立に関する相談サービスの提供（女性 12.2%、男性 7.6%）」、「パートタイマー、派遣、勤務地を限定した採用など正社員以外の多様な働き方の普及（女性 19.3%、男性 15.9%）」、「女性の就業・復職・昇進や起業のための学習や訓練機会の充実（女性 9.8%、男性 7.0%）」などとなっている。

図表 II-80 取組みが必要な分野・問題点（性・年代別）

	合計	出産・育児・介護に係る休暇、休業をとっても元の職場や仕事に戻れる制度の普及徹底	出産・育児・介護に係る休暇、休業を取得しやすい環境や制度の普及	男性との育児休業・介護休業の取得、家庭との両立をうながす制度の普及	短時間勤務や在宅勤務などの普及	保育サービスの充実	働き方の普及	パートタイマー、派遣、勤務地を限定した採用など正社員以外の多様な働き方の普及	常勤でも働いていけない人や求職中の人も利用できるような柔軟な条件の柔軟化	職場での性別による差別の禁止の徹底	子育て、介護などに関する市民同士のつながり、交流の促進	子育て、介護など家庭責任と職業の両立に関する相談サービスの提供	働く場で女性の活躍を促進するための優先的な支援、女性管理職の増加	女性の就業・復職・昇進や起業のための学習や訓練機会の充実	無回答	その他
全体	823	43.7	40.5	30.6	26.5	25.5	17.9	13.9	13.4	12.6	10.2	9.8	8.6	8.4	1.8	
【男性】	315	42.5	38.7	29.5	25.4	24.1	15.9	14.3	20.6	12.4	7.6	11.1	7.0	9.2	2.2	
20歳代	18	33.3	38.9	50.0	38.9	22.2	16.7	0.0	16.7	22.2	5.6	5.6	0.0	5.6	5.6	
30歳代	31	45.2	45.2	38.7	19.4	29.0	19.4	12.9	25.8	19.4	6.5	12.9	3.2	0.0	3.2	
40歳代	31	35.5	38.7	29.0	35.5	29.0	22.6	6.5	25.8	6.5	9.7	0.0	12.9	0.0	6.5	
50歳代	59	45.8	40.7	32.2	25.4	20.3	20.3	18.6	18.6	10.2	8.5	10.2	8.5	3.4	1.7	
60歳代	99	49.5	37.4	28.3	24.2	28.3	14.1	21.2	11.1	13.1	8.1	15.2	6.1	8.1	2.0	
70歳代以上	77	35.1	36.4	20.8	22.1	18.2	10.4	9.1	31.2	10.4	6.5	11.7	7.8	23.4	0.0	
【女性】	492	44.9	41.3	31.9	27.4	26.6	19.3	13.6	8.5	13.0	12.2	8.7	9.8	7.1	1.6	
20歳代	34	50.0	73.5	29.4	20.6	38.2	20.6	5.9	5.9	11.8	8.8	2.9	8.8	2.9	0.0	
30歳代	83	32.5	42.2	32.5	41.0	34.9	21.7	16.9	3.6	2.4	10.8	9.6	10.8	6.0	2.4	
40歳代	74	43.2	40.5	32.4	29.7	27.0	28.4	8.1	9.5	13.5	10.8	5.4	12.2	2.7	5.4	
50歳代	130	56.2	36.9	36.2	23.8	28.5	25.4	17.7	3.8	13.8	13.1	10.8	6.9	3.1	0.8	
60歳代	109	45.0	47.7	31.2	23.9	23.9	10.1	19.3	11.9	19.3	14.7	9.2	8.3	6.4	0.0	
70歳代以上	62	37.1	21.0	24.2	24.2	9.7	8.1	1.6	19.4	14.5	11.3	9.7	14.5	25.8	1.6	

## ② 問題点に対応するための具体的な取組み

職業生活と家庭生活や地域活動を両立させるための問題点に対応するための具体的な取組みとしては、「出産・育児・介護に関する公的なサービスの充実」が32.9%で最多となっており、「職業生活と家庭生活の両立に対する社会全体の認識づくり(30.3%)」、「出産・育児・介護に関するサービス利用者の、助成金や税控除など経済負担の軽減(28.9%)」が続いている。

図表 II-81 問題点に対応するための具体的な取組み

項 目	回答数(件)	構成比(%)
出産・育児・介護に関する公的なサービスの充実	271	32.9
職業生活と家庭生活の両立 に対する社会全体の認識づくり	249	30.3
出産・育児・介護に関するサービス利用者の、 助成金や税控除など経済負担の軽減	238	28.9
企業等事業所に対する職業生活と 家庭生活の両立に関する働きかけ	156	19.0
両立支援を行う公的な機関の整備	138	16.8
女性の就職や復職、起業に対する支援	116	14.1
企業等事業所の、職業生活と家庭生活の 両立のための取組みへの助成金などの支援	113	13.7
差別禁止、両立支援のための 法律、制度の強化	88	10.7
その他	10	1.2
無回答	100	12.2
サンプル数	823	100.0

性別にみると、男性は、「職業生活と家庭生活の両立に対する社会全体の認識づくり (33.7%)」が最も多くなっており、「出産・育児・介護に関する公的なサービスの充実 (30.5%)」、「出産・育児・介護に関するサービス利用者の、助成金や税控除など経済負担の軽減 (26.0%)」が続いている。一方、女性は、「出産・育児・介護に関する公的なサービスの充実 (34.6%)」が最多で、「出産・育児・介護に関するサービス利用者の、助成金や税控除など経済負担の軽減 (31.1%)」、次に「職業生活と家庭生活の両立に対する社会全体の認識づくり (28.0%)」などとなっている。

男女間で乖離が大きい項目は、「企業等事業所の、職業生活と家庭生活の両立のための取組みへの助成金などの支援 (男性 18.1%、女性 11.2%、男性が 6.9 ポイント高い)」や「女性の就職や復職、起業に対する支援 (男性 9.8%、女性 16.9%、女性が 7.1 ポイント高い)」などとなっている。

図表 II-82 問題点に対応するための具体的な取組み (性・年代別)

	合計	職業生活と家庭生活の認識づくり	差別禁止、両立支援のための法律、制度の強化	企業等事業所に対する働きかけ	企業等事業所の、職業生活と家庭生活の両立のための取組みへの助成金などの支援	出産・育児・介護に関する公的なサービスの充実	負担の軽減	出産・育児・介護に関する公的なサービスの充実	女性の就職や復職、起業に対する支援	両立支援を行う公的な機関の整備	その他	無回答
全体	823	30.3	10.7	19.0	13.7	32.9	28.9	14.1	16.8	1.2	12.2	
【男性】	315	33.7	12.4	20.3	18.1	30.5	26.0	9.8	16.2	1.9	12.1	
20歳代	18	22.2	16.7	11.1	22.2	33.3	22.2	16.7	16.7	5.6	11.1	
30歳代	31	29.0	16.1	29.0	25.8	25.8	41.9	9.7	9.7	0.0	6.5	
40歳代	31	38.7	9.7	19.4	22.6	16.1	35.5	9.7	16.1	3.2	9.7	
50歳代	59	33.9	15.3	22.0	18.6	32.2	22.0	10.2	22.0	1.7	8.5	
60歳代	99	35.4	7.1	21.2	16.2	38.4	29.3	12.1	14.1	2.0	8.1	
70歳代以上	77	33.8	15.6	16.9	14.3	26.0	15.6	5.2	16.9	1.3	23.4	
【女性】	492	28.0	9.3	18.7	11.2	34.6	31.1	16.9	17.5	0.8	11.4	
20歳代	34	17.6	17.6	14.7	14.7	32.4	47.1	17.6	11.8	0.0	8.8	
30歳代	83	26.5	3.6	21.7	19.3	30.1	43.4	13.3	19.3	1.2	6.0	
40歳代	74	33.8	8.1	23.0	12.2	39.2	25.7	21.6	6.8	1.4	9.5	
50歳代	130	29.2	13.8	20.0	9.2	33.1	27.7	20.0	20.0	0.8	9.2	
60歳代	109	33.0	6.4	18.3	9.2	40.4	30.3	12.8	21.1	0.0	10.1	
70歳代以上	62	17.7	9.7	9.7	4.8	29.0	21.0	16.1	19.4	1.6	29.0	

## 7. 女性の人権について

### (1) 女性の人権が侵害されていると感じるとき

問 12 「女性の人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか。あてはまるものすべてに○をつけください

#### 要 旨

女性の人権が侵害されていると感じるときは、「性犯罪」が最も多かった。「家事労働の女性への偏り」、「夫婦間での一方的な性関係の強要」、「風俗店など性産業」などの項目に男女差が見られる。いずれも女性の方が人権侵害と思う人の割合が高く、とくに「家事労働の女性への偏り」は15.4ポイント女性が男性より高かった。

図表 II-83 女性の人権が侵害されていると感じるとき

項 目	回答数(件)	構成比(%)
レイプ(強姦)、痴漢などの性犯罪	569	69.1
職場や学校などでのセクシャル・ハラスメント(性的嫌がらせ)	457	55.5
家庭内での夫(男性パートナー)からの妻(女性パートナー)への暴力	400	48.6
ストーカーなどの女性へのつきまとい行為	385	46.8
売春・買春・援助交際	338	41.1
職場での男性との待遇の差	314	38.2
家事労働の女性への偏り	298	36.2
ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真など、女性を性的対象とするような表現	268	32.6
風俗店など性産業	257	31.2
夫婦間での一方的な性関係の強要	218	26.5
「婦人」「未亡人」「女流」など女性だけに用いられる言葉	81	9.8
その他	18	2.2
無回答	70	8.5
サンプル数	823	100.0

性別にみると、男女ともに、「レイプ（強姦）、痴漢などの性犯罪（男性 67.3%、女性 70.3%）」となっており、「職場や学校などでのセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）（男性 53.3%、女性 57.3%）」、「家庭内での夫（男性パートナー）からの妻（女性パートナー）への暴力（男性 50.2%、女性 47.8%）」が続いている。

男女間で乖離が大きい項目は、「家事労働の女性への偏り（女性 41.7%、男性 26.3%、女性が 15.4 ポイント高い）」や「風俗店など性産業（女性 33.9%、男性 27.3%、女性が 6.6 ポイント高い）」、「夫婦間での一方的な性関係の強要（女性 29.1%、男性 22.9%、女性が 6.2 ポイント高い）」などとなっている。

図表 II-84 女性の人権が侵害されていると感じるとき（性・年代別）

	レイプ（強姦）、痴漢などの性犯罪	職場や学校などでのセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	家庭内での夫（男性パートナー）からの妻（女性パートナー）への暴力	ストーカーなどの女性へのつきまとい行為	売春・買春・援助交際	職場での男性との待遇の差	家事労働の女性への偏り	ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真など、女性を性的対象とするような表現	風俗店など性産業	夫婦間での一方的な性関係の強要	に「婦人」「未亡人」「女流」など女性だけに用いられる言葉	無回答	その他
全 体	69.1	55.5	48.6	46.8	41.1	38.2	36.2	32.6	31.2	26.5	9.8	8.5	2.2
【 男 性 】	67.3	53.3	50.2	46.0	41.0	38.7	26.3	29.5	27.3	22.9	10.5	10.5	2.2
20 歳 代	83.3	50.0	61.1	55.6	22.2	38.9	22.2	16.7	16.7	33.3	16.7	11.1	11.1
30 歳 代	64.5	45.2	48.4	41.9	22.6	35.5	25.8	3.2	12.9	32.3	9.7	6.5	0.0
40 歳 代	64.5	51.6	51.6	38.7	38.7	51.6	32.3	19.4	12.9	16.1	12.9	0.0	0.0
50 歳 代	66.1	54.2	52.5	44.1	33.9	39.0	20.3	27.1	25.4	23.7	13.6	8.5	1.7
60 歳 代	62.6	50.5	47.5	42.4	45.5	32.3	30.3	32.3	30.3	22.2	8.1	12.1	4.0
70 歳 代 以上	72.7	61.0	49.4	54.5	53.2	42.9	24.7	45.5	39.0	19.5	9.1	15.6	0.0
【 女 性 】	70.3	57.3	47.8	47.2	41.5	36.8	41.7	33.9	33.9	29.1	9.6	6.9	2.2
20 歳 代	79.4	70.6	58.8	55.9	35.3	47.1	52.9	32.4	26.5	23.5	11.8	2.9	2.9
30 歳 代	81.9	69.9	47.0	44.6	36.1	39.8	48.2	19.3	19.3	31.3	6.0	2.4	2.4
40 歳 代	73.0	59.5	47.3	51.4	32.4	33.8	41.9	27.0	27.0	35.1	4.1	5.4	4.1
50 歳 代	67.7	56.2	44.6	43.8	47.7	34.6	35.4	39.2	36.2	30.8	13.8	7.7	1.5
60 歳 代	65.1	48.6	50.5	44.0	42.2	43.1	44.0	39.4	42.2	23.9	8.3	4.6	0.9
70 歳 代 以上	61.3	48.4	45.2	53.2	48.4	24.2	35.5	41.9	46.8	27.4	12.9	19.4	3.2

## (2) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

問 13 セクシュアル・ハラスメントについてうかがいます。お答え頂ける方のみ、回答をお願いします。セクシュアル・ハラスメントは、社会的な力関係を濫用して相手の心と身体を傷つけ、ひいては、働く権利や学ぶ権利をも脅かす行為です。次に示す①～⑩は、セクシュアル・ハラスメントと見なされます。あなたは、これまでに、職場、学校、地域それぞれの場面において、①～⑩のような経験をして不快・苦痛な思いをしたことがあれば、あてはまるものすべてに○をつけください。

### 要 旨

セクシャル・ハラスメントを受けた経験がある人の割合は、「職場で」の「性的なうわさを流された」が男女同率であったほかは、すべての場面のすべての項目において男性より女性の方が高かった。今回調査の回答割合で男女差が最大だったのは「不必要に体を触られた」であった。

セクシャル・ハラスメントの経験の有無についてみると、職場では、「不必要に体を触られた (8.9%)」が最も多く、「性的な冗談や会話につきあわされた (7.7%)」、「宴会でお酌やデュエットを強要された (7.5%)」が続いている。一方、「無回答 (経験なしも含まれる)」は、82.4%となっている。

学校では、「不必要に体を触られた (1.1%)」、「しつこく容姿のことを言われた (1.1%)」以外は1%以下となっており、「無回答 (経験なしも含まれる)」が97.3%となっている。

地域活動の場では、「宴会でお酌やデュエットを強要された (1.0%)」以外は1.0%以下となっており、「無回答 (経験なしも含まれる)」は96.7%となっている。

図表 II-85 セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

項 目	職場で		学校で		地域活動の場で	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
不必要に体を触られた	73	8.9	9	1.1	7	0.9
性的な冗談や会話につきあわされた	63	7.7	6	0.7	5	0.6
宴会でお酌やデュエットを強要された	62	7.5	2	0.2	8	1.0
異性との交際関係や結婚、 出産についてたびたび聞かれた	33	4.0	3	0.4	4	0.5
交際や性的関係をせまられた	30	3.6	2	0.2	3	0.4
しつこく容姿のことを言われた	29	3.5	9	1.1	5	0.6
ヌード写真などを故意に見せられた	14	1.7	3	0.4	6	0.7
メールに、「かわいいね」とか「食事に 付き合っ」といったことが送られてきた	14	1.7	1	0.1	1	0.1
性的なうわさを流された	13	1.6	3	0.4	1	0.1
交際や性的関係を拒否して、 不当な扱いや嫌がらせを受けた	11	1.3	2	0.2	1	0.1
無回答	678	82.4	801	97.3	796	96.7
サンプル数	823	100.0	823	100.0	823	100.0

性別にみると、「職場で性的なうわさを流された（男女とも 1.6%）」以外の全項目で女性の回答割合が男性を上回っている。

男女間で最も乖離が大きかった項目は、「職場で不必要に体に触られた（女性 14.0%、男性 1.3%、女性が 12.7 ポイント高い）」や「職場で性的な冗談や会話につきあわれた（女性 11.6%、男性 1.6%、女性が 10.0 ポイント高い）」、「職場の宴会でお酌やデュエットを強要された（女性 11.6%、男性 1.6%、女性が 10.0 ポイント高い）」など何れも職場における項目であった。

図表 II-86 セクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別）

		不必要に体を触られた	性的な冗談や会話につきあわれた	宴会でお酌やデュエットを強要された	異性の交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	交際や性的関係をせまられた	たしこく容姿のことを言われた	らヌード写真などを故意に見せられた	いかたが送られてきた	メールに「かわいいわね」と	性的なうわさを流された	受けた不当な扱いや嫌がらせを	交際や性的関係をきよひし	無回答
職場で	全体	8.9	7.7	7.5	4.0	3.6	3.5	1.7	1.7	1.6	1.3	82.4		
	【男性】	1.3	1.6	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	0.6	1.6	0.6	95.6		
	20歳代	0.0	5.6	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	94.4		
	30歳代	3.2	6.5	3.2	6.5	3.2	3.2	0.0	3.2	9.7	0.0	87.1		
	40歳代	3.2	0.0	0.0	3.2	3.2	6.5	0.0	0.0	0.0	3.2	93.5		
	50歳代	1.7	0.0	1.7	0.0	1.7	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	98.3		
	60歳代	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	98.0		
	70歳代以上	1.3	1.3	3.9	1.3	1.3	0.0	3.9	1.3	1.3	1.3	94.8		
	【女性】	14.0	11.6	11.6	5.7	5.3	5.1	2.0	2.4	1.6	1.8	73.6		
	20歳代	17.6	23.5	14.7	20.6	5.9	11.8	2.9	8.8	2.9	0.0	55.9		
	30歳代	20.5	20.5	16.9	12.0	9.6	12.0	0.0	4.8	2.4	1.2	56.6		
	40歳代	31.1	17.6	23.0	8.1	6.8	9.5	2.7	2.7	4.1	5.4	56.8		
	50歳代	11.5	8.5	10.8	3.1	4.6	2.3	4.6	2.3	1.5	2.3	78.5		
	60歳代	5.5	5.5	5.5	0.9	2.8	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	87.2		
70歳代以上	3.2	3.2	1.6	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	91.9			
【女性】	1.1	0.7	0.2	0.4	0.2	1.1	0.4	0.1	0.4	0.2	97.3			
学校で	【男性】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	20歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	30歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	40歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	50歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	60歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	70歳代以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	【女性】	1.8	1.2	0.4	0.6	0.4	1.8	0.6	0.2	0.6	0.4	95.5		
	20歳代	0.0	2.9	0.0	5.9	2.9	5.9	0.0	0.0	2.9	0.0	91.2		
	30歳代	6.0	4.8	2.4	1.2	1.2	4.8	2.4	1.2	1.2	2.4	86.7		
	40歳代	4.1	1.4	0.0	0.0	0.0	2.7	1.4	0.0	1.4	0.0	91.9		
	50歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	99.2		
	60歳代	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	99.1		
	70歳代以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
【女性】	0.9	0.6	1.0	0.5	0.4	0.6	0.7	0.1	0.1	0.1	96.7			
地域活動の場で	【男性】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	99.7		
	20歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	30歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	40歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	50歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	60歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
	70歳代以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	98.7		
	【女性】	1.2	1.0	1.6	0.8	0.6	0.8	1.2	0.2	0.2	0.2	94.9		
	20歳代	5.9	2.9	2.9	5.9	5.9	2.9	5.9	2.9	2.9	2.9	88.2		
	30歳代	0.0	2.4	2.4	1.2	1.2	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	91.6		
40歳代	1.4	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	97.3			
50歳代	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.8	0.0	0.0	0.0	96.2			
60歳代	0.0	1.8	3.7	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	94.5			
70歳代以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	98.4			

### (3) ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験の有無

問 14 ドメスティック・バイオレンス（DV）についてうかがいます。お答え頂ける方のみ、回答をお願いします。ドメスティック・バイオレンスは、夫婦や恋人など近い関係の中での暴力、すなわち相手を傷つける強制を言い、そのほとんどは、男性から女性に対して行われます。あなたは配偶者や恋人から暴力を受けたことがありますか。①～④の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

#### 要 旨

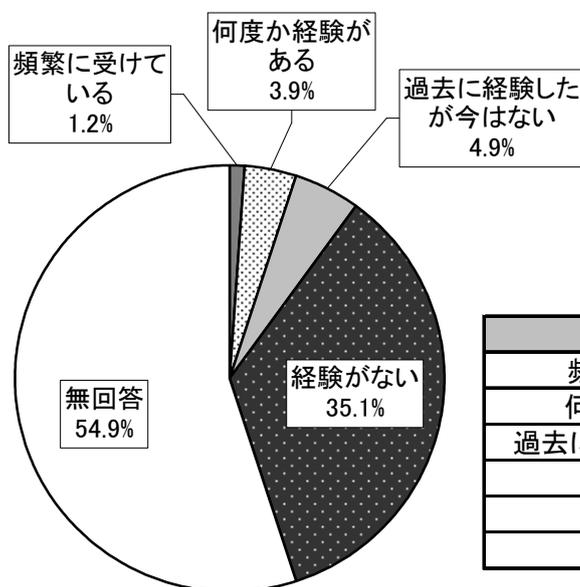
男性の 80%近くがこの問いに回答していないことに留意しなければならないが、「肉体的な暴力」を「頻繁に受けている」と回答した人の割合がほぼ同じであった以外、すべての形態のすべての程度において女性の方が経験がある人の割合が高かった。

#### ① 精神的な暴力

精神的な暴力を受けた経験の有無についてみると、「頻繁に受けている（1.2%）」、「何度か経験がある（3.9%）」、「過去に経験したが今はない（4.9%）」となっており“経験がある”とした回答者の全体に占める割合は10.0%となっている。

一方、“経験がない”は35.1%となっている。

図表 II-87 精神的な暴力を受けた経験の有無



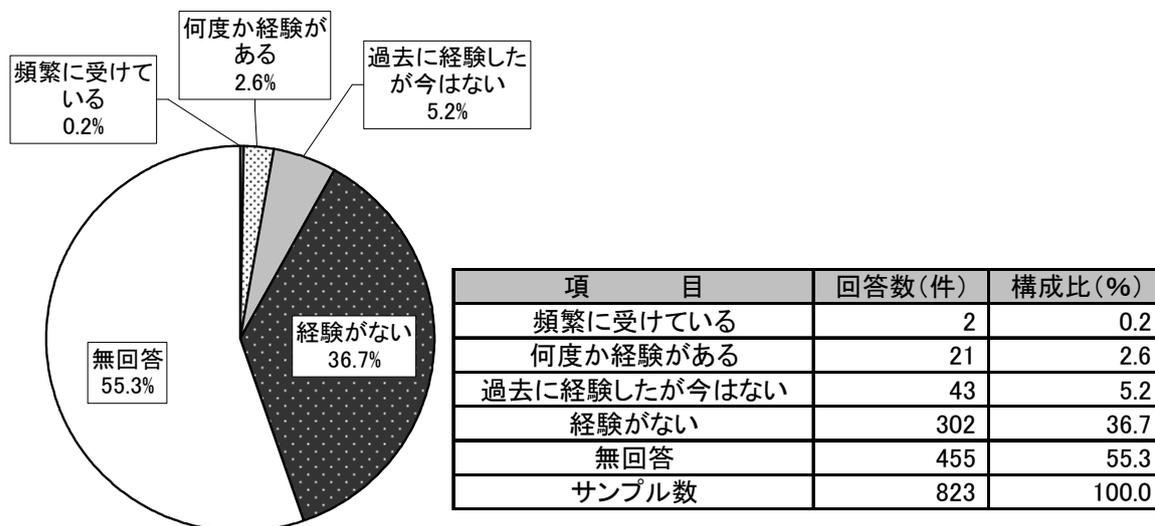
項目	回答数(件)	構成比(%)
頻繁に受けている	10	1.2
何度か経験がある	32	3.9
過去に経験したが今はない	40	4.9
経験がない	289	35.1
無回答	452	54.9
サンプル数	823	100.0

## ② 肉体的な暴力

肉体的な暴力を受けた経験の有無についてみると、「頻繁に受けている (0.2%)」、「何度か経験がある (2.6%)」、「過去に経験したが今はない (5.2%)」となっており“経験がある”とした回答者の全体に占める割合は8.0%となっている。

一方、“経験がない”は36.7%となっている。

図表 II-88 肉体的な暴力を受けた経験の有無

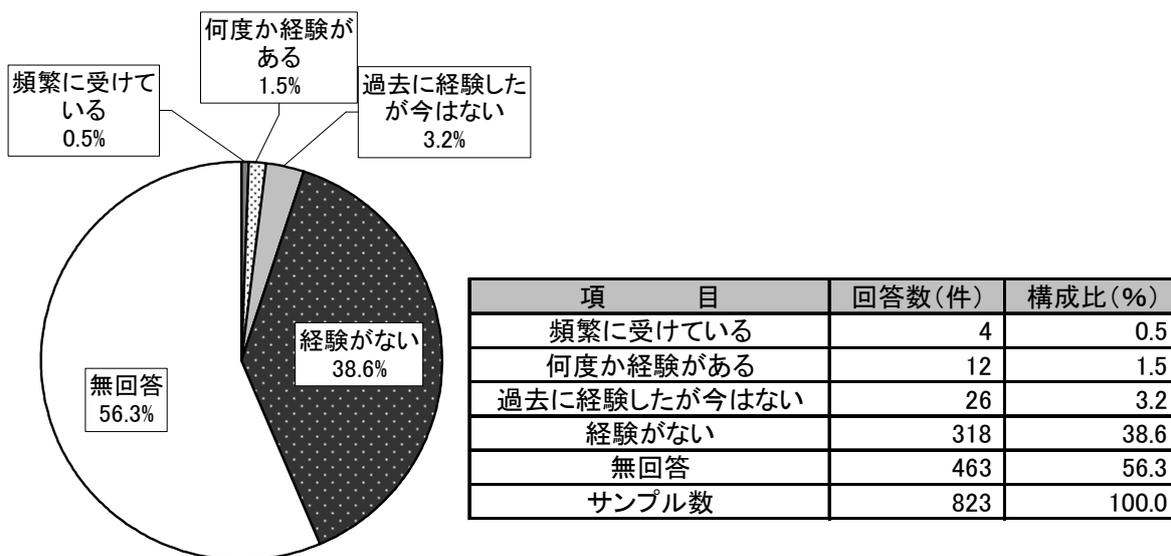


## ③ 性的な暴力

性的な暴力を受けた経験の有無についてみると、「頻繁に受けている (0.5%)」、「何度か経験がある (1.5%)」、「過去に経験したが今はない (3.2%)」となっており“経験がある”とした回答者の全体に占める割合は5.2%となっている。

一方、“経験がない”は38.6%となっている。

図表 II-89 性的な暴力を受けた経験の有無

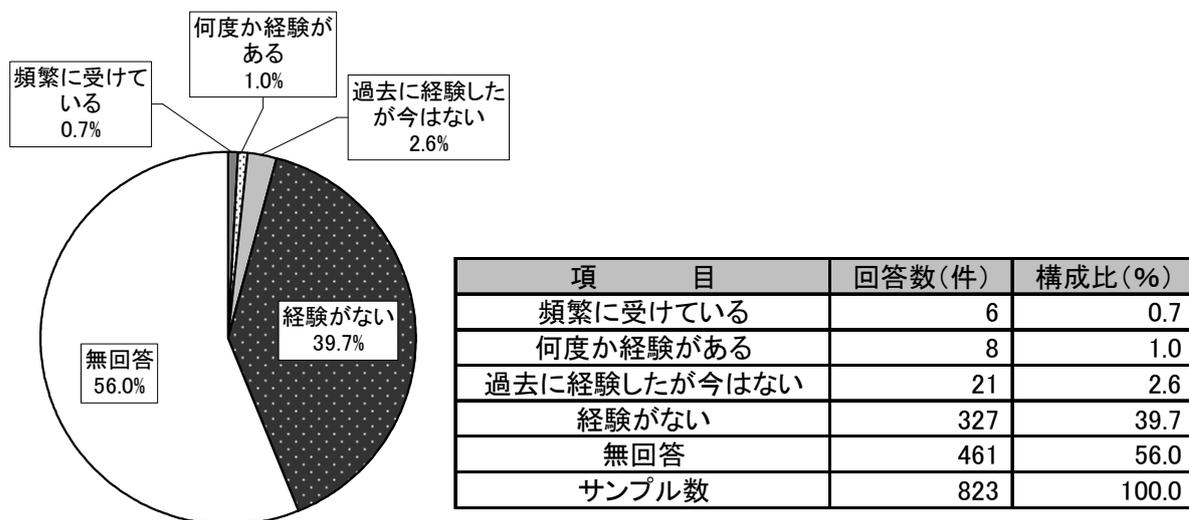


#### ④ 経済的な暴力

経済的な暴力を受けた経験の有無についてみると、「頻繁に受けている (0.7%)」、「何度か経験がある (1.0%)」、「過去に経験したが今はない (2.6%)」となっており“経験がある”とした回答者の全体に占める割合は4.3%となっている。

一方、“経験がない”は39.7%となっている。

図表 II-90 経済的な暴力を受けた経験の有無



性別にみると、「肉体的な暴力」を「頻繁に受けている」と回答した人の割合が男女ともほぼ同じであった以外、すべての形態・程度において女性で経験がある人の割合が高い。

図表 II-91 ドメスティック・バイオレンスを受けた経験の有無（性・年代別）

	精神的な暴力						肉体的な暴力					
	合計	頻繁に受けている	何度か経験がある	過去に経験したが今はない	経験がない	無回答	合計	頻繁に受けている	何度か経験がある	過去に経験したが今はない	経験がない	無回答
全 体	823	1.2	3.9	4.9	35.1	54.9	823	0.2	2.6	5.2	36.7	55.3
【 男 性 】	315	0.3	1.6	1.9	19.7	76.5	315	0.3	1.0	0.6	20.0	78.1
20 歳 代	18	0.0	0.0	0.0	27.8	72.2	18	0.0	0.0	0.0	27.8	72.2
30 歳 代	31	3.2	0.0	6.5	19.4	71.0	31	3.2	0.0	3.2	19.4	74.2
40 歳 代	31	0.0	6.5	3.2	25.8	64.5	31	0.0	3.2	3.2	29.0	64.5
50 歳 代	59	0.0	1.7	0.0	27.1	71.2	59	0.0	1.7	0.0	27.1	71.2
60 歳 代	99	0.0	1.0	2.0	19.2	77.8	99	0.0	1.0	0.0	19.2	79.8
70歳代以上	77	0.0	1.3	1.3	10.4	87.0	77	0.0	0.0	0.0	10.4	89.6
【 女 性 】	492	1.8	5.3	6.9	45.7	40.2	492	0.2	3.7	8.1	48.2	39.8
20 歳 代	34	0.0	8.8	14.7	47.1	29.4	34	0.0	5.9	5.9	58.8	29.4
30 歳 代	83	4.8	8.4	10.8	54.2	21.7	83	1.2	2.4	15.7	57.8	22.9
40 歳 代	74	1.4	4.1	12.2	54.1	28.4	74	0.0	4.1	6.8	59.5	29.7
50 歳 代	130	1.5	3.1	6.2	44.6	44.6	130	0.0	3.8	6.2	46.9	43.1
60 歳 代	109	1.8	3.7	1.8	47.7	45.0	109	0.0	4.6	8.3	45.9	41.3
70歳代以上	62	0.0	8.1	1.6	22.6	67.7	62	0.0	1.6	4.8	22.6	71.0

	性的な暴力						経済的な暴力					
	合計	頻繁に受けている	何度か経験がある	過去に経験したが今はない	経験がない	無回答	合計	頻繁に受けている	何度か経験がある	過去に経験したが今はない	経験がない	無回答
全 体	823	0.5	1.5	3.2	38.6	56.3	823	0.7	1.0	2.6	39.7	56.0
【 男 性 】	315	0.0	0.3	0.6	20.6	78.4	315	0.0	0.0	0.6	21.3	78.1
20 歳 代	18	0.0	0.0	0.0	27.8	72.2	18	0.0	0.0	0.0	27.8	72.2
30 歳 代	31	0.0	0.0	3.2	22.6	74.2	31	0.0	0.0	3.2	22.6	74.2
40 歳 代	31	0.0	0.0	0.0	32.3	67.7	31	0.0	0.0	0.0	35.5	64.5
50 歳 代	59	0.0	1.7	0.0	27.1	71.2	59	0.0	0.0	1.7	27.1	71.2
60 歳 代	99	0.0	0.0	0.0	20.2	79.8	99	0.0	0.0	0.0	20.2	79.8
70歳代以上	77	0.0	0.0	1.3	9.1	89.6	77	0.0	0.0	0.0	10.4	89.6
【 女 性 】	492	0.8	2.2	4.9	51.0	41.1	492	1.2	1.6	3.9	52.4	40.9
20 歳 代	34	0.0	2.9	5.9	61.8	29.4	34	0.0	0.0	8.8	61.8	29.4
30 歳 代	83	1.2	4.8	10.8	60.2	22.9	83	2.4	1.2	4.8	68.7	22.9
40 歳 代	74	0.0	1.4	5.4	63.5	29.7	74	2.7	1.4	4.1	62.2	29.7
50 歳 代	130	2.3	2.3	2.3	50.8	42.3	130	0.0	1.5	3.8	50.8	43.8
60 歳 代	109	0.0	1.8	3.7	47.7	46.8	109	0.9	0.9	3.7	48.6	45.9
70歳代以上	62	0.0	0.0	3.2	24.2	72.6	62	1.6	4.8	0.0	24.2	69.4

#### (4) 男女共同参画社会に関する知識

問 15 あなたが、見たり聞いたりしたことがあるものについて、①～⑯の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

#### 要 旨

「男女雇用機会均等法」は、「内容を知っている」人が半数近く、「名前を聞いたことがある」人が約4割となっている。また、「DV防止法」は、「内容を知っている」人が約3割、「名前を聞いたことがある」人が過半を占めており、これらは認知度が高かった。しかしながら、この2項目以外は、用語、国の施策、県の施策や制度及び施設、市の施策ともに、市民に十分知られているとは言えない。

男女共同参画社会に関する知識についてみると、「内容を知っている」向きが最も高かったのは「男女雇用機会均等法（45.8%）」で、「DV防止法（28.7%）」、「男女共同参画（19.2%）」が続いている。

「名前を聞いたことがある」向きは、「DV防止法（52.0%）」、「男女共同参画（46.3%）」、「男女雇用機会均等法（39.4%）」の順となっている。

「知らない」向きが最も多かったのは、「家族経営協定（82.3%）」で、「ポジティブ・アクション（78.4%）」、「千葉県男女共同参画苦情処理委員制度（77.6%）」が続いている。

図表 II-92 男女共同参画社会に関する知識

項 目	内容を 知っている	名前を聞いた ことがある	知らない	無回答
①男女共同参画	19.2	46.3	25.8	8.7
②男女共同参画社会基本法	9.1	35.4	45.6	10.0
③DV防止法(配偶者からの暴力の防止 及び被害者の保護に関する法律)	28.7	52.0	10.1	9.2
④男女雇用機会均等法	45.8	39.4	6.8	8.0
⑤国の「男女共同参画基本計画(第2次)」	3.4	26.7	59.1	10.8
⑥千葉県男女共同参画計画(第2次)	2.2	21.3	66.0	10.6
⑦千葉県女性サポートセンター	6.0	30.0	53.6	10.4
⑧ちば県民共生センター	3.0	31.2	55.4	10.3
⑨千葉県男女共同参画苦情処理委員制度	1.3	10.0	77.6	11.1
⑩四街道市男女共同参画推進計画	2.1	20.0	67.7	10.2
⑪四街道市女性相談事業	1.3	15.1	71.7	11.9
⑫ファミリーサポートセンター	10.4	25.3	53.7	10.6
⑬ポジティブアクション(積極的改善措置)	1.7	8.6	78.4	11.3
⑭家族経営協定	1.2	5.0	82.3	11.5
⑮女子差別撤廃条約	3.4	24.2	61.2	11.2
⑯ジェンダー(社会的性別)	11.1	26.0	52.0	10.9

## 8. 自由意見

### 問2 (1) 男女共同参画社会を進める必要性

進める必要なし。	(女性、40歳代)
女性の社会進出に疑問あり。家庭、子育ての女性の考え方が信じられない、その重要性を軽くみている。	(女性、50歳代)
特別頭におくことなく自然体で(平等)。	(男性、60歳代)

### 問2 (2) 男女共同参画社会を進める必要がある理由

国際的にみて遅れている。労働力という観点からも女性の活躍が必要。	(男性、60歳代)
女性に有利な社会になってきたから。	(男性、30歳代)
人間としてではなく、性別によって意識した価値観を基準にして物事を考える傾向があるように見えるため。	(女性、50歳代)
男性が育児休業や介護休業がとりにくい世の中だから。	(女性、20歳代)
男性と女性で異なった特性があるのですべてが平等でなくお互いの特性を加味した平等を作る必要がある。また、一番重要な子供を育てるという(教育も含む)ことの方針がないままに男も女も外に出ると言うことはいかがなものか。	(男性、60歳代)
男、女にはそれぞれ特性がある。何もかも平等は良くない。特性を考慮し決定すべきだ。	(男性、70歳代以上)
女性の方が優位すぎる場合もあるから。	(男性、30歳代)
男性全般に男女平等という意識がうすい。	(女性、20歳代)
人生を充実させるために共に協力すべきと思うから。	(女性、40歳代)
男は力がつよい。女は体つきが男とは違うからある程度の違いはしかたない。	(女性、40歳代)
給料に差がある。	(女性、40歳代)
ある程度は男女の異なる役割が必要だから。	(男性、70歳代以上)
男性、女性それぞれの特性があるので、無理に全てを男女平等とは言えない。	(男性、20歳代)
強制ではなく、要するにお互いに認めあつたうえで性別にこだわらず、ワークシェアリングができればよいと思います。	(女性、30歳代)
男と女は違うのに形式的平等をどこまで押しつければいいのかわからない。	(男性、50歳代)

官庁、銀行等でその傾向（男性優位）が強いのでそこを変えた方がよい。 (女性、30歳代)
人権的に平等は賛成。 (女性、50歳代)
本人の個性（長所）を活かして（性差とは別）社会に参加することが、本人にとっても社会全体にとっても有益なことだと思うため。 (女性、40歳代)
男子中心の職場である。 (男性、60歳代)

---

## 問2 (3) 今の取組みを継続すればよいと回答した理由

---

女性が社会に出た方が良いことを伝えてきた結果、子供に悪影響があるのでは（それが全てではないと思うが）。 (女性、60歳代)
国であれ家庭であれ、豊かな人間社会の構築のためには男女が能力に応じたそれぞれの分野での活躍が求められます。家庭生活の充実こそが最大の課題で日本文化の良い点は継続すべきと考えます。 (男性、70歳代以上)
あまりドラスティックに習慣、しきたりを考えようとすれば反発を招く。徐々に変えて行けばよい。 (男性、50歳代)
個性と能力を十分に発揮することができる社会はいいが、なにもかも同じという事はできないと思う。 (女性、50歳代)
発言力がもっと強くなって女性も世の中に出て活躍できる場が多くなってほしいと思います。 (女性、50歳代)

---

## 問5 高齢や障害の介護が必要となった場合、どうされたいか。

---

介護は基本的に家族が行うべきである。そのために、しっかりとした家庭教育や絆の構築が必要であり、心豊かな家族関係を作りたい。もちろん、そうした方向での学校教育、社会環境づくりも必要だと思います。特に、困った時の身近な地域の人間関係づくりや助け合いは緊急の課題だと思う。 (男性、60歳代)
今の収入では予測がつかない。個人的に身内を含めて迷惑をかけたくない。 (男性、40歳代)
介護をしてくれる人に任せる。 (男性、40歳代)
そうなる前に死にたいと思う。 (女性、60歳代)
4、5のどちらかですが、年金問題等でその時どれだけの収入があるかによります。 (女性、50歳代)
状態によって4、5を考えて生活をする。 (女性、60歳代)

<p>子供が近くに住んでいます（徒歩5分）。自分のことが自分で出来る段階では子供に手伝ってもらい（もちろんヘルパーさんにも）、そうでない段階になった場合は、医療施設に入りたい（有料でもかまわない）。子供らに迷惑はかけたくない。四街道市でも介護施設をもっとつくって欲しい。出来れば子供の近くの所に住みたい。</p> <p style="text-align: right;">（女性、60歳代）</p>
<p>現状では何とも言えない。</p> <p style="text-align: right;">（男性、30歳代）</p>
<p>知人、友人、いとこ等のたすけあい。</p> <p style="text-align: right;">（男性、20歳代）</p>
<p>介護度によってなので1つ選ぶことは難しい。</p> <p style="text-align: right;">（女性、60歳代）</p>
<p>5を望むが障害や高齢化の程度が高くなり家族の生活が圧迫されすぎるとなったら各施設への入所を考えていくようにしたい。</p> <p style="text-align: right;">（女性、50歳代）</p>
<p>私は人工膝関節置換手術をうけ、また、長年の脊柱管狭窄症、坐骨神経痛のため身体が不自由で、主人も脳梗塞で体が不自由です。娘は同居しておりますが仕事が忙しく、介護サービスを受けております。仕事を持つ子供には、かなりの負担となり、精神的につらい様です。</p> <p style="text-align: right;">（女性、70歳代以上）</p>
<p>在宅で可能な限り、その後施設に。</p> <p style="text-align: right;">（女性、60歳代）</p>
<p>その時にならなければわからない。</p> <p style="text-align: right;">（男性、70歳代以上）</p>
<p>配偶者や家族の有無、健康やその他の状況などによってどう介護を受けるかは異なる。介護の受け方は、周囲の諸環境によって異なるのではないか。家族や社会などの負担が最小となるような形で効率的に介護を受けたいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">（男性、60歳代）</p>

---

## 問6 ① 働き方として理想とする形

---

<p>どんなあり方も構わない。大切なのは人間性を高める心のあり方と機会だと思う。</p> <p style="text-align: right;">（女性、50歳代）</p>
<p>基本的に本人の意志に任せるが、それが本当に「本人、家族、夢」にとって妥当なものなのかどうか家族全員で話し合ってみる。</p> <p style="text-align: right;">（男性、60歳代）</p>
<p>職を辞めたら再度職に就く事はできない社会であり、こんな調査はおかしい。</p> <p style="text-align: right;">（女性、40歳代）</p>
<p>1. がよいと思うが現実的には無理だと思う。</p> <p style="text-align: right;">（男性、70歳代以上）</p>
<p>パートナーの考え方による。</p> <p style="text-align: right;">（男性、40歳代）</p>
<p>相手の意思を尊重する。</p> <p style="text-align: right;">（男性、30歳代）</p>
<p>女性にとって子供の方が仕事に優先する。</p> <p style="text-align: right;">（男性、50歳代）</p>
<p>その時の自分の立場によってちがう。</p> <p style="text-align: right;">（女性、30歳代）</p>
<p>ケースバイケース。</p> <p style="text-align: right;">（女性、50歳代）</p>

就業継続は、パートナーの意志に任せる。子育てにおける男女の役割（母乳など）を考慮に入れ、二人で育てる。	(男性、20歳代)
財政事情や妻の考え方などによって異なる。	(男性、60歳代)
働ける状態ならば、働けば良い。家族にとって、一番大事なのは何かと考えれば答えはでると思う。人それぞれだと思います。	(女性、50歳代)

---

## 問6 ② 現実の働き方の形

---

状況に応じその時々心理の変化にあわせて、いかようにしてもよいと思う。	(女性、50歳代)
子どもができ今は職をやめた状態。	(女性、20歳代)
結婚するまで職に就き、職を辞め家事育児に専念。子供が成長して職に就く。	(女性、40歳代)
まだ、子供がいないので扶養の範囲で働いている。	(女性、30歳代)
本人（妻）の意思により働いている。	(男性、60歳代)
就業経験なし。	(女性、60歳代)
幼稚園入園（年中）に向けて専業主婦になった。産休、育休を取得した。	(女性、30歳代)
専業主婦。	(男性、70歳代以上)
結婚し子供が小6終了後退職する。	(女性、50歳代)
子供ができないので上記選択肢にあてはまるものがない。	(女性、40歳代)
仕事をし続ける為に子供を持つ予定なし。	(女性、30歳代)
（妻）子供が成長するまで家事、子供が独立してパート。	(男性、50歳代)
仕事は持ち続けているが、半日とか1週間のうち4日にしている。	(女性、40歳代)
子供がいないため回答出来ません。	(女性、50歳代)
特に望ましいと思うことはない。個人の考えによる。	(女性、30歳代)
子供が成長して初めて仕事（パート）に就く。	(女性、60歳代)
健康であれば働きたい。	(女性、50歳代)
子供がいないので働ける間は働く。	(女性、50歳代)
結婚しても職業を持ち続けているが子供なし。	(女性、40歳代)

収入状態、経済状態で決まる。	(男性、50歳代)
一時的に妻も職についた。	(男性、70歳代以上)
結婚したら家事に専念し、子供が大きくなってから職業に就く。	(男性、50歳代)
結婚するまでは仕事をしており、下の子供が11才になった時、家での仕事を始めました。	(女性、50歳代)
無職です。	(女性、30歳代)
子供が成人してから妻はケア・サービスをしている。	(男性、60歳代)
2で子供が小学校に入るくらいまでは育児に専念し、その後職業に就く。	(女性、60歳代)
子供がいないので働ける間は働けるまで働いている。	(女性、40歳代)

---

### 問6 ③ 次世代女性の働き方として望ましい形

---

子供は愛を基本において育て、母親にしか味わえない素晴らしい経験と誇りを持ってやって欲しい。	(女性、50歳代)
本人の自由意思により選択して職を続けられる社会環境を整える(育児等に不安を生じないような制度・施設・サービス)。	(男性、60歳代)
働くということがどういうことなのか。「本人、家族、地域、社会」とのかかわりにおいて家族で話し合ってみるのも結構楽しいし、絆も深まります。ここでの話し合いでは女性特有の細かさや優しさなども話し合いの対象になります。	(男性、60歳代)
本人の考えに任せる。	(女性、20歳代)
職は持ち続けて欲しいが、半日とか細く長く続けて欲しい。	(女性、40歳代)
どちらが良いのではなく、本人の考え方に従う。	(女性、20歳代)
個人が望む生き方をすればよいと思う。	(女性、50歳代)
1でも2でも良いと思うが子供が生まれたら、その子供に焦点をあてて考えるべき。持ち合わせているその子なりの条件があるので、子供ひとりひとりと親としてどのようなかかわり方をするか考えなくてはならない。社会的基盤の整備がされて、どの方法を選んでも、女性が職業を持ち続けることが普通にできるようになることが前提である。	(女性、50歳代)
各個人が望む形でよい。	(女性、30歳代)
人それぞれ生活環境が違うし、専業主婦でもいろいろな社会活動等に参加することもある。職業を持ち続けることが、望ましいかどうか決めることはできない。	(女性、40歳代)

仕事によっても、その時の経済状態によっても異なる。	(男性、50 歳代)
本人の自由。	(女性、30 歳代)
特に優れた能力（通訳・法律家・教育関係等に従事していた場合）の持ち主はそれを発揮し続けてほしい。ケースバイケースと思います。	(女性、70 歳代以上)
本人次第。	(男性、40 歳代)
2に近い考えですが、子供の成長は10才以上が良いかなと思います。	(女性、50 歳代)
本人の希望による。	(女性、20 歳代)
職業にもよる。医師等日進月歩で技術のいる職は遅れる不安で、育休など恐ろしくてとれないのでは？	(女性、50 歳代)
就業継続は、パートナーの意志に任せる。子育てにおける男女の役割（母乳など）を考慮に入れ、二人で育てる。	(男性、20 歳代)
本人の希望にそって、職業を持ち続けてもいいし、家事に専念してもいい。どのようにも道を選べるといいですね。	(女性、60 歳代)
財政事情や本人の考え方によって異なる。	(男性、60 歳代)
子供の状態・託児所に緊急時の預け場所など子供が不安なく過せる状態ならば働けば良い。ただし、家事・子育ての方が好きですという方に無理に働けとは言えない。実際、我が娘は仕事を持っていたが、夫の希望もあり、今はやめて子育て中です。いずれ仕事に戻りたいと言っている。	(女性、50 歳代)
その人の考え方、周りの環境で決めればいい。	(女性、40 歳代)

---

#### 問8（2） 企画から実行まで参画している地域活動

---

ボランティア活動。	(男性、70 歳代以上)
趣味を生かしNPO法人にて地域活動に参加。	(男性、70 歳代以上)

---

#### 問8（2） 部分的に参加している地域活動

---

着付け教室。	(女性、60 歳代)
民生委員15年間。	(女性、60 歳代)
ボランティア活動。	(女性、50 歳代)

防犯パトロール。	(男性、70歳代以上)
趣味を生かしNPO法人にて地域活動に参加。	(男性、70歳代以上)
子供に関するNPO団体。	(女性、50歳代)

---

**問8 (3) 参加していない理由**

---

自分の作品作りに集中。	(女性、70歳代以上)
病気のため。	(女性、40歳代)
時間的余裕がない。	(男性、60歳代)
昨年度まで参加していたが、そろそろ健康に自信を失いつつある。	(男性、70歳代以上)
妻の介護生活中です。	(男性、60歳代)
休日は家族と過ごしたい。	(男性、40歳代)
引っ越して来て1年しか経っていないのに班長を断ったら自治会名簿から名前を消された。個人情報管理や役員の決め方もおろそか。これでは若い人が自治会に入らない。	(男性、40歳代)
難聴のため。	(男性、70歳代以上)
昨年まで病人がいたため。	(女性、60歳代)
病気のため。	(男性、20歳代)
やることがある。	(女性、50歳代)
町内会は入っている。	(女性、50歳代)
自治会を退会しているため。	(女性、50歳代)
病気治療中。	(男性、60歳代)
身障者なので。	(女性、70歳代以上)
習い事をしていて時間がない。	(女性、60歳代)
病人。	(男性、50歳代)
学校が忙しい。	(女性、20歳代)
布衣作家として趣味の創作。	(女性、70歳代以上)

自分の趣味等でいっぱい。	(女性、60歳代)
現在リウマチで手・足の自由がきかない。	(女性、60歳代)
これから参加する方向で考えたい。	(男性、60歳代)

---

**問9 今後、参加したい地域活動**

---

着付け教室。	(女性、60歳代)
防災活動。	(男性、60歳代)
高齢のため。	(男性、70歳代以上)
どんな活動であれ「その活動が必要」とあれば、その能力において積極的に参加し貢献したい。	(男性、60歳代)
ボランティアで生け花をお年寄りの方々に（施設等で）教えたい。	(女性、60歳代)
政治活動、行政の検討。	(男性、70歳代以上)
今の生活で精一杯のため、まだ考えていない。	(女性、40歳代)
外国人の方と交流を持ちたい。	(女性、60歳代)
地域のネットワークづくり。災害時の対策。現実的に訓練。	(女性、20歳代)
私が受けた教育を子弟の教育のためにボランティア活動したい。	(男性、50歳代)
市政監視。	(男性、60歳代)
病気の為。	(男性、20歳代)
ボランティア。	(男性、70歳以上)
有言実行に市政がなっていないと思っている。	(女性、50歳代)
現在、仕事上他で大学高専等で授業を持ち教育しており、全国的であるので現役を引退する頃でないとな時間の都合がつかない（地域も大事なので）。	(男性、60歳代)
パトロール。	(男性、70歳代以上)
高齢で健康に自信がいたら。	(未回答、未回答)
高齢のため無理。	(男性、70歳代以上)
高齢のため。	(男性、70歳代以上)

NPO法人にて地域活動に参加。	(男性、70歳代以上)
子供に関するNPO活動。	(女性、50歳代)
アンケート等は賛成。	(女性、70歳代以上)

---

問11① 両立できるようにするための取り組みとして必要なもの。

---

保育だけでなく、病気などの際の対応や就業での子供の迎えを代行してくれるサービスや、時間延長保育。	(女性、30歳代)
社会環境、制度改革、法整備等も重要ですが、それ以前に個々人の考え方の改革や行動力の方がもっと大切なのではないでしょうか。つまり、社会や行政に「何を求める」のかではなく「自分は社会に何が出来るのか」を考えるべきだと思います。	(男性、60歳代)
社会すべてが何もしてくれないのにこんなアンケートやめてほしい。	(女性、40歳代)
手当の増額。	(男性、40歳代)
定年後などの時間が必要。	(男性、50歳代)
職場の中に保育園があるとよいと思う。	(女性、40歳代)
長時間労働を制度（法律）として禁止する。	(女性、40歳代)
法律的に休暇を完全消化する義務を設ける（会社として）。	(男性、40歳代)
市民の知的レベルの向上。	(男性、20歳代)
正社員以外の労働者に対する保護？使い捨てされないとか。	(女性、40歳代)
パート・派遣で今の日本は支えられている。しかし最低の条件下で働かざるをえません！！市や国の公務員こそパート、派遣を雇ってほしい。もし、人件費の削減をするなら市の職員を見直してほしい。なんでも民営化する方向はよくない。保育所などの民営化は反対。もっとまじな教育者が必要。教育に力を入れてほしい。	(女性、30歳代)
現在、会社はコストを下げることを追及しています。コストを下げるイコール人件費を下げるようです。少ない人数で責任感の無い人材派遣会社で人員を調整する。サラリーマンに時間の余裕はありません。	(男性、30歳代)
サービスを受ける人のための意識の学習。	(女性、70歳代以上)

## 問 1 1 ② 具体的な公的取り組み

弱者(この定義は広く時間をかけて徹底的に議論する必要があると思います)を除き、一般人は「どんな困難も自分の力で切開く」という心構え、さらに「社会に貢献する」という考え方の確立が先のように思う。 (男性、60 歳代)
女房を失くしてから他の事を考えることが出来ない苦しい毎日だ。 (男性、70 歳代以上)
完全休暇消化の義務化、法律化。 (男性、40 歳代)
市民の知的レベルの向上を目的としたセミナー等の充実。 (男性、20 歳代)
経済的弱者と経済的強者とでは取り組み方が異なるのでは。 (男性、50 歳代)
地域内での雇用促進を図り、時間的バランスを保つこと(例えば、私は9 H / 2 4 H が在宅時間)。 (男性、60 歳代)
男女に関する問題に対しては、今まで学校での教育ではありません。 (女性、30 歳代)
女性、男性に限らず子供達の育つ環境が淋しくならない配慮が必要と思う。 (女性、70 歳代以上)

## 問 1 2 女性の人権が侵害されていると感じる場合

女性が痴漢されても良いような服装や態度が見られるようで女性もつつしむべき。 (女性、60 歳代)
短いスカートを着る女性にも問題があると思う。女性も男性の心をみだすことになることを自覚すべき。 (女性、70 歳代以上)
男と女の性格や体質の差がなく全てを平等にしようとする考え方。 (女性、30 歳代)
上記の様な問題に至る過程では女性側にも多くの問題点もあるのではないのでしょうか。 (男性、60 歳代)
女性の意見が軽視されることが多い。 (女性、70 歳代以上)
あまりにも低い日本人男性のモラル。日本人男性は強かったかも知れませんが優しくなりました。今はその強さだけ利用されている気がしています。 (女性、50 歳代)
制服がスカートしか選べない。妊婦になること=社会からの追放、孤立という考え。 (女性、20 歳代)
特にない。自分の意志に反して行わない、言動は人権侵害。 (男性、50 歳代)
うわき。 (男性、20 歳代)
女性の職場に家借手当てなどが無い。 (男性、20 歳代)

「女性らしく、女だから・・・」といった認識・言葉・風潮など。 (男性、60歳代)
世帯主に主人の名前を書くとき。 (女性、40歳代)
*発展途上国から若い女性をだまして風俗産業に従事させるために日本に連れてくること。何より「だまして」という所が、許せない。徹底的に公的機関で取締まって彼らの人権を守って欲しい。血も涙もない仕打ちに日本市民として関係ないという顔は出来ないはず。 *施設の受付係が女性だと「受付嬢」と呼ぶこと。いかにもその業務内容を軽視している深層意識が判る。それを言うのが男性であると、自分は絶対そういった仕事につかない重要な人間であると思い込んでいるのがわかってしまう。とにかく言葉のセンスがなく田舎くさく頭が悪そう。 (女性、40歳代)
煙草をすう女性に対し、今でも女が・・・と言われるのを聞くととき。 (女性、50歳代)
あまり思っていない。 (男性、60歳代)
家事、料理のできない男性の存在自体おかしい。男性改革をすべき！ (女性、30歳代)
チラシ・広告・CM等にエプロンをした女性や、優しそうで髪の長いきれいに化粧した女性が家事・介護等の場面に登場する時。 (女性、40歳代)

---

## ご意見・ご要望

---

どんな立場の人々であれ人間としての尊厳を著しく損なうような差別や暴力（肉体的、精神的）等がない世界。貧富の差があまりにも片寄り過ぎた状況が世界で見られると言うことは、人間として恥ずかしい状況だと思われます。男性と女性の性差はあって当たり前であり極端でバカげた平等法ならブラックユーモアにしかならない。働いて得る給金が明らかに女性の方が少ないと言う事が女性を卑下している根本ではないですか？女性の明るさと解放的な生き方は世界と地球を救います。表面的、物質的問題ではありません。人間に愛と理解と同情が足りないのです。 (女性、50歳代)
男女それぞれの特性を尊重しつつ「個人」として社会に認められ活躍できることを望みます。 (女性、40歳代)
①男性でも、女性でも、実行できることは、積極的に。 ②両性の特技は互いに理解し合うこと。 (男性、60歳代)
基本的に女性が社会に出るのは子育てが終了してからの良いのではないか。家を守る人がいないと子供が犠牲になる。 このアンケートには関係ないが福祉をもっと充実して欲しい。市がどういうことをしているのかわからない。お願いごとがあり市役所に電話しても職員の対応が悪い。 (女性、60歳代)
表面上は女より男の方が優位と思われがちだが、社会上、女の方が男より優遇されていると思う。レストランに行っても客の大半が女性だったり、あらゆるところでレディースデイがあったりするが、メンズデイはない。DVは女性が強くなって、いやな男から逃げるよう努力すべき。男はリストラや職場での競走を強いられ、退職後、友達もいないし身の置所がない。人生後半、男にはつらさが待っている。 (男性、50歳代)

産休、育休をとれるようにすること。保育所の充実がなにより必要。 (女性、30歳代)
女性の人格尊重については当然のことと思う。職場における男女同格は問題ない。しかし、女性が何の努力(勉強等)もせずに役職につけるべきとの考えは同調出来ない。男性の役職者は年で就くものでなく努力の結果であり女性もそれなりの努力をすべきである。ある人と話をしたときには「女性にポジションを与えるべき」と言われたが、こんな考えこそ問題ではないかと思う。努力した人には対応しても努力しない人に「女性であるから」との対応は出来ない。 (男性、70歳代以上)
お互いに相手を理解し努力すること。 (男性、70歳代以上)
男性、女性共々それぞれ有利、不利な部分を兼ね備えています。それぞれの長所を活かしながら共に発展、成長しあうのが真の平等だと思う。それぞれ認めあえる真の平等を目指して欲しい。 (女性、30歳代)
私達の育つ時代は「女性らしく」と常時聞かされた。一方、今は自分の意見をはっきり言えないと職場でも社会でも悲しい現実が待っている。特に民生をお預かりしていると「正しい知識」が無いばかりに泣きを見る方々がおられることは残念でならない。四街道の女性の方々ががんばれ！ (女性、60歳代)
男女共同は男と女の体も能力も内容が異なっているので平等では出来ない部分もあると思う。男の役目、女の役目があると思うし、それを認識し、個人差の考え方もあるがお互い協力出来ることは助け合い、それぞれ自分の立場の役割を果すことだと思う。先ずは家庭の中でそれぞれの役割を行ってから職場へ社会へとつなげるのが良いと思う。男と女がいるからこそお互い尊重しあって人類存続につながっていけるのだと思う。 (男性、50歳代)
男だから、女だからという区分けのない社会が実現できればよいと思う。 (男性、50歳代)
このひ弱な社会では「男女共同参加の実現」も大切なのかも知れませんが、私はそれ以前に「個々人の地域、社会、世界」に対する考え方、倫理の確立の方が先なのではないかと思えます。その上で個々人が家族や社会や世界に何ができるのかを考えて頂くことが大切だと思います。それでも出来ない事柄があるならば「行政や企業」に協力を要請する。つまり「周りに何かをお願いする」前に「自分は何ができるのかを考え行動する」のが先と思っています。 (男性、60歳代)
男女とも頑張っていける明るい四街道をつくって下さい。 (男性、60歳代)
あまりお役に立てませんでした。知らないことばかりではずかしい限りです。 (女性、60歳代)
現在新聞をとっていないので、折込まれる市政だよりには目を通すことがないし、市のHPなどへあえてアクセスすることもない。男女共同参画以外にもなかなか情報が届かない。 (女性、40歳代)
男女共同参画の実現は、世界的な実現を要する重要課題であり、実行に向けて全人民が努力すべきである。ただし、真の男女同権の実施にあたり、極端に女性優遇の考え方は実施を阻害することに留意すべきである。 (男性、70歳代以上)
被害者意識に基づく必要以上の差別をベースにしないで公平公正に男女をとええて物事をすすめるようにして欲しい。歴史的背景もありますがゼロから男女差のない社会を考えて欲しい。 (男性、50歳代)

<p>民間の企業と官は違うことを理解してほしい。今回の質問等を会社に要望したら会社にいられなくなり、会社も成り立たない。</p> <p>(女性、40歳代)</p>
<p>女性に聞くより、男性に聞いて下さい。男が何を考え、何をよしとしているのか、男の意識が変わらない限り男女共同参画などありえないと思う。小中学校で出席番号をアイウエオ順や男女別にせず生年月日順の男女混合にしているのは、ただわかりにくく不便だけで、あんなものは（男にも女にも「さん」づけでよんでいる）平等策とはいえない形だけのもの。いったい千葉県は何を考えてあんな形式をとっているのですか？学校、地域の活動やボランティア活動に努力している人を認める方策が必要。具体的に職場がきちんと有休を与えとか主婦、学生には奨励金を支給するとか、ボランティアの志のある人を経済的に援助する必要がある。個人に負担を求めないで！</p> <p>(女性、50歳代)</p>
<p>アンケートにお答えする機会を与えられましたことに感謝いたします。貴重な日本文化の良い点は積極的に伝承することが大切です。欧米の交流で日本の良さを見直す時期だと思います。</p> <p>(男性、70歳代以上)</p>
<p>もう少し分かり易くPR活動に力を入れて欲しいと思います。</p> <p>(女性、60歳代)</p>
<p>意識の改革が必要であり時間のかかることだと思います。その啓蒙として具体的テーマについてPRや実践を行うこと（そのための費用は工夫し出来るだけかけない）で、男女を問わず可能な限り多くの市民が参加する機会を設けていただくことです。この様なことを徐々に進めていき、市民に段々と理解して貰うことが必要だと思います。</p> <p>(男性、70歳代以上)</p>
<p>市県民税や健康保険税をもっと安くすることに力をそそいで欲しい。アンケート用紙等、紙代を使うなら無駄をなくし市民の為になることをやってほしい。</p> <p>(女性、70歳代以上)</p>
<p>偏った意見を誇張するような風潮を助長するのを止めてもらいたい。すべての人が感じていないものではないものを手助けするのは良くないと思う。</p> <p>(男性、40歳代)</p>
<p>出産後も働く女性が速やかに復職、就労できるように保育園の拡大や費用の小額化に力を入れて頂きたいです。</p> <p>(女性、30歳代)</p>
<p>昔の女性は子供を5～8人くらいかかえつつ家庭をやりくりして良い意味でのしたたかさを持っていてすごいと思います。今の女性は法に守られてそれに甘えて私も含めへタレだなどと思います。前の世代の女性を見習いもっとがんばらねばと思います。最近は男性への逆差別が気になります。女性がもう少し男性をいたわってあげてもいいのではないかと思います。</p> <p>(女性、30歳代)</p>
<p>現在60才、夫は9才年上で結婚生活をしていた時は、主権は夫。離婚後は、女性にとって生きにくい。今の社会は夫婦共に働かなければ生活しづらい。女性が子供を産んだ後も働ける社会環境が充実していなければ子供を産まないと思う。ましてや、仕事においてはプロを要求されるので、女性だけの家庭負担では子供も産めないし、家庭もつくりづらい。男女共同参画の社会的意識は重要だと思う。</p> <p>(女性、60歳代)</p>
<p>是非よりよい社会形成のためご努力をお願いします。アンケート依頼者の選び方が不明…アトランダムに？</p> <p>(女性、60歳代)</p>
<p>アンケートを集計するだけでなく、要望があったことを実行して頂きたいと思います。</p> <p>(女性、50歳代)</p>

<p>今の職場で一番上に立つ人が自分の気に入らない人への暴言及び給料、ボーナスの格差がかなりあるようですが、こういう件も男女共同参画の問題になるのでしょうか？ (女性、60歳代)</p>
<p>ことあるごとに市は情報開示を積極的に行ってもらいたい。 (男性、60歳代)</p>
<p>児童養護施設の定員がいっぱい、引きとりきれない。先日のニュースでは妊婦の引き受け先がなく死産するという事件もあった。これから全て女性が子の世話を担うという世の常と、妊婦になったことで社会的に弱者になるということが具体的に現れた例である。また定年後、男性が何をしても良いのかわからなくなる、社会、家庭に居場所がなくなる。反対に女性が夫にしばられ、自由を失くすなど、今後の高齢化社会には男女の意識改革が大きく求められるのではないかと。私は、女性が男性のようになれば、男性が女性のようになれとは考えていない。2つしかない「性」にはそれぞれの個性や特徴があり、それが良い結果を生む効果があったという例も多々ある。それぞれが、他の性別を認め合うことが求められるのではないかと。</p> <p>(女性、20歳代)</p>
<p>介護業界で働いているが、女性職員は妊娠すると退職を強要されるケースが非常に多い。他のポジションを用意するなど会社は努力をして欲しいと思う。 (女性、30歳代)</p>
<p>まず男性を家庭に戻してもらわないと難しい。それぞれの人が生きやすいように制度を整えたいと思う。人それぞれ生き方、考え方が違うが「子供の世話は女性がみるもの」という固定観念があるため苦しい立場で働く女性が多いと思う。子供の具合が悪かったら仕事を休まねばならない。そういう場合には周囲が理解をしてあげられるような環境を整える方向にもって行ってほしい。 (女性、40歳代)</p>
<p>男の役割と女の役割は違う。それぞれ長所を進展させるように参画意欲を向上させることが必要と考える。 (男性、50歳代)</p>
<p>男女共同参画について繰り返し市民講座を開き夫婦揃っての参加を呼びかけることや、若者向けの講座を多く開き市民のひとりひとりに浸透させることが必要だと思います。 (未回答、70歳代以上)</p>
<p>経営企画部、政策推進課の存在さえ知りませんでした。男女平等は何事にも平等に扱うべきと思うが、この様なアンケートを取ることも自体、平等ではないことが多いのでしよう。平等でよい事項を知らせ市民の意識高揚を図ったら？政策推進課の役割任務も教わりたい位。 (男性、60歳代)</p>
<p>このアンケートは内容的に若い方もしくは社会に参加している方に向けた質問が多く答えに迷うことが多かったので対象者を年齢からでも選んでいただきたいと思いました。 (女性、70歳代以上)</p>
<p>全てのことを男女平等にとは全然思いません。女性には女性の良い所があり、必ずしも共同参画がベターとは感じていません。自分の立場で出来ることをすべき。 (女性、50歳代)</p>
<p>男性が仕事に携わる期間があまりにも長すぎる。法律等により労働時間の短縮を徹底させ、その分雇用を促進させるとよい。男性が家にほとんどいないのでは家庭生活にかかわりたくても無理。 (女性、40歳代)</p>

封建的な方もいられることや社会や地域で残っている面があるのが感じられます。けれども社会全体が男女平等という事で古い風潮はあるとは言えども、女性が主張して活動も盛んになり認められてきています。私も○印は記入しましたが私の職場はトップが女性学を学んでいる方ですので、私も賛同して差別をあまり感じないです。公共の職場の皆様も同じかなと考えます。古村に生活している方々やご年輩の方にはどうしてもそういう考えの皆様が多いと思われまます。要するに適材適所、平等（男女）である事がベースになります。

(女性、50歳代)

男女共同参画社会の現実には現在の大人（子育てを終えた方々&子育て中の方々）には受け入れ難いことだと思います。育った環境がとても大切で両親の姿をみて子は育ちます。家庭環境の中に子育てしている親自身にその意識がないと根本的に変わらないと思います。今の子育て環境が大切になってくると思います。育った環境や学んだことが正しいことだと自然と幼少期に頭にインプットされるので、教育はとても重要なことだと思います。そこに力を入れた方がいいと思います。私は主人を通してそのことを痛感しております。全て育った家庭環境か両親の影響が大きいです。（お金、子育て、男女平等について）いやな思いをしています子供もいるし自分の選んだ人だから仕方ないです。女は損。がまんの日です。

(女性、30歳代)

お互いの優位性を認め合い職場なり社会生活上で意識することなく行動できるようになればよいと感じます。女性差別の撤廃等、声高に叫ばれるとかえって意識してしまいます。

(男性、60歳代)

生まれつき身体差があるのに、無理に平等を声高に云っても負担が増大するだけである。男女の良いところを見つけて成長する方が、我が社でも仕事うまくいっている。女性は努力をするし、自分に与えられた仕事は集中してこなしている（女性にはなるべく残業しないで帰ることを進めていることもあるので）。

(男性、60歳代)

子供が小学校に入ると、仕事を探す女性が多いのですが、学校に行っている時間はなかなか仕事がありません。更に、夏休みなどの長期休暇、行事後の振替休暇など休みがとれるか、子供を預かってもらえるところがあるかなどで結局働けずじまい。子供を産んだことで「不利だな・・・」と感じない社会が望ましいです。将来の社会を背負う子供達を私達は今、育てているのですから。

(女性、30歳代)

差別はなくすが、区別は必要。

(男性、30歳代)

男と女は体のつくりが違う訳だから、全て平等にはなり得ないにしても、男の役割、女の役割を踏まえつつ、女の人でも能力があれば、それをどんどん活かせる社会にはなってほしいと思います。

(女性、30歳代)

もっと開かれた四街道市役所へ発展して頂きたい。サラリーマンは市政についてあまり知らないことが多すぎるし、また、市側に積極的なアピールがないのでこんなもんだと思いついて暮らしています。地域整備だけでなく開かれた市政への関心を増長して頂きたい。

(男性、50歳代)

このような問題を取り上げ過ぎ、また差別用語が多く良くない。世の中がぎくしゃくしてくる。会話がなくなるのでは。

(男性、60歳代)

<p>・共同参画大いに賛成ではあるが、女性として母親又は経験者として立派な大人とした者を参画させてもらいたい。</p> <p>・昔の主婦は、寒い冬でも川（井戸水）で洗濯し、ホーキや雑巾で掃除をしていたが、電化製品の出現で、現在の主婦は余暇の利用が大いに増え、共同参画を期待したい。</p> <p>・一方、女性の高学歴化に伴い、母親の学歴が先生より上となる人も増え、先生の見下し現象が子供に伝わり、教育（子供）に支障も出てきているのではないかと？</p> <p>・学校の給食費の不払いについても、払える生活をしていても払わないことは、母親が学校を愚弄していると思えない。</p> <p>・鹿児島県にある特攻隊として出撃した若者（20才前後）が最後の手紙を書いているが、宛名は、「お母さんへ」のみである。母親として女性として日本のため、市のためになる人の参画を望む。</p> <p style="text-align: right;">（男性、60歳代）</p>
<p>ワークシェアリングやワークライフバランスについても、設問を設定した方が、より良かったのではと思います。</p> <p style="text-align: right;">（女性、30歳代）</p>
<p>このようなアンケート調査よりも、老人問題、小児化問題の方に強く取り組みをお願いしたい。</p> <p style="text-align: right;">（女性、60歳代）</p>
<p>男女平等といっても、男性、女性は体形や出産などの役割が違うので、全く同じにするのは難しいと思う。社会では女性が働くとなると、家事、育児が出来る範囲で考えていかなければならない人が多い。働かなければ生活できないが、保育園に入所できないなどの問題もある。その辺りも考えてもらいたい。</p> <p style="text-align: right;">（女性、20歳代）</p>
<p>日頃気にしていないことだったので、勉強になった。</p> <p style="text-align: right;">（女性、50歳代）</p>
<p>意識調査は、男女のことにかかわらず子供達などにもあっていいのでは？</p> <p style="text-align: right;">（女性、30歳代）</p>
<p>65才以上の人にはアンケートをさせない方がよろしいのでは。</p> <p style="text-align: right;">（女性、70歳代）</p>
<p>四街道の場合、市報でわかりやすく、取り扱ってほしい。まず皆が知ることから始まるのでは？</p> <p style="text-align: right;">（女性、60歳代）</p>
<p>男女の身体能力の差や、性別上の役割を認め尊重し、サポートしあえる豊かなコミュニケーション社会を望みます。</p> <p style="text-align: right;">（女性、50歳代）</p>
<p>市民全体で考えていくことが現状を変える力になると思う。</p> <p style="text-align: right;">（男性、70歳代以上）</p>
<p>議会（国～市町村まで）にまだまだ女性が少ないと思う。北欧のように女性の割合を決めるなどして増やすべきだと思う。ただ昔に比べ、女性も社会参加しやすい時代になったとは感じている。子育てや介護世代への支援を充実させて魅力あるまちづくりをしていただきたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">（女性、50歳代）</p>
<p>男女平等化・共同参画については戦後随分改善されてきてはいるが、絶対的な活動（意識改革運動等）及び法整備が必要だと思う。人間は保守的な面が強いから。</p> <p style="text-align: right;">（男性、70歳代以上）</p>

<p>女性の人格尊重は当然のことで、今更男女同格云々は、少し神経の使い過ぎではないか。普通の常識的に考えれば済むことで事細かに決めることで、本質的な問題が見失われ混乱を招いているような気がする。例えば、</p> <p>①婦人の呼称が何故いけないのか。男性に対比する呼称がないからということを目にしたが、もし事実なら当事者の意識過剰ではないか。</p> <p>②ジェンダーフリーで男女共用の更衣室にしたいという学校が話題になったが、信じられないことが現実に発生している。</p> <p>このような考え方の背景を解決しないと”仏作って魂入れず”になるのでは。</p> <p>(男性、70歳代以上)</p>
<p>男女共同参画という名前が既に差別撤廃を意識しすぎのイメージでスマートではないと思う。また定義・解釈があいまいである。もう少し現実をふまえた内容にすべきであり、地域・民間企業・官公庁でのギャップまた女性でも労働形態によっても大きく意志のズレはあるはずなので、その差はどうするのでしょうか。</p> <p>(女性、30歳代)</p>
<p>男女共同参画は、昔より進んできていると思うが、社会の大切な方向ですから、一つ一つ確実な施設をお願いします。同時に市民の意識向上も重要と思います。一部に誤解もあると思います。「男女が全てにおいて同じ」的発想で、男性女性それぞれが果たす役割（特に家庭に於いて）が軽んじられている、否、むしろそれが消え失せようとしている傾向があると思います。しっかり見すえて進めるべきと考えます。</p> <p>(男性、60歳代)</p>
<p>若い時代の夢は全くの「ユメ」で、虚弱体質の関係で81歳になり人の為、世の為に関わらず残念であり、社会に申し訳ないと思っています。残りの人生を少しでも家族をはじめ関係者に迷惑をおかけしない生活をと願っています(アンケートの答えにならないことばかり書き並べ失礼しました。御免なさい)。</p> <p>安心して暮らせる社会になって欲しいと思っています。道徳の欠如を思うのですが助け合いや思いやりの心が何処かへ消えたのでしょうか？</p> <p>(女性、70歳代以上)</p>
<p>社会全体で動かないとうまくいかない。役所でいろいろきめても企業とか事業所が徹底的にやらなければ進まないと考える。</p> <p>(女性、60歳代)</p>
<p>男女問わず人権尊重は大変大事なことです。しかしながら男性・女性の本来持ち合わせている本能的な部分はお互いに活かしていくべきだと思う。</p> <p>(女性、50歳代)</p>
<p>現状は、男女平等で女性が多方面に活動している。女性差別なんて考えられない。もし女性差別を言うのであれば中高年の女性の言う言葉であると思う。</p> <p>(男性、70歳代以上)</p>
<p>男女平等という考え方に問題があると思う。正しく理解している人がどのくらいいるのか？と考えさせられることがある。身体的な能力の差をふまえて考えることを前提にしなくてはならないと思うが、それがどこかに追いやられて平等、平等とさわいでいるような気がするのは私だけか？特に子育ては子供が成長するまで(最低でも小学校低学年まで)は母親がかかわるべきだと思う。それが実現できる世の中にすることが大切だと思う。</p> <p>(女性、50歳代)</p>
<p>ジェンダーフリー＝男女平等と言われますが、全ての基準を男女同一にするのは無理があると思います。男性の能力、女性の能力が一番有効に活かされる状態が「平等」だと思いますし、女性の得意分野で男性が劣ると判断されるとか、無理な男女共同作業は、お互い尊敬という気持ちまでなくしてしまうように思います。</p> <p>(男性、30歳代)</p>

<p>社会が複雑化し、生きていくのにストレスをかかえて毎日夜遅くまで働く男、これを書いていて被害者は女ばかりじゃないかとも思えてくる。責任感がありすぎると末は、うつが待っている今の世の中。男であろうと女であろうと社会に参画するのがうとうとしくなるのも仕方ないと思うけど。前向きに生きている人々も大勢いるし、アンケートを役立ててください。</p> <p>(女性、50歳代)</p>
<p>進めていってもらいたが、男性女性としての性の特質は尊重していかなければならないと思います。女性が男性のようになる、男性が女性のようになることではないと思う。</p> <p>(女性、60歳代)</p>
<p>女性だけの事を考えて作られたものも男：女=1：9でバランスがとれなくなる現在は、男：女7：3の所はあると思う。男：女=5：5になることを望む。男も女も人間なので、人間の平等も考えた方がいいと思う。個人的に女、男の数を平等にして考案しないと実現は難しいと思うので、政治家やこのアンケートを読んでいる人に言いたい。</p> <p>(男性、20歳代)</p>
<p>男女の身体的違いから生じる区別や考え方の違いなどと男女差別を取り違えないようにしてほしい。</p> <p>(男性、20歳代)</p>
<p>男女共同参画の主旨については理解と共感があり、今後も推進していくものです。一方で平等感のイメージを与えることで、社会全体の硬直化に結びついている気があります。男女の性差は事実として存在しており、その特性をいい意味で伸ばすことも検討されるべきであると思われます。</p> <p>(男性、60歳代)</p>
<p>このアンケートがナンセンス。もっとましなアンケートをお願いします。すべての年代に向けて同じ働きかけをしてもしょうがない。昭和生まれと平成生まれではまったく環境、個人の感覚も違うはず。あとは、まずは教育に練り込んでいっては何？あとこのアンケートは、私の世帯で私のみでしたが、なぜ私にだけ送付されたのでしょうか？全員にやって下さいよ。</p> <p>(女性、30歳代)</p>
<p>男女共同参画とは、男だから女だからと意識するのでなく、人として、普通に活動できるようにになれば、良いと思います。お互いが尊敬し合い助け合う気持ちを持つよう子供の時から教育していくことこそ、男女共同参画事業だと考えます。</p> <p>(女性、60歳代)</p>
<p>男女は平等であるけれど、男と女は同質ではない。男の役割、女の役割があると思う。</p> <p>(女性、60歳代)</p>
<p>女性が出産する+会社を休む+同じ会社に戻ってくる。 ①大会社では、人数調整で問題は無い。 ②小さい会社では、その間だけ約1年？別の新しい人員を雇用しても、その戻ってくる人は本当に戻ってくるのか？その1年は、パートでまかなうか？人材派遣で約1年戻る人をまつか？戻ってきたらやめてもらうか？ 男女平等社会にするには、問題がたくさんあると思う。</p> <p>(男性、30歳代)</p>
<p>就職活動をしたいと思っても、職がなければ(就職していなければ)保育園に子供を預けられないという保育制度をもう一度見直してもらいたい。</p> <p>(女性、20歳代)</p>
<p>上記の問15の分は知らないという一言につきます。年令のせいもあり、記入できないものが多く申し訳ございませんでした。</p> <p>(女性、70歳代以上)</p>
<p>どちらかと言えば、条件面で平等にするのが望ましく、真の対話が生まれると思う。</p> <p>(男性、50歳代)</p>

基本的に男性主流で働いて欲しい希望なので、女性労働の高額条件は女性が家事から離れる条件では？と考えます。現在の多くの職業のなか個人的な諸条件があって良いのではないかと思います。

(女性、70歳代以上)

男女の生まれ持った差は、しかたがないと思います。お互いの特性や個性を尊重しあいながら助け合うことが必要だと思います。「男だから」「女だから」と決めつけるのではなく、それぞれの特性や個性を認められる社会であってほしいものです。

(女性、40歳代)

自分の責任を果たさずして、自分の権利ばかり主張する人が多すぎると思う。まず、自分の家庭の子供をしっかりと守り育てる(男とか女とかでなく人間として恥ずかしくない人に育てる)、子供の時から地域に育ててもら(ガリ勉ばかりさせていたり、家の中でゲームで遊んでばかりでなく、親と共に地域活動をさせること)、子供達をよい人間として育てて行けば、いずれよい地域・よい日本になると思っています。

(女性、50歳代)

① 女性市職員の部課長など管理職への登用促進。②新規市職員を採用する場合、男女の比率は50%または女性が男性を上回るような配慮を。③「男女共同参画」を実現させるためには、まず市がその実践を手本として市民に示すこと。

(未回答、70歳代以上)

男女共同参画に関係ないと思いますが最近経験した事を記します。  
家屋のトラブルがあり、業者に来てもらい、色々注文しましたが返事がもらえず(女世帯と分り)友人のご主人に来てもらい同じことを言ってもらったら、すぐOKが出て着工となった。なぜ?依頼者が女だから?とってしまう。世の中こんなものですよといわれ、子の代になったら、男女関係なく、ひとりの人間として扱ってと痛感した次第。男性の偏見や考え方を換えてほしいと思う。

(女性、60歳代)

男女共同参画というが、確かに男らしさ・女らしさを強要される社会もよくないけど、男と同じにならなければいけないと言われていたようで、違和感をおぼえる。男か女かを言う前に個人差もあるのだから全員が同じというのは無理な話だ。  
男女雇用機会均等法は、良い面もあったが、悪い面もたくさんある。  
活動に積極的な人というのは極端過ぎる主張が多くて正直ついていけない。

(女性、30歳代)



---

## III. 調查票

---



# 四街道市 男女共同参画市民意識調査

日頃より、市政にご協力いただきありがとうございます。

このアンケート調査は、ひとりひとりの人権が尊重され責任を分かち合い、男女がともに個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の形成に対して、市民のみなさんがどのような意見をお持ちなのか、また、「男女共同参画」実現のためにどのような取り組みが求められているのかなどについてお聞きし、性別に関わりなく暮らしやすい四街道市のまちづくりを進めていくために実施するものです。

市民のみなさんのご意見を反映した市政を推進するため、ご理解とこのアンケート調査へのご協力をお願いいたします。

平成19年9月 四街道市長 高橋 操

## 個人情報を守ります

この調査に関わるデータを他の目的に使用することはありません。また、回答していただいた結果は「〇〇〇人中〇〇〇人の人がこのように答えています。」という形で整理し、回答者個人のお名前やデータが公表されることは決してありません。ふだんから考えていること、感じていることをお答えください。

## ご記入上のご注意

1. 質問は、選択肢の中から回答される方の考えに最も近いものを選ぶ「選択式」になっています。あてはまる番号を選び○で囲んでください。また、選択肢の中にはない場合は「その他」の欄に具体的に記入してください。
2. 質問によって、回答していただく方が限られる場合があります。各質問の内容を確認のうえお答えください。

## 調査結果について

調査結果については、市政だより等に掲載してお知らせします。

また、平成21年度からの次期「男女共同参画推進計画」策定のための基礎資料として活用します。

### ■ご返送に関するお願い

- ・このアンケート用紙にご記入いただきましたら、恐縮ですが、9月20日(木)までに同封の返信用封筒(切手不要)にてご投函ください。

### ■お問合せ先：四街道市役所 経営企画部政策推進課

電話 043-421-6161 (直通)

## はじめに、あなた自身のことについておうかがいします。

統計処理を行うために必要な情報ですので、全員の方がお答えください。(回答日現在)

①～③の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

① 性別	1. 男性	2. 女性	
② 年代	1. 20 歳代	2. 30 歳代	3. 40 歳代
	4. 50 歳代	5. 60 歳代	6. 70 歳代以上
③ ご職業	1. 農業	2. 自営業（商・工・サービス業など）	
	3. 勤め人（会社員・公務員など）	4. 自由業（医師・弁護士・作家など）	
	5. パート・アルバイト	6. その他の職業（ ）	
	7. 無職	8. 専業主婦・専業主夫	
	9. 学生		

## 男女平等に対するお考えをおうかがいします。

問1（1） あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑦の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

項 目	優遇されている 男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平 等	どちらかといえ ば 女性の方が優遇さ れている	優遇されている 女性の方が非常に 優遇されている
① 家庭生活の中で	1	2	3	4	5
② 職場で	1	2	3	4	5
③ 学校教育の場で	1	2	3	4	5
④ 政治の場で	1	2	3	4	5
⑤ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
⑥ 社会通念・慣習・しきたりなどにおいて	1	2	3	4	5
⑦ 社会全体として	1	2	3	4	5

問1 (2) あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。1つ選んで○をつけてください。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

問2 (1) 男女が、互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別に関わりなく、個性と能力を十分に発揮することができる社会を男女共同参画社会といいます。あなたは、男女共同参画を進める必要があると思いますか。1つ選んで○をつけてください。

- |                   |   |            |
|-------------------|---|------------|
| 1. 積極的に進める必要がある   | } | 問2 (2) へ   |
| 2. ある程度進める必要はある   |   |            |
| 3. 今の取り組みを継続すればよい |   | → 問2 (3) へ |
| 4. その他(具体的に       |   | )          |

問2 (2) (1)で「1. 積極的に進める必要がある」、「2. ある程度進める必要はある」と回答した方にうかがいます。その理由を、3つまで選んで○をつけてください。

1. 人を性別によって区別する考え方や慣習があるから
2. 意思決定の場への参加など女性の社会進出が遅れており、女性の発言力が弱いから
3. 職場などで女性の能力が正しく評価されていないから
4. 男性と女性の役割や特性は異なるという考え方や慣習があるから
5. 家庭内の家事、育児、介護などは女性の役割という考えがあるから
6. 家庭や学校での、男の子と女の子に対する教育方針やしつけの区別があるから
7. 社会全般に男性優位の考え方や慣習が根強いから
8. その他(具体的に

問2 (3) (1)で「3. 今の取り組みを継続すればよい」と回答した方にうかがいます。その理由を、2つまで選んで○をつけてください。

1. すでに男女平等になっているから
2. 事実上、女性の方が発言力が強くなっているから
3. 男性と女性では身体や能力の差、性別上の適性に応じた役割があるから
4. 女性は男性に従うべきという古くからのしきたり、価値観があるから
5. その他(具体的に

## 家庭生活についておうかがいします。

問3 現在、配偶者等パートナーと暮らしている方にうかがいます。過去の経験を含めてお答えください。あなたの家庭では、①～⑧にあげるような家事を、主にどなたがしていますか。（または、していましたか。）実態と理想について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。「夫」は男性パートナー、「妻」は女性パートナーを含むものとします。

### 【実 態】

項 目	ほとんど妻	ほとんど夫	どちらかといえば妻	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	該当なし
① 食事のしたく・あとかたづけ	1	2	3	4	5	6	
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	
③ 食料品・日用品等の買い物	1	2	3	4	5	6	
④ 不動産など高価な買い物	1	2	3	4	5	6	
⑤ 家計費の管理	1	2	3	4	5	6	
⑥ 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 子どもの学校の委員や行事等への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 介護や看護を要する家族の世話	1	2	3	4	5	6	7

### 【理 想】

項 目	ほとんど妻	ほとんど夫	どちらかといえば妻	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	該当なし
① 食事のしたく・あとかたづけ	1	2	3	4	5	6	
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	
③ 食料品・日用品等の買い物	1	2	3	4	5	6	
④ 不動産など高価な買い物	1	2	3	4	5	6	
⑤ 家計費の管理	1	2	3	4	5	6	
⑥ 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 子どもの学校の委員や行事等への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 介護や看護を要する家族の世話	1	2	3	4	5	6	7

問4 あなたは子どもの性別と子育てのあり方についてどう思いますか。①～⑤の各項目について、あなたの考えに近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

項 目	そう思う	どちらかといえば そう思う	そう思わない	どちらかといえば そう思わない	どちらとも言えない
① 男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい	1	2	3	4	5
② 子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除など生活に必要な技術を身につけさせたい	1	2	3	4	5
③ 女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり優しさなどを備えることを求めたい	1	2	3	4	5
④ 性別に関係なく、子どもの個性と意思を大事に伸ばしたい	1	2	3	4	5
⑤ 男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせたい	1	2	3	4	5

問5 もしあなたが、高齢や病気障害のために介護が必要となった場合、どうされたいですか。1つ選んで○をつけてください。現在、介護を受けている方は現状をお答えください。

1. 在宅で、主に配偶者（パートナー）に世話をしてもらう
2. 在宅で、主に訪問介護サービスや通所介護サービスを利用する
3. 在宅で、主に子どもや子どもの家族に世話をしてもらう
4. 介護が受けられる福祉施設や医療施設に入所する
5. 在宅で、家族の世話、訪問介護・通所介護サービスなど、さまざまな方法を組み合わせる
6. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

## 就業のあり方や現状についておうかがいします。

問6 女性の就業のあり方についてうかがいます。①～③について、あなたの考えにもっとも近いもの1つを選んで○をつけてください。

① あなた（男性の場合は「妻・パートナー」）の働き方として理想とする形はどれですか。

1. 結婚して子どもができて、職業を持ち続ける
2. 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く
3. 子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する
4. 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する
5. わからない
6. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

② 現実にあなた自身（男性の場合は「妻・パートナー」）の働き方はどれにあたりますか（単身の方は、パートナーと暮らす場合どの形になると思われますか）。

1. 結婚して子どもができて、職業を持ち続ける
2. 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く
3. 子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する
4. 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する
5. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

③ あなたの娘など次世代の女性の働き方として、望ましいと思われる形はどれですか。

1. 結婚して子どもができて、職業を持ち続ける
2. 子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く
3. 子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する
4. 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する
5. わからない
6. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

問7 現在、就労をしている方にうかがいます。あなたの職場では次に掲げるようなことがありますか。  
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |                                      |                       |
|--------------------------------------|-----------------------|
| 1. 募集や採用に性別による格差がある                  | 2. 賃金・昇給で性別による格差がある   |
| 3. 昇進、昇格で性別による格差がある                  | 4. 雇用形態に性別による偏りがある    |
| 5. 時間外労働に性別による格差がある                  | 6. 定年に性別による格差がある      |
| 7. 深夜業に性別による格差がある                    | 8. 住宅資金の貸付に性別による格差がある |
| 9. 配置や仕事の与え方に性別による格差がある              |                       |
| 10. 教育訓練や研修などに性別による格差がある             |                       |
| 11. 結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある |                       |
| 12. 性別による格差は感じない                     |                       |

## 地域活動への参加についておうかがいします。

問8 (1) あなたは、現在、地域活動に参加していますか。1つ選んで○をつけてください。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 参加している  | → 問8 (2) へ |
| 2. 参加していない | → 問8 (3) へ |

問8 (2) (1)で、「1. 参加している」と回答した方にうかがいます。①～⑪にあげる地域活動のうち、どの分野の活動に参加していますか。「企画から実行まで参画している活動」と「部分的に参加している活動」のそれぞれについて、あてはまるものをすべてに○をつけてください。

項 目	企画から実行まで参画	部分的に参加
① スポーツ・教養・文化の活動	1	2
② 町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブなどの活動	1	2
③ 保育園・学校等の保護者会・PTA 活動、子ども育成会活動	1	2
④ 社会福祉分野の活動	1	2
⑤ 自然保護・公害防止・ゴミ対策など環境分野の活動	1	2
⑥ 保健・医療分野の活動	1	2
⑦ 国際交流・多文化共生・国際協力に関する活動	1	2
⑧ 男女共同参画分野の活動	1	2
⑨ 消費生活分野の活動	1	2
⑩ 市政への参画・官民協働の活動	1	2
⑪ その他(具体的に )	1	2



問8 (3) (1)で、「2. 参加していない」と回答した方にうかがいます。その理由を、2つまで選んで○をつけてください。

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 仕事が忙しい            | 2. 家事・育児が忙しい          |
| 3. 家族の理解がない          | 4. 家族に高齢者・病人がいる       |
| 5. 身近に活動する仲間・場所などが無い | 6. 情報が少なく、参加の仕方がわからない |
| 7. 参加したい活動が見つからない    | 8. 人間関係がわずらわしい        |
| 9. 健康に自信がないため        | 10. 高齢のため             |
| 11. 関心がない            | 12. 経済的に余裕がない         |
| 13. 特に理由はない          | 14. その他 ( )           |

問9 あなたは、今後、地域活動に参加したいと思いますか（現在参加している方は、引き続き参加したいと思いますか）。①～⑪の各活動について1つずつ選んで○をつけてください。

項 目	企画から 実行まで 参画したい	部分的に 参加した い	参加 したくない
① スポーツ・教養・文化の活動	1	2	3
② 町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブなどの活動	1	2	3
③ 保育園・学校等の保護者会・PTA 活動、子ども育成会活動	1	2	3
④ 社会福祉分野の活動	1	2	3
⑤ 自然保護・公害防止・ゴミ対策など環境分野の活動	1	2	3
⑥ 保健・医療分野の活動	1	2	3
⑦ 国際交流・多文化共生・国際協力に関する活動	1	2	3
⑧ 男女共同参画分野の活動	1	2	3
⑨ 消費生活分野の活動	1	2	3
⑩ 市政への参画・官民協働の活動	1	2	3
⑪ その他（具体的に )	1	2	3

## 社会生活と家庭生活のバランスについておうかがいします。

問 10 あなたの現在の、職業生活と、家庭生活や町内会やボランティアなどの地域活動への関わり方は1～5のうちどれにあてはまりますか。1つ選んで○をつけてください。

1. ほぼ職業生活に専念している
2. 家庭生活や地域活動にも携わっているが、職業生活を優先させている
3. 家庭生活や地域活動と職業生活に同じくらい携わっている
4. 職業にも携わっているが、家庭生活や地域活動を優先させている
5. ほぼ家庭生活や地域活動に専念している

問 11 男女が共に、職業生活と家庭生活や地域活動を両立できるようにするための取り組みとして必要と思われるものを①、②の各項目についてお答えください。

① 取り組みが必要な分野、問題点（3つまで選んで○をつけてください）

1. 職場での性別による差別の禁止の徹底
2. 出産・育児・介護に係る休暇、休業を取得しやすい環境や制度の普及
3. 出産・育児・介護に係る休暇、休業をとっても元の職場や仕事に戻れる制度の普及徹底
4. 短時間勤務や在宅勤務などの普及
5. パートタイマー、派遣、勤務地を限定した採用など正社員以外の多様な働き方の普及
6. 働く場で女性の活躍を促進するための優先的な支援、女性管理職の増加
7. 女性の就職・復職・昇進や起業のための学習や訓練機会の充実
8. 男性の育児休業・介護休業の取得、家庭との両立をうながす制度の普及
9. 保育サービスの充実
10. 常勤で働いていない人や求職中の人などでも利用できるような、保育サービスの利用条件の柔軟化
11. 子育て、介護などに関する市民同士のつながり、交流の促進
12. 子育て、介護など家庭責任と職業の両立に関する相談サービスの提供
13. その他（具体的に

)

② 問題点に対応するための具体的な公的取り組み（2つまで選んで○をつけてください）

1. 職業生活と家庭生活の両立に対する社会全体の認識づくり
2. 差別禁止、両立支援のための法律、制度の強化
3. 企業等事業所に対する職業生活と家庭生活の両立に関する働きかけ
4. 企業等事業所の、職業生活と家庭生活の両立のための取り組みへの助成金などの支援
5. 出産・育児・介護に関する公的なサービスの充実
6. 出産・育児・介護に関するサービス利用者の、助成金や税控除など経済負担の軽減
7. 女性の就職や復職、起業に対する支援
8. 両立支援を行う公的な機関の整備
9. その他（具体的に ）

## 女性の人権についておうかがいします。

問 12 「女性の人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか。あてはまるものすべてに○をつけください

1. レイプ（強姦<sup>かん</sup>）、痴漢などの性犯罪
2. 職場や学校などでのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）
3. ストーカーなどの女性へのつきまとい行為
4. 家庭内での夫（男性パートナー）からの妻（女性パートナー）への暴力
5. 買春・売春・援助交際
6. 夫婦間での一方的な性関係の強要
7. 風俗店など性産業
8. ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真など、女性を性的対象とするような表現
9. 職場での男性との待遇の差
10. 家事労働の女性への偏り
11. 「婦人」「未亡人」「女流」など女性にだけ用いられる言葉
12. その他（具体的に ）

問 13 セクシュアル・ハラスメントについてうかがいます。お答え頂ける方のみ、回答をお願いします。

セクシュアル・ハラスメントは、社会的な力関係を濫用して相手の心と身体を傷つけ、ひいては、働く権利や学ぶ権利をも脅かす行為です。次に示す①～⑩は、セクシュアル・ハラスメントと見なされます。あなたは、これまでに、職場、学校、地域それぞれの場面において、①～⑩のような経験をして不快・苦痛な思いをしたことがあれば、あてはまるものすべてに○をつけください。

項 目	職 場 で 経 験 し た	学 校 で 経 験 し た	地 域 活 動 の 場 で 経 験 し た
① 不必要に体を触られた	1	2	3
② 交際や性的関係をせまられた	1	2	3
③ 交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた	1	2	3
④ 宴会でお酌やデュエットを強要された	1	2	3
⑤ ノード写真などを故意に見せられた	1	2	3
⑥ 性的なうわさを流された	1	2	3
⑦ しつこく容姿のことを言われた	1	2	3
⑧ 異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	1	2	3
⑨ 性的な冗談や会話につきあわされた	1	2	3
⑩ メールに、「かわいいね」とか「食事に付き合っ」といったことが送られてきた	1	2	3

問 14 ドメスティック・バイオレンス（DV）についてうかがいます。お答え頂ける方のみ、回答をお願いします。

ドメスティック・バイオレンスは、夫婦や恋人など近い関係の中での暴力、すなわち相手を傷つける強制を言い、そのほとんどは、男性から女性に対して行われます。あなたは配偶者や恋人から暴力を受けたことがありますか。①～④の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

項 目	頻 繁 に 受 け て い る	何 度 か 経 験 が あ る	過 去 に 経 験 し た が 今 は な い	経 験 が な い
① 精神的な暴力（無視する、なじる、おとしめる、おどす、行動や交友関係などを監視したり、禁止するなど）	1	2	3	4
② 肉体的な暴力（殴る、蹴る、ものを壊すなど）	1	2	3	4
③ 性的な暴力（望まない性行為の強要、避妊への非協力など）	1	2	3	4
④ 経済的な暴力（共同生活に必要な費用を出さない、借金の返済を押しつけるなど）	1	2	3	4

問 15 あなたが、見たり聞いたりしたことがあるものについて、①～⑯の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

項 目	内 容 を 知 っ て い る	名 前 を 聞 い た こ と が あ る	知 ら な い
① 男女共同参画	1	2	3
② 男女共同参画社会基本法	1	2	3
③ DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	1	2	3
④ 男女雇用機会均等法	1	2	3
⑤ 国の「男女共同参画基本計画(第2次)」	1	2	3
⑥ 千葉県男女共同参画計画(第2次)	1	2	3
⑦ 千葉県女性サポートセンター	1	2	3
⑧ ちば県民共生センター	1	2	3
⑨ 千葉県男女共同参画苦情処理委員制度	1	2	3
⑩ 四街道市男女共同参画推進計画	1	2	3
⑪ 四街道市女性相談事業	1	2	3
⑫ ファミリー・サポート・センター	1	2	3
⑬ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
⑭ 家族経営協定	1	2	3
⑮ 女子差別撤廃条約	1	2	3
⑯ ジェンダー(社会的性別)	1	2	3

◆おわりに、男女共同参画の実現に向けて、ご意見やご要望がございましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。アンケート用紙は同封の封筒に入れ、切手を貼らずに、お手数ですが9月20日(木)までに、最寄りの郵便ポストに投函してください。

## 四街道市男女共同参画市民意識調査報告書

平成20年3月 発行

■発行 四街道市経営企画部政策推進課  
〒284-8555  
四街道市鹿渡無番地  
(電話) 043-421-2111 (代表)

■調査・製作 株式会社 ちばぎん総合研究所 受託調査部  
〒263-0043  
千葉市稲毛区小仲台 2-3-12  
(電話) 043-207-0621